

平成 29 年度

シラバス



鳥取看護大学
Tottori College of Nursing

目 次

科目区分	開講時期	科目名	担当者	ページ		
基礎分野	1年	前期	スタディスキル	荒井 優 他	1	
			日本語表現	土居 裕美子	2	
			人間学	荒井 優	3	
			心理学	河村 壮一郎	4	
			教育学	前田 舞子	5	
		化学	増本 年男	6		
		統計学	祝部 大輔	7		
		情報処理Ⅰ	野津 伸治	8		
		英語A（基礎英語）	アイヴァン ティンブレル	9		
		健康科学	逢坂 秀樹	10		
		実践スポーツ（バスケット&バレーボール）	逢坂 秀樹	11		
	実践スポーツ（ニュースポーツ）	近藤 剛	12			
	後期	宗教学	荒井 優	13		
		日本国憲法	岩井 和由	14		
		多文化共生論	池谷 千恵	15		
		山陰論	荒井 優 他	16		
		情報処理Ⅱ	野津 伸治	17		
		日本語表現演習	土居 裕美子	18		
		英語B（英文講読）	大谷 拓	19		
		中国語	川口 斐斐	20		
		韓国語	賈 惠京	21		
		実践スポーツ（卓球・バドミントン）	逢坂 秀樹	22		
	実践スポーツ（テニス・バドミントン）	近藤 剛	23			
	2年	前期	住環境論	倉恒 俊一	24	
			英語C（英会話）	アイヴァン ティンブレル	25	
		後期	文学	土居 裕美子	26	
			手話	戸羽 伸一	27	
	専門支持分野	1年	前期	人体の構造と機能A	早川 大輔	28
				人体の構造と機能C	早川 大輔、荒川 満枝	29
				生物学	増本 年男	30
				臨床心理学	竹田 伸也	31
人間関係論				河村 壮一郎	32	
後期			人体の構造と機能B	早川 大輔	33	
			人体の構造と機能D	早川 大輔、荒川 満枝	34	
			発達心理学	南 潮	35	
			ホスピタリティ論	山脇 彰子、山本 智子	36	
			公衆衛生学	細田 武伸	37	
2年		前期	代謝学・栄養学	加古 大也	38	
			看護病態学	荒川 満枝	39	
			看護病態学演習	荒川 満枝	40	
			生殖と倫理	見尾 保幸	41	
			感染免疫学	荒川 満枝	42	
		後期	薬理学	森内 葉子	43	
			疾病論B	西川 健一 他	44	

科目区分	開講時期	科目名	担当者	ページ		
専門支持分野	2年	後期	社会福祉・社会保障論	(未定)	45	
			人権論	荒益 正信	46	
	家族社会学		野津 和功	47		
	通年	コミュニティ論	(未定)	48		
		疾病論A	芦田 耕三、森尾 泰夫	49		
専門基礎分野	1年	前期	看護学概論	近田 敬子	50	
			基盤看護技術A	田中 響 他	51	
			生活健康論	近田 敬子	52	
		後期	生活健康論実習	近田 敬子 他	53	
			基盤看護技術B	田中 響 他	54	
			看護ケア論	田中 響	55	
	2年	前期	地域基礎看護学	矢倉 紀子	56	
			フィールド体験実習	近田 敬子 他	57	
			看護倫理学	前田 陽子	58	
		後期	基盤看護技術D	田中 響 他	59	
			基盤看護学実習	近田 敬子 他	60	
専門実践分野	2年	前期	基盤看護技術C	田中 響 他	61	
			成人看護学概論	前田 陽子	62	
			成人看護学援助論A	前田 陽子	63	
			小児看護学概論	小村 三千代	64	
		母性看護学概論	前田 隆子	65		
	3年	前期	成人看護学援助論B	前田 陽子	66	
			成人看護学援助論C	堀江 千恵、池田 牧	67	
			小児看護学援助論	小村 三千代	68	
			母性看護学援助論	前田 隆子	69	
			成人看護学実習A	永見 純子、平野 裕美 他	70	
		後期	成人看護学実習B	村口 孝子、出石 幸子 他	71	
			小児看護学実習	小村 三千代 他	72	
			母性看護学実習	前田 隆子 他	73	
			地域包括支援分野	2年	前期	老年看護学概論
	後期	在宅看護学概論	(未定)		75	
	3年	前期	公衆衛生看護学概論	矢倉 紀子	76	
			老年看護学援助論	高田 美子	77	
			精神看護学概論	安田 美彌子	78	
			精神看護学援助論	中川 康江	79	
在宅看護学援助論			(未定)	80		
後期		地域連携・協働支援論	近田 敬子 他	81		
		まちの健康論	近田 敬子	82		
		疫学	細田 武伸	83		
		老年看護学実習	高田 美子 他	84		
		精神看護学実習	安田 美彌子 他	85		
看護統合分野	2年	前期	家族看護学	前田 隆子	86	
			リスクマネジメント論	中村 登美子	87	
		後期	リフレクション論と実践	田中 響	88	
	災害看護論		美船 智代	89		
	3年	前期	看護活動と研究	田中 響	90	

科目区分	開講時期		科目名	担当者	ページ
看護統合分野	3年	前期	生活リハビリテーション論	山根 隆治	91
			国際看護論	(未定)	92
保健師教育分野	2年	後期	保健統計学	黒沢 洋一	93
		3年	前期	学校保健	岡本 幹三
	産業保健			細田 武伸	95
	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ			矢倉 紀子	96

科目番号	111001			担当教員	荒井 優 他	
授業科目名	スタディスキル			E-mail		
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修		資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間 (1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	<p>大学生として必要な「知の技法」を身につける。大学での学び方(授業の受け方、ノートテイキング、資料の整理など)、図書館やインターネットを利用した文献検索や情報収集の方法、発表や討議の仕方を学ぶ。専任教員が授業を担当し、少人数グループ形式で具体的な課題に取り組む。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 大学における学びの意義とその方法を理解する。 看護職として生涯学び続ける意識を確立する。 学ぶ目標を明確にして主体的に学ぶ姿勢を身につける。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	ガイダンス、レポートの書き方、文章のまとめ方	講義	レポートの書き方、文章のまとめ方等について確認し、今後の学修に活用する。	2時間		
2	グループ研究(1)テーマ選定	講義	グループで設定したテーマについて、資料検索をおこない積極的に調べる。	2時間		
3	グループ研究(2)役割分担	講義	グループで計画を立てて調整し役割分担し、連携・協働する。	2時間		
4	グループ研究(3)資料調査	講義	自分が担当するテーマについて、新聞・テレビ・インターネット・文献等を通して調査する。	2時間		
5	グループ研究(4)現地調査	講義	自分が担当するテーマについて、引き続き調査し、必要な場合は現地調査する。	2時間		
6	グループ研究(5)ディスカッション	講義	グループで調査結果を報告し、ディスカッションする。	2時間		
7	グループ研究(6)まとめ	講義	グループでレポート等にまとめ、発表する準備を行う。	2時間		
8	グループ研究発表会	講義	グループワークを通して学んだことを振り返り、自分なりの次の課題を見出す。	2時間		

先行履修科目	
テキスト	授業で使用する学者の文献引用はテキストとしてプリント配布する。
参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介する。
評価方法	レポート 60%、授業態度 10%、グループ発表 30%
注意事項	大学では、高校生活とは違い、自分で考え選択し行動する。その結果に自己責任をもつことが求められる。将来の看護職をめざして、有意義な学びの基盤を固めておこう。

科目番号	111002			担当教員	土居 裕美子	
授業科目名	日本語表現			E-mail	ydoji@ns.lcn.ac.jp	
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 介護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生が受入(受入可能人数)		可(5名)				
授業の概要	論理的でわかりやすい文章を書いたり、文章の内容を効率的に読み取ったりするために必要な知識、技能を学ぶ。言語表現が、他者を思いやる想像力と密接に関連していることを理解し、周囲と連携・協働できる職業人として円滑な人間関係を構築するための能力を身につける。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な語句の意味や用法を理解し、適切に使用することができる。 文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを説得力ある方法で表現することができる。 他者を意識した表現の学びを通して、自らの視野を広げ、思考を深めることができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション 授業概要・到達目標・評価基準 授業の進め方についての説明	講義	自身のこれまでの「表現」との関わりを振り返る 本講義の概要と到達目標を自身に関連付けて理解する	2時間		
2	読み取る力を鍛える(1) 新聞記事の要約	講義	【予習】配付された新聞記事を要約し、記事の特徴について考える 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間		
3	読み取る力を鍛える(2) 意見文の要約	講義	【予習】配付された意見文を読み、分からない言葉を調べた上で、要約する 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間		
4	読み取る力を鍛える(3) 論説文の要約	講義	【予習】配付された論説文を読み、分からない言葉を調べた上で、要約する 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間		
5	聞き書き演習(1) 傾聴の姿勢	講義 演習	【予習】配付された資料を読み、「聞き書き」について理解する 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間		
6	聞き書き演習(2) 聞き書きの文体	講義 演習	【予習】配付された練習問題に取り組み、聞き書きの文体について理解する 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間		
7	聞き書き演習(3) インタビューと文字化(1)	講義 演習	【予習】配付された資料を読み、インタビューする内容について構想を立てる 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
8	聞き書き演習(4) インタビューと文字化(2)	講義 演習	【予習】インタビューした内容を文字化する 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間	
9	聞き書き演習(5) 聞き書き作文の発表	講義 演習	【予習】他者の意見をもとに、作文を修正する 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間	
10	説明する力を鍛える(1) 凶形・道順を説明する	講義	【予習】凶形・道順の説明文を作成する 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間	
11	説明する力を鍛える(2) 手順・方法を説明する	講義	【予習】手順・方法の説明文を作成する 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間	
12	ことばと表現(1) 敬語と待遇表現	講義	【予習】敬語と待遇表現問題 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間	
13	ことばと表現(2) 想像力と表現力	講義	【予習】配付された絵を見て文章を作る 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間	
14	ことばと表現(3) 空想力と表現力	講義	【予習】配付された絵を見て文章を作る 【予習・復習】日本語力小テスト	2時間	
15	まとめと振り返り	講義	到達目標への到達度を自己評価した上で、次につながる目標を立てる	2時間	
先行履修科目					
テキスト	テキストは特に指定せず、ハンドアウトを配付する。				
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。				
評価方法	レポート 50%、授業態度 30%、提出物 20%				
注意事項	予習が重要です。課題を示した「プレアクションシート」を活用してください。毎時授業で指定した範囲の漢字・語彙を中心とした日本語力小テストを行います。				

科目番号	112001			担当教員	荒井 優	
授業科目名	人間学			E-mail		
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)		可(若干名)				
授業の概要	「人間とは何か」、「人間はどう生きるべきか」という問いは、古来から今日にいたる永遠の問題である。授業では、「人間とは何か」「人生の意味とは何か」「死にどう向き合うか」について自分自身で考えるための手がかりとなるような、いくつかの人間観・人生観・価値観について紹介する。看護職としての自己形成・人生形成のヒントにしてほしい。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 授業で紹介する思想家の人間観を理解し、自分の人間観を深める。 自分と自分の人生に向き合い、これからの自己形成・人生形成のヒントを得る。 自殺や絶望、病気や障がいの意味について、自分なりの考えを整理する。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	ユングの深層心理(1)意識と無意識(無意識の構造)	講義	自分を振り返り、無意識の中に何があるか、自分なりに振り返ってみる。	2時間		
2	ユングの深層心理(2)ペルソナ	講義	「自分(自我)」とは何か、自分なりに考えておく。	2時間		
3	ユングの深層心理(3)アニマ・アニムス(恋愛論)	講義	「恋する」とはどういうことか、そのメカニズムについて自分なりに考えておく。	2時間		
4	ユングの深層心理(4)自己	講義	自分に向き合いながら、授業内容を理解し、自分の経験をレポートにまとめる。	2時間		
5	マズローの「欲求」論	講義	マズローの「欲求」論について、予め自分なりの理解を持つておく	2時間		
6	エリクソンの「ライフサイクル」論	講義	エリクソンの「ライフサイクル」論について、予め自分なりの理解を持つておく	2時間		
7	キューブラー=ロスの「死ぬ瞬間」(1)死生学について	講義	テキストを事前に読んでおき、自分なりの理解を持つておく。	2時間		
8	キューブラー=ロスの「死ぬ瞬間」(2)「否認」「怒り」「取り引き」	講義	テキストを事前に読んでおき、自分なりの理解を持つておく。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	キューブラー=ロスの「死ぬ瞬間」(3)「抑鬱」	講義	テキストを事前に読んでおき、自分なりの理解を持つておく。	2時間	
10	キューブラー=ロスの「死ぬ瞬間」(4)「受容」	講義	自分に向き合いながら、授業内容を理解し、自分の経験をレポートにまとめる。	2時間	
11	「寄り添い」について	講義	自分に向き合いながら、授業内容を理解し、具体的な事例を探し、レポートにまとめる。	2時間	
12	ヴィクトル・フランクの「人生の意味」(1)フランクル精神医学の特徴	講義	テキストを事前に読んでおき、自分なりの理解を持つておく。	2時間	
13	ヴィクトル・フランクの「人生の意味」(2)コペルニクス的転回	講義	テキストを事前に読んでおき、自分なりの理解を持つておく。	2時間	
14	ヴィクトル・フランクの「人生の意味」(3)人生の3つの価値	講義	テキストを事前に読んでおき、自分なりの理解を持つておく。	2時間	
15	ヴィクトル・フランクの「人生の意味」(4)超意味	講義	自分に向き合いながら、授業内容を理解し、自分の経験をレポートにまとめる。	2時間	
先行履修科目					
テキスト	授業で使用する学者の文献引用はテキストとしてプリント配布する。				
参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介する。				
評価方法	レポート70%、授業態度10%、提出物20%				
注意事項	人生の不幸や人生の苦しみは、往々にして「自分」自身から発していることが多い。価値観が変わることによって自分自身が変わる。哲学者や心理学者、精神医学者などの人間観を通して、まずは自分自身に向き合おう。				

科目番号	112002			担当教員	河村 壮一郎	
授業科目名	心理学			E-mail		
開講年次	1年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)		可(3名)				
授業の概要	人間の心理や行動の基本的なはたらきやしきについて全般的に学習するとともに、実証データに基づいて客観的に把握する方法を学びます。また、心理学の理論や概念を日常生活や看護での具体的な事例と関連づけて心について理解を深めます。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 心理学全般の基本的な理論や概念説明できる。 日常の行動について心理学の知識を用いて解釈することができる。 人間の心理を積極的、客観的に理解しようとする態度をもっている。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	心理学入門 各領域、研究方法、歴史	講義	【復習】授業の中で紹介した方法を用いて、更に詳しく知りたいとについて調べる。	0.5時間		
2	知覚 図と地、恒常性、文脈効果	講義	【復習】テキスト p. 68 学習課題(1)	0.5時間		
3	記憶1 感覚記憶、短期記憶、長期記憶	講義	【予習】テキスト p. 87 学習課題(1)	0.5時間		
4	記憶2 忘却、変容	講義	【復習】テキスト p. 87 学習課題(2)	0.5時間		
5	思考 演繹推理、帰納推理、問題解決	講義	【復習】テキスト p. 105 学習課題(1)	0.5時間		
6	動機づけ 欲求階層説、親和行動、達成行動	講義	【復習】テキスト p. 146 学習課題(1)	0.5時間		
7	フラストレーション コンフリクト、解決行動	講義	【予習】テキスト p. 146 学習課題(3)	0.5時間		
8	感情 感情の喚起、感情表出	講義	【復習】テキスト p. 126 学習課題(2)	0.5時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	学習 条件づけ、観察学習	講義	【復習】テキスト p. 236 学習課題(1)	0.5時間	
10	発達 発達段階、アタッチメント、自己意識	講義	【復習】テキスト p. 259 学習課題(1)	0.5時間	
11	パーソナリティ 類型論、特性論	講義	【復習】テキスト p. 281 学習課題(1)	0.5時間	
12	パーソナリティの理解 質問紙法、投影法	講義	【復習】テキスト p. 281 学習課題(3)	0.5時間	
13	社会的行動 集団、同調、リーダーシップ	講義	【復習】テキスト p. 186 学習課題(3)	0.5時間	
14	社会的適応 ストレスと対処行動、カウンセリング	講義	【復習】テキスト p. 302 学習課題(3)	0.5時間	
15	総合論議	講義	【予習】授業の中で疑問に思ったことを質問するように用意すること。	0.5時間	
先行履修科目					
テキスト	「テキスト心理学 心の理解を求めて」 橋本憲尚編著 ミネルヴァ書房				
参考文献					
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%				
注意事項					

科目番号	112003		担当教員	前田 舞子	
授業科目名	教育学		E-mail		
開講年次	1年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(若干名)				
授業の概要	<p>教育の理念と目的および家庭、学校、社会それぞれの教育の特質と役割を学ぶことにより、教育一般についての知識を深め、教育への関心を高める。また、人間の発達や学習について理解することにより、自分と異なる他者を理解し配慮するための素地を身につける。さらに、指導の基本となる知識と技能を身につけることにより、指導者としての役割を担える力を養う。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の基本的な知識を学び、それらについて説明をすることができる。 ・指導の基本について理解し、指導計画を立案・実践・評価することができる。 ・他者との関わり方を省察し、他者を配慮することができる。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
1	人間の成長と教育の意義(テキスト第1章)	講義	予習:テキスト第1章を読む 復習:教育学を学ぶ意義について整理する	1時間	
2	教育の特質と役割 教育をめぐる諸課題の検討	講義	予習:看護師が教育学を学ぶことの意義について考える 復習:配布された資料を読む	1時間	
3	人間の発達を理解する(第2章)	講義	予習:テキスト第2章を読む 復習:テキスト第2章のワークに取り組む	1時間	
4	教育に成功と失敗はあるのか	講義	予習:自身の被教育体験を振り返り、成功例と失敗例を考える 復習:授業で扱われた内容を、成功/失敗という観点から整理する	1時間	
5	学習の原理を理解する(第3章)	講義	予習:テキスト第3章を読む 復習:テキスト第3章のワークに取り組む	1時間	
6	指導の基本①指導者の役割と姿勢(第4章)	講義	予習:テキスト第4章を読む 復習:テキスト第4章のワークに取り組む(提出)	1時間	
7	指導の基本②指導を設計する(第5章)	講義	予習:テキスト第5章を読む 復習:テキスト第5章のワークに取り組む	1時間	
8	指導の基本③効果的な指導とは(第6章)	講義	予習:テキスト第6章を読む 復習:テキスト第6章のワークに取り組む	1時間	

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	教育の目標と評価(第7章)	講義	予習:テキスト第7章を読む 復習:テキスト第7章のワークに取り組む(提出)	1時間	
10	指導の工夫①学習意欲を高める技法(第8章)	講義	予習:テキスト第8章を読む 復習:テキスト第8章のワークに取り組む	1時間	
11	指導の工夫②コミュニケーションの技法(第9章)	講義	予習:テキスト第9章を読む 復習:テキスト第9章のワークに取り組む(提出)	1時間	
12	指導の工夫③ディスカッションの技法(第10章)	講義	予習:テキスト第10章を読む 復習:テキスト第10章のワークに取り組む	1時間	
13	看護師としての学習を理解する(第11章)	講義	予習:テキスト第11章を読む 復習:テキスト第11章のワークに取り組む	1時間	
14	キャリア開発に向けて学習する(第12章)	講義	予習:テキスト第12章を読む 復習:テキスト第12章のワークに取り組む	1時間	
15	講義内容のまとめ	講義	予習:配布資料を読む 復習:これまでの講義内容を振り返り、レポートを作成する	1時間	
先行履修科目					
テキスト	中井俊樹/小林忠資編『看護のための教育学』医学書院				
参考文献	田中智志/今井康雄編『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会				
評価方法	レポート 60%、授業態度 10%、提出物 30%				
注意事項					

科目番号	114001			担当教員	増本 年男
授業科目名	化学			E-mail	masumoto@med.tottori-u.ac.jp
開講年次	1年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分	
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(20名)				
授業の概要	<p>化学は全ての物質の構造・性質・反応を探究する学問である。この物質の中には当然人間(生物)も含まれ、生命活動が化学反応や化学物質によって説明される。現代医学において、この化学反応を利用した検査法・治療法も多い。そこで、この講義では、主として生命を支える物質の化学的知見を習得し、知識を確かなものにするを目標とする。無機物質の化学的性質と化学反応および生化学や栄養学を学ぶための基礎となる有機物質について学習を深め、知識を確かなものにする。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・原子・分子の構造を理解し、生命を支える物質の化学的知見を習得する。 ・酸と塩基の性質を理解する。 ・生命に関わる無機化合物、有機化合物、高分子化合物の性質を理解する。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	自己学習課題(予習・復習)	取組時間	担当者
1	原子と分子	講義	教科書第1部2章を熟読する	1時間	
2	化学結合	講義	教科書第1部3章を熟読する	1時間	
3	溶液とコロイド	講義	教科書第1部5章を熟読する	1時間	
4	塩・酸・アルカリ	講義	教科書第1部7章を熟読する	1時間	
5	無機化合物	講義	教科書第1部9章を熟読する	1時間	
6	有機化合物(1)	講義	教科書第2部1-3章を熟読する	1時間	
7	有機化合物(2)	講義	教科書第2部4-7章を熟読する	1時間	
8	有機化合物(3)	講義	教科書第2部9-10章を熟読する	1時間	

先行履修科目	
テキスト	系統看護学 基礎分野 化学
参考文献	
評価方法	定期試験 60%、レポート 20%、小テスト 20%
注意事項	

科目番号	114003			担当教員	祝部 大輔	
授業科目名	統計学					
開講年次	1年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(5名)					
授業の概要	社会に出てからも使用頻度の高いMicrosoft Excelの使い方を習得します。Excelを使い、医学的データを解析するための統計手法を習得し、論理的分析力、プレゼンテーション力、総合的判断力を養います。根拠に基づく医療(Evidence Based Medicine: EBM)を実践するための統計学を学びます。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Excelを使いこなすことができる。 ・医学に必要な統計解析の原理を理解し、医学データを解析する実践的能力を身に付ける。 ・科学的根拠に基づく医療を実現するために、統計手法を用いる態度を養う。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	医学と統計学、Excelの基本的な操作1	講義演習	Excelの基本的な操作を復習する。	1時間		
2	Excelの基本的な操作2 Excel関数	講義演習	Excelの基本的な操作を復習する。	1時間		
3	グラフの作成と印刷	講義演習	グラフの作成を自分で試みる。	1時間		
4	統計の基礎	講義演習	統計で使われる用語や関数について復習し、理解する。	1時間		
5	基本統計量	講義演習	基本統計量について復習し、理解する。	1時間		
6	ヒストグラム	講義演習	講義中に理解・作業できなかった部分についてテキストに沿って復習する。	1時間		
7	相関分析	講義演習	講義中に理解・作業できなかった部分についてテキストに沿って復習する。	1時間		
8	回帰関数の検定	講義演習	講義中に理解・作業できなかった部分についてテキストに沿って復習する。	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	χ^2 検定	講義演習	講義中に理解・作業できなかった部分についてテキストに沿って復習する。	1時間	
10	ピボットテーブルの作成、F検定	講義演習	講義中に理解・作業できなかった部分についてテキストに沿って復習する。	1時間	
11	平均値の検定1(一対の標本による平均の検定、等分散を仮定した2標本による検定)	講義演習	講義中に理解・作業できなかった部分についてテキストに沿って復習する。	1時間	
12	平均値の検定2(分散が等しくないと仮定した2標本による検定、2標本を使った平均の検定)	講義演習	講義中に理解・作業できなかった部分についてテキストに沿って復習する。	1時間	
13	分散分析1(一元配置)	講義演習	講義中に理解・作業できなかった部分についてテキストに沿って復習する。	1時間	
14	分散分析2(繰り返しのない二元配置、繰り返しのある二元配置)	講義演習	講義中に理解・作業できなかった部分についてテキストに沿って復習する。	1時間	
15	総合的パソコン演習	講義演習	課題レポートについて間違えた点や理解できなかった点について復習する。	1時間	
先行履修科目					
テキスト	Excel 2016 (2013) による医用統計学 (Book版) 予定 祝部大輔/一橋和義著				
参考文献	講義で使用するデータを各自のUSBにコピーする。				
評価方法	定期試験 90%、レポート 10%				
注意事項	コンピュータがあまり得意でないと思っている人も、この講義を機会にコンピュータを活用できるようになればいいね！GO!				

科目番号	114004			担当教員	野村 伸治	
授業科目名	情報処理 I			E-mail	sno1su00ns.cygnus.ac.jp	
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生が受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	学生生活、社会生活に必要な情報処理能力(コンピュータ・リテラシ)を獲得することを目的としている。ワードプロセッサ、表計算およびプレゼンテーションの各ソフトの演習を通してコンピュータの知識と操作法を習得する。また、ネットワークを利用する基本技術と知識を学習し、電子メールの送受信やインターネットを利用した情報収集についても習熟する。職場での利用を想定した実践的課題を設定し、これを解決する方法を学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習・研究においてメールでのコミュニケーションと情報検索が支障なく行える。 ・学習・研究において Word・Excel・PowerPoint が必要に応じて使い分けられる。 ・学習・研究において情報に関するセキュリティとモラルが実践できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	Windows 10 の基本操作、キーボードと文字入力およびファイルの保存・編集	演習	ファイル/フォルダー操作がエクスペローラでできる	1時間		
2	インターネットの基礎、WWW の情報検索、電子メール、情報セキュリティおよび情報モラル	演習	Chrome での Web メール操作	1時間		
3	文書作成と Word の基本操作	演習	Word での文字・数値入力、ファイル読み書きができる	1時間		
4	Word での書式設定	演習	Word での文書レイアウトができる	1時間		
5	Word での表・図・写真の追加、小テスト 1	演習	Word に Excel の表、作図・静止画挿入ができる	1時間		
6	Excel の基本操作	演習	表計算用語の理解と対応する操作ができる	1時間		
7	Excel の計算と関数	演習	計算式と主要な関数が使え	1時間		
8	Excel 見やすい表の作成	演習	作表ができる	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	Excel でのグラフの利用	演習	グラフの種類ごとの特徴と具体的な作成ができる	1時間	
10	Excel のピボットテーブルとデータベース、小テスト 2	演習	クロス集計とデータベースの利用ができる	1時間	
11	プレゼンテーションと PowerPoint の基本操作	演習	PowerPoint の利用に有無にかかわらずプレゼンテーションの注意すべき点が理解できる	1時間	
12	スライド作成と組み立て	演習	プレゼンテーションのストーリーと各スライド割り付けができる	1時間	
13	スライドの仕上げとスライド提示	演習	アニメーション機能等電子的プレゼンテーションならではの効果が見られる	1時間	
14	スライドの印刷	演習	視聴者への資料配布ができる	1時間	
15	模擬プレゼンテーション(小テスト 3)	演習	テーマに基づき効果的なプレゼンテーションができる	1時間	
先行履修科目					
テキスト	切田 節子, 新 聖子, 山岡 英孝, 乙名 健, 長山 恵子「Microsoft Office 2016 を使った情報リテラシーの基礎」近代科学社				
参考文献	随時資料を配布する。				
評価方法	小テスト 70%、提出物 30%				
注意事項	各自が USB メモリ (8GB 以上) を毎回持参すること。必要に応じてモバイルデバイスも利用を認める。				

科目番号	115002			担当教員	アイヴァン ティンブレル	
授業科目名	英語A (基礎英語)			E-mail	tollorienglish+tivan@gmail.com	
開講年次	1年前期	必修・選択	必修			
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修					
授業の概要	テキスト'Bedside Manner Beginner'を使用しながら、日常的な看護英語の実践的で基本的な会話を学びます。必要なライフスキルや看護師のスキルを対象としています。グループワークによるポスター発表もあります。批判的思考、分析、意思決定、コミュニケーションスキル、他の人との協力、自発的な生涯学習を重視します。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な会話力、読む力、書く力、聞く力を習得する。 看護業務において交わされる患者との基本的な会話ができる。 外国から来られた生活者に対して、異文化理解を踏まえたヘルスケアを行うことができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	ガイダンス	講義	毎週 復習:今週のクロスワードを完成させる 予習(次のクラスのまで前): 次の週の語彙を覚える 次のユニットのPre-listeningをする 次のユニットの会話1&2を聞く 次のユニットの会話ノートを読む	1時間		
2	Unit 1 Meeting a New Patient - 新しい患者に会う	講義	毎週の予習・復習	1時間		
3	Unit 2 Talking About Symptoms - 症状について話す	講義	毎週の予習・復習	1時間		
4	Unit 3 In-Patient Orientation - 入院患者オリエンテーション	講義	毎週の予習・復習	1時間		
5	Unit 4 Doing the Rounds - 巡回中	講義	毎週の予習・復習	1時間		
6	Unit 5 Explaining Medication - 投薬説明	講義	毎週の予習・復習	1時間		
7	Unit 6 More Symptoms - また症状	講義	毎週の予習・復習	1時間		
8	Unit 7 Review - レビュー &ポスタートピック 研究準備	講義	毎週の予習・復習 & ポスター研究	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	Unit 8 Accidents & Injuries - 事故と傷害 & ポスター発表準備 研究ディスカッション	講義	毎週の予習・復習 & ポスター研究	1時間	
10	Unit 9 Patient Examination - 患者検査 & ポスター発表準備 研究ディスカッション	講義	毎週の予習・復習 & ポスター研究 ポスター原稿	1時間	
11	Unit 10 Taking a Medical History - 病歴を聴く & ポスター発表 内容準備	講義	毎週の予習・復習 & ポスター原稿	1時間	
12	Unit 11 Lifestyle & Diet - ライフスタイルとダイエット & ポスター発表 内容準備	講義	毎週の予習・復習 & ポスター原稿 ポスターデザイン	1時間	
13	Unit 12 Explaining Hospital Tests - 病院検査の説明 & ポスター発表 ビジュアル準備	講義	毎週の予習・復習 & ポスターデザイン 発表 リハーサル	1時間	
14	Unit 13 Review - レビュー & ポスター発表 リハーサル	講義	毎週の予習・復習 & 発表 リハーサル	1時間	
15	ポスタープレゼンテーション	講義	復習:発表 リハーサル	1時間	
先行履修科目					
テキスト	Bedside Manner Beginner by Simon Capper ISBN: 9784939130601				
参考文献					
評価方法	ポスター発表 30%、ロールプレイトスト 30%、宿題 15%、小テスト 15%、自己評価 10%				
注意事項	<p>英語って何? とても楽しくて、人生も変わるのかな? 必修科目だからしょうがない? どっちみち、勉強する事になるでしょう。そして、その時間を使って、外国語学習は役に立つということや、楽しいということであることを発見しましょう。</p> <p>「勉強を頑張る」ことや「練習を沢山する」ことで、どんな人でも英語力を伸ばすことができます。</p> <p>スキルを伸ばすために何を選択し、どんな行動をするのかは、自分の責任です。グループワークと個人ワークを行いながら、自分で選択をして、自立とグループワークのスキルを磨くことを期待します。たとえば「今日は英語の宿題にしばらく時間を費やす」、「理解できないところを先生に説明してもらおう」、「家でよく寝ることで、授業で寝る事がなくなる」のような選択が挙げられます。先生として、あなた自分自身の成功への道を発見出来る様に、全力でお手伝いすると約束します。</p>				

科目番号	116001			担当教員	逢坂 秀樹	
授業科目名	健康科学			E-mail	A9j1s9k@ns.cygnus.ac.jp	
開講年次	1年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分	看護師資格選択必修 保健師資格選択必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	<p>運動が健康の保持増進に好影響を与えていることは周知の事実である。本授業では、運動が人体に与える影響について理解し、運動に対する体内支援や健康生活に果たす役割について考える。</p> <p>また、運動の内容を理解し、各発達段階における適切な運動処方と、その知識を養う。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進に、運動や体力がどのように関わっているのかを理解し、積極的に運動実践することが出来る。 日々の健康管理にも配慮できるよう、基礎的知識の獲得と身体活動との一体化を図ることが出来る。 発達段階に合った運動内容と知識を養う。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学習課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	健康と運動・体力について	講義	健康・運動・体力についての概念を理解し、人体への必要性を理解する	1時間		
2	運動の効果	講義	運動のメリット、デメリットについて調べ、人体への影響について理解する	1時間		
3	恒常性の働き	講義	生命維持活動に不可欠な体内の調節機能について調べておく	1時間		
4	運動の調節機序	講義	運動の内容とスキルアップの仕組みについて調べておく	1時間		
5	運動と栄養・疲労	講義	身体活動の仕組みと、栄養素の役割、そして疲労の成り立ちについて調べておく	1時間		
6	生体組成	講義	脂肪・骨・除脂肪と生体を形成する組織とその働きについて調べておく	1時間		
7	年齢段階における運動処方	講義	幼児期から高齢期における生理機能の発達を理解し、各成長期に合った運動の取り組みについて調べておく	1時間		
8	生涯スポーツへの基本的考え方・その取り組み	講義	講義により学んだ事柄を整理し、運動の効果やその必要性について、各人で考え、実践するために必要な取り組みについて考える	0.5時間		

先行履修科目	
テキスト	授業資料をプリントで配布する。
参考文献	<p>最新健康科学概論 前橋明、大森豊緑 編著 朝倉書房</p> <p>人間と健康 野田雄二 著 不味堂出版</p> <p>健康とスポーツの科学 宮崎義憲 著 不味堂出版</p>
評価方法	定期試験 80%、授業態度 10%、発表 10%
注意事項	パワーポイントにより授業を行う。

科目番号	116002			担当教員	逢坂 秀樹	
授業科目名	実践スポーツ (バスケット・バレーボール)			E-mail	A9is9k@ns.cygnus.ac.jp	
開講年次	1年 前期	必修・選択	選択			
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間 (1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	<p>スポーツ・レクリエーション活動の中から、バスケットボールとバレーボールを取り上げ、技術やルールを学び、楽しみ方を知る。技術トレーニングや戦術的アドバイスを得たのち、学生の主体的な運営をもって試合・ゲームを体験する。</p> <p>★受講者制限有り 最大24名。希望者多数の場合は抽選で決定する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツとして、バスケットボールやバレーボールを楽しむために必要なルールや技術、態度が理解できる。 ・豊かな生活を実現させる手段としての「他者との交流」「運動実践」の必要性が理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	授業OR(概要説明) 受講者確認、種目説明、班編成 基礎練習①各種ボールの扱い方	演習	バスケットボールの発祥・歴史について調べ、理解しておくとともに、必要な技術について確認しておく	0.5時間		
2	【バスケットボール】 基礎練習② 各種パス、ドリブル、シュート	演習	パス、ドリブル、シュートについての技術的理解とスキルアップの段階的練習法やゲームルールについて調べておく	0.5時間		
3	【バスケットボール】 基礎練習③ 各種パス、ドリブル、シュート、各種ディフェンス	演習	マンツーマン、ゾーンディフェンスについて、また3by3、5by5の練習法について調べておく	0.5時間		
4	【バスケットボール】 実践練習①チーム練習 3by3、5by5 各種パス ドリブル、シュート、	演習	オフENS、ディフェンスにおけるメンバーの役割を調べ理解しておく	0.5時間		
5	【バスケットボール】 実践練習②チーム練習 5by5	演習	オフENSルール、ディフェンスルールについて調べ、理解しておく	0.5時間		
6	【バスケットボール】 ゲーム①	演習	バスゲームとドリブルゲームの違いについて調べ、理解しておく	0.5時間		
7	【バスケットボール】 ゲーム②	演習	前時を振り返り、チーム得点力への貢献、メンバーを活かすためのチームスキルについて考えておく	0.5時間		
8	【バスケットボール】 ゲーム③	演習	実践を通して、誰もが楽しくできるバスケットについて考え、取組み上、足らなかったことについて考える。(個人、チーム)	0.5時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	【バレーボール】 種目説明 班編成 基礎練習① 各種パス バスゲーム	演習	バレーボールの発祥・歴史について調べ、理解しておくとともに、必要な技術について確認しておく	0.5時間	
10	【バレーボール】 基礎練習② 各種パス スパイク サーブ 三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク)	演習	アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブについての技術的理解とスキルアップの段階的練習法やゲームルールについて理解しておく	0.5時間	
11	【バレーボール】 基礎練習③ 三段攻撃・レシーブ・サーブ クイック ローテーション	演習	各種技術のスキルアップについての実践的取り組みについて考えておく	0.5時間	
12	【バレーボール】 実践練習① チーム練習 ローテーション 攻撃・守備	演習	チーム内におけるメンバーの役割について考えておく	0.5時間	
13	【バレーボール】 実践練習② 基本技術の確認 ゲーム①	演習	実践に向けて、自己能力の確認と、それに基づくチーム貢献についての取り組みを考えておく	0.5時間	
14	【バレーボール】 ゲーム②	演習	前時を振り返り、チーム得点力への貢献、メンバーを活かすためのチームスキルについて考えておく	0.5時間	
15	【バレーボール】 ゲーム③ 振り返り	演習	実践を通して、誰もが楽しくできるバレーボールについて考え取組み上、足らなかったことについて考える。(個人、チーム)	0.5時間	
先行履修科目					
テキスト	必要に応じ、担当者が準備する。				
参考文献	バスケットボール-基礎と実践- 写真で見る バレーボール	伊藤順蔵・五三健 共著 小山勉・梶尾義昭 共著	成美堂出版 成美堂出版		
評価方法	実技 40%、授業態度 30%、貢献度 30%				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・受講の際は、スポーツウエア(指定なし)、運動靴(機能性に注意)を着用。 ・施設利用方法や熱中症対策等、受講上の留意点については第1回授業時に説明する。 				

科目番号	116002			担当教員	近藤 剛
授業科目名	実践スポーツ (ニュースポーツ)			E-mail	kmacky@ns.cygnus.ac.jp
開講年次	1年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分	看護師資格選択必修 保健師資格選択必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間 (1単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	スポーツ・レクリエーション活動の中から、「誰でも、すぐに楽しめる」がコンセプトであるニュースポーツを取り上げ、最低限の技術トレーニングやアドバイスを受けた後、アクティビティ体験する。体力や運動能力に不安があるなど、運動やスポーツにマイナスイメージのある人におススメ。 ★受講者数は原則18名までとし、希望者多数の場合には抽選を行う場合がある。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰でも、すぐに楽しめる」アクティビティの存在を知り、その楽しみ方が理解できる。 ・豊かな生活を実現させる手段としての「他者との交流」「運動実践」の必要性が理解できる。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
1	【アイスブレイクしよう】 受講仲間と知り合おう	演習	アイスブレイクの意味を調べ、授業内容の意図を考える	0.5時間	
2	【ラケットスポーツ】 バドミントン、スポンジテニスにチャレンジ	演習	予定されているアクティビティの内容について事前学習しておく	0.5時間	
3	【フライングディスク】 ディスタンス、アキュラシー、アルティメット	演習	予定されているアクティビティの内容について事前学習しておく	0.5時間	
4	【ゴールゲーム】 フットサル、ユニバーサルホッケーなど	演習	予定されているアクティビティの内容について事前学習しておく	0.5時間	
5	【ゴルフゲーム】 鳥取県発祥のグランドゴルフを体験しよう	演習	予定されているアクティビティの内容について事前学習しておく	0.5時間	
6	【ゴルフゲーム】 ターゲットバードゴルフに挑戦①(技術練習)	演習	予定されているアクティビティの内容について事前学習しておく	0.5時間	
7	【ゴルフゲーム】 ターゲットバードゴルフに挑戦②(ラウンド)	演習	予定されているアクティビティの内容について事前学習しておく	0.5時間	
8	【ウォーキング】 ウォーキングの基本を知ろう	演習	授業終了後、資料をもとに、実践時間での消費カロリーを算出してみよう	0.5時間	

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	【ウォーキング】 学外でのウォーキング体験(東郷池や羽合ビーチ)	演習	授業終了後、資料をもとに、実践時間での消費カロリーを算出してみよう	0.5時間	
10	【トレッキング】 山頂から短大を見下ろそう	演習	ショートサーブとロングサーブについて調べ、その長短所を調べておくこと	0.5時間	
11	【ユニークなスポーツ】 バウンズボール、キンボールスポーツ	演習	アクティビティの事前学習はもちろん、当該種目の愛好家の年齢層などについて調べてみよう	0.5時間	
12	【アダプテッドスポーツ】 卓球バレー、シッティングバレーなど	演習	授業で体験した以外に楽しんでいるアダプテッドスポーツについて調べてみよう	0.5時間	
13	【ニューゲーム】 ベタンク、シャッフルボード、ダーツを楽しもう	演習	アクティビティの事前学習はもちろん、当該種目の愛好家の年齢層などについて調べてみよう	0.5時間	
14	【ニューゲーム】 ユニカール、インディアカに挑戦しよう	演習	アクティビティの事前学習はもちろん、当該種目の愛好家の年齢層などについて調べてみよう	0.5時間	
15	【振り返りとまとめ】	演習	体験したアクティビティについて、医学領域との接点や関係性について調べてみる	2時間	
先行履修科目					
テキスト	必要に応じ、担当者が準備する				
参考文献	ニュースポーツ事典、北川勇人、日本レクリエーション協会				
評価方法	実技30%、貢献度30%、授業態度40%				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・受講の際は、スポーツウエア(指定なし)、運動靴(靴底の形状・材質に注意)を着用。 ・施設利用方法や寒暖対策等、受講上の留意点については第1回授業時に説明を加える。 				

科目番号	112004			担当教員	荒井 優	
授業科目名	宗教学			E-mail		
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	可(若干名)					
授業の概要	人間の存在するところに必ず宗教が存在する。しかし「宗教とは何か」を一義的に定義するのはむずかしい。宗教のさまざまな側面、自然・風土・文化的な側面としての宗教、心理的精神的な側面としての宗教、宗教体験や臨死体験などの魂の側面としての宗教などについて考える。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 一神教と多神教の根本的な違いを理解する 文化や歴史に現れた宗教的側面について理解を深める。 ひとの生き死を見つめ、これからの自己形成・人生形成のヒントを得る。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	宗教はなぜ必要か?～宗教の概念と機能	講義	看護職としてどのような場面で宗教に遭遇するか、考えておく。	2時間		
2	生と死～2つの死生観	講義	人生いかに生きるかという問題で、大きく2つの人生観、2つの価値観があることを確認し、今後の看護に活かす。	2時間		
3	一人称の死・二人称の死	講義	自分の、あるいは家族の死に直面したとき、自分にどういふ事態が起こるのかを知り、今後の人生に活かす。	2時間		
4	看取りと「悲哀の仕事」	講義	・自分に向き合い、レポートが提出できるようにする。	2時間		
5	実存倫理～「生き死に」の倫理	講義	人生いかに生きるべきかという問題について、人間には2つの倫理があることをまず知っておく。	2時間		
6	死後と魂～臨死体験	講義	「臨死体験」とはどういう事例かを、予め知っておく。	2時間		
7	魂と宗教(1)～存在体験	講義	宗教学(とくに宗教哲学)が問題とする「存在体験」とはどういうものか、引用集を読んでおく。	2時間		
8	魂と宗教(2)～宗教体験	講義	おなじく「宗教体験」とはどういうものか、引用集を読んでおく。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	風土と宗教(1)～森の宗教	講義	和辻哲郎の『風土』について、予め予備知識をもっておく。	2時間	
10	風土と宗教(2)～沙漠の宗教	講義	一神教が沙漠から生まれた宗教であることをまず確認しておく。	2時間	
11	風土と宗教(3)～牧場の宗教	講義	日本と西洋の文化の違いについて具体的に指摘し、その理由を考えておく。	2時間	
12	風土と文化～文化心理学	講義	・授業で課されたテーマについて議論し、レポートが提出できるようにする。	2時間	
13	日本人のあの世観(梅原猛)	講義	古来から日本人が「あの世」をどのように考えてきたかを調べておく。	2時間	
14	日本人のあの世観(折口信夫)	講義	日本人が「お盆」のときそもそも何をしているのか、確認しておく。	2時間	
15	日本の怨霊信仰	講義	日本人は他国にまさって「死者」を敬い、「死者」を神・仏として祀る。そうした精神文化が日本のいつから発生したのか、調べておく。	2時間	
先行履修科目	人間学				
テキスト	授業で使用する学者の文献引用はテキストとしてプリント配布する。				
参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介する。				
評価方法	レポート70%、授業態度10%、提出物20%				
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 一神教と多神教の文化の違いを理解する。 魂の神秘的な体験として「宗教体験」がある。 死に直面してそれまでの人生を受容するとき、ひとは宗教的次元に直面する。 				

科目番号	113001			担当教員	岩井 和山	
授業科目名	日本国憲法			E-mail		
開講年次	1年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分	養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(5名)					
授業の概要	ヨーロッパにおいて近代国家がなぜ立憲主義の枠組みをとるようになったのか、その歴史をふり返り、立憲主義の理念にもとづいて、そもそも憲法とは何か、日本国憲法の位置づけと憲法の持つ意味を理解する。日本国憲法がどのような経緯で制定され、また各事項がなぜそのように規定されるに至ったのかを見ていき、国民の基本的人権、国会・内閣・裁判所・地方自治などの統治機能について、それぞれの位置づけを明らかにする。主権者としての基礎的素養を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊厳と憲法の必要性の理解。 ・国民主権下の主権者たり得る基礎知識を習得理解。 ・人権を中心に憲法的思考ができるようになる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	憲法の歴史と憲法の意味	講義	長い歴史の中から憲法とそれに基づく国家運営の必要性が実感され成文憲法として確立される流れの意味。	1時間		
2	日本国憲法の基本原則	講義	日本国憲法は人権宣言の王道にあると言われるが、その意味はどこにあるのか。	1時間		
3	国民主権と天皇制	講義	天皇陛下は旧憲法では日本の主権者でした。現憲法での位置づけはどうか。その地位はどうあるべきか。	1時間		
4	平和主義	講義	なぜ平和主義が取り入れられたのか。現状はどうか。今後の方向性はどのような方向が良いのか。	1時間		
5	基本的人権－人権総論	講義	そもそも基本的人権とは何か。なんのためにあるのか。	1時間		
6	基本的人権－包括的基本権	講義	包括的基本権と言いつつ、その内容は様々であり、特に新しい人権と言われるものがどのように憲法上位置づけられているのか。	1時間		
7	基本的人権－精神的自由権	講義	精神的自由権は優越的地位にあることの意味とその沿革。	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
8	基本的人権－経済的自由権・社会権	講義	経済的自由権の新たな傾向とその上で出てきた社会権の意味と位置づけ。	1時間	
9	基本的人権－刑事手続・その他の人権	講義	なぜ憲法の条文の約1割が刑事手続きなのか。	1時間	
10	統治機構 国会	講義	民主主義の基本たる国会のシステムはどうなっているのか。	1時間	
11	統治機構 内閣	講義	行政国家とはどのような状況を言うのか。行政権の民主的統制にはどのようなものが考えられるか。	1時間	
12	統治機構 司法	講義	司法権とはどのような権力か。法の支配とはどのようなことをいい、そのための方策は何か。	1時間	
13	統治機構 財政	講義	財政の民主的統制とは。財政健全化と現状はどうなっているか。	1時間	
14	統治機構 地方自治	講義	地方自治の意味。議院内閣制と地方自治の体制の差異。	1時間	
15	憲法改正・憲法のまとめ	講義	憲法改正・変遷・解釈改憲の差異。憲法尊重擁護義務とは。	1時間	
先行履修科目					
テキスト	嵯峨野書院 「憲法を学ぶ」				
参考文献	憲法の基本書 人権関連の書籍 判例集など				
評価方法	定期試験 75%、授業態度 15%、小テスト 10%				
注意事項	講義予定部分はテキストを読んでおく。社会の様々な出来事に対して憲法的視点で考えてみる。				

科目番号	113002			担当教員	池谷 千恵	
授業科目名	多文化共生論			E-mail		
開講年次	1年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生はか受入(受入可人数)		可(若干名)				
授業の概要	多文化共生とは、民族・文化・立場の異なる人々が互いを認め合い共に生きること。この授業では、世界の諸地域で人々が抱えている共生にまつわる問題と、人々や社会の共生のための試みについて学び、私たちが住む日本・地域における文化の共生、異文化交流の課題や今後の可能性について考えます。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域で起こっている民族・文化間の問題の背景とその現状について理解する。 諸外国や人々の共生社会へ向けての取り組みと課題について理解する。 民族・文化の共生にまつわる問題に関心を持ち、自身の考えを述べることができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	文化、共生、民族とは	講義	【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間		
2	多民族国家アメリカ(1)移民社会アメリカの成り立ち	講義	【予習】アメリカについての基本情報を調べておく。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間		
3	多民族国家アメリカ(2)黒人差別の歴史と公民権運動	講義	【予習】アメリカに関するニュースを書けるようにしてくる。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間		
4	「サラダボウルの国」カナダの多文化主義政策	講義	【予習】カナダについての基本情報を調べておく。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間		
5	「人と自然に優しい国」ニュージーランドの社会施策	講義	【予習】ニュージーランドについての基本情報を調べておく。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間		
6	先住民との共生(1)世界の先住民	講義	【予習】「今週の気になるニュース」を書けるようにしてくる。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間		
7	先住民との共生(2)オーストラリア：白豪主義から多文化主義へ	講義	【予習】オーストラリアについての基本情報を調べておく。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間		
8	先住民との共生(3)諸国の取り組みから日本のあり方を考える	講義	【予習】日本の先住民アイヌについて調べておく。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	イギリス：連合王国の成り立ちと北アイルランド問題	講義	【予習】イギリスについての基本情報を調べておく。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間	
10	ヨーロッパの挑戦：ヨーロッパ連合の現状と課題	講義	【予習】ヨーロッパの地図(白地図に国名)を書けるようにしてくる。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間	
11	アジアの文化的多様性と経済連合	講義	【予習】アジアの地図を書けるようにしてくる。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間	
12	国際連合の役割と課題：世界の平和と協調のために	講義	【予習】国際連合について基本情報を調べておく。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間	
13	平和な共生社会のために(1)：争いのない世界を願って(紛争・難民問題)	講義	【予習】世界の核兵器保有国の現状について調べておく。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間	
14	平和な共生社会のために(2)：世界のアンバランス・命の格差(人口・貧困問題)	講義	【予習】世界の平均寿命、乳児死亡率について調べておく。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間	
15	日本における多文化共生を考える：外国人労働者・難民受け入れ	講義	【予習】日本の難民受け入れの現状について調べておく。 【復習】配布資料を読み理解を深める。	0.5時間	
先行履修科目					
テキスト	配布資料、視覚教材(DVDなど)を用いる。				
参考文献					
評価方法	定期試験 50%、授業態度 10%、提出物 40%				
注意事項	私たちの住む地域、医療現場においても、異なった文化背景の人と交流、協働する場面が増えていきます。世界の情報にアンテナをはり、多様な価値観に触れ、柔軟な視野を養っていきましょう。				

科目番号	113003			担当教員	荒井 優 他	
授業科目名	山陰論			E-mail		
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(若干名)					
授業の概要	世界中に情報が行きわたり、地球上の経済・社会のグローバル化が進行している。その反面、それぞれの地域の固有な文化が見直されている。自分が住んでいる地域がどのような自然環境にあり、どのような歴史を経て今のような地域になっているのか、そうした地域の特性を踏まえたうえで、地域を理解し、どのような地域貢献ができるのか、自分の人生設計を鑑みながら、山陰という地域の現状と課題を見ていく。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・山陰地方の自然、歴史と文化、社会と人々の生活などについて基本的理解をもつ。 ・地域社会の一員として、地域のあり方や発展について自分の考えを表明できるようにする。 ・授業を聞いて、内容をまとめ報告することができるようにする。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション、日本のはじまりと山陰	講義	日本のはじまりと、中でも山陰地方の歴史的文化的意義について理解しておく。	2時間		
2	山陰の自然と風土(1)	講義	自分の住んでいる市町村について、沿革・人口・特産物などを調べておく。	2時間		
3	山陰の自然と風土(2)	講義	授業で理解した内容をまとめ、レポートが提出できるようにする。	2時間		
4	神話のふるさと山陰(1)	講義	『古事記』に何が書かれているか、事前に知っておく。	2時間		
5	神話のふるさと山陰(2)	講義	授業で理解した内容をまとめ、レポートが提出できるようにする。	2時間		
6	山陰の近代(1)	講義	明治維新以前(江戸時代)の鳥取・島根についてイメージをもっておく。	2時間		
7	山陰の近代(2)	講義	授業で理解した内容をまとめ、レポートが提出できるようにする。	2時間		
8	山陰を舞台とした古典文学(1)	講義	後醍醐天皇による「正中の乱」「船上山合戦」などの歴史について知っておく。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	山陰を舞台とした古典文学(2)	講義	授業で理解した内容をまとめ、レポートが提出できるようにする。	2時間	
10	山陰の民俗～葬送と墓(1)	講義	宗教によって葬式(土葬・火葬・風葬)がどのように違うか、知っておく。	2時間	
11	山陰の民俗～葬送と墓(2)	講義	授業で理解した内容をまとめ、レポートが提出できるようにする。	2時間	
12	山陰の福祉(1)～育児事業史を手がかりとして	講義	授業で理解した内容をまとめ、レポートが提出できるようにする。	2時間	
13	山陰の福祉(2)～障がい福祉の父と「福祉の思想」	講義	授業で理解した内容をまとめ、レポートが提出できるようにする。	2時間	
14	山陰の地域看護(1)	講義	鳥取・島根県の病院、診療所数及び就業医師数、看護師数を調べてくる(県のホームページ等)	2時間	
15	山陰の地域看護(2)	講義	授業で理解した内容をまとめ、レポートが提出できるようにする。	2時間	
先行履修科目					
テキスト	授業で使用する学者の文献引用はテキストとしてプリント配布する。				
参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介する。				
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 10%、レポート 30%				
注意事項	私たちが生活している山陰、郷土のさまざまなことがらに目を向け、関心を持ち、理解し、自分の立場から地域にどのように貢献できるか、授業を通して考える。				

〔地域志向科目〕

科目番号	114005			担当教員	野村 伸治	
授業科目名	情報処理Ⅱ			E-mail	snolsu@nns.cygnus.ac.jp	
開講年次	1年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分	養護教諭二種免許必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	統計ソフトウェア EZR の利用方法について習熟し、データを統計的に解析するスキルを習得する。保健統計の具体的事例に基づいて代表値の算出やグラフ作成、データ間の関連性や有意差の仮説検定などについて理解を深める。また、電子カルテなど病院の情報システムの機能やネットワークを利用した看護情報の検索、収集を学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・EZR で看護・保健統計における各種統計量・グラフが算出・描画・解釈ができる。 ・EZR で看護・保健統計における関連性・仮説検定・分析が行え・解釈ができる。 ・データベース (LibreOffice の Base) で電子カルテを構築し、フォーム・クエリー・レポートが活用できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	統計ソフト EZR のインストール・起動・設定などの使用法	演習	EZR のインストール・起動・終了ができる	1時間		
2	記述統計量	演習	合計・平均・分散・標準偏差が EZR で計算できる	1時間		
3	仮説検定	演習	帰無仮説・対立仮説・有意水準の統計学的意味を理解する	1時間		
4	疫学研究のデザイン	演習	検疫で行うモニタリング検査の検査件数・検査項目の選定ができる	1時間		
5	統計テストの選び方	演習	データの種類に応じた解析手法が選択できる	1時間		
6	スチューデントの t 検定, マンホイットニーの U 検定	演習	対応のない 2 群の比較や平均値の比較検定ができる	1時間		
7	対応のある t 検定とウィルコクソンの符号付順位和検定	演習	対応のある 2 群の比較、一対の標本によるノンパラメトリック分析ができる	1時間		
8	分散分析	演習	観測データにおける要因および交互作用の効果を判定する	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	線形回帰と相関係数	演習	EZR で回帰分析と相関係数の計算ができる	1時間	
10	小テスト 1 回目	演習	ファイル読込・保存、文字・数値の編集、静止画・動画の編集	1時間	
11	データベースのテーブル(フィールド・レコード)・フォーム・クエリー・レポート	演習	LibreOffice の Base がインストールできてテーブルが定義できる	1時間	
12	電子カルテで扱う基本情報(リレーションシップ)	演習	電子カルテ情報のエッセンスをテーブルとして定義し、リレーションシップでつなぐ	1時間	
13	クエリーによる検索・整列・集計	演習	文字列に関する検索、数値データに関する問い合わせ処理ができる	1時間	
14	データベースと統計ソフトとの連動	演習	データベースの抽出データを統計分析用に転用できる	1時間	
15	小テスト 2 回目	演習	電子カルテのテーブル定義、レコード入力、クエリー処理ができる	1時間	
先行履修科目	「情報処理Ⅰ」を履修すること。				
テキスト	新谷 歩「みんなの医療統計 12 日間で基礎理論と EZR を完全マスター!」講談社				
参考文献	随時資料を配布する。				
評価方法	小テスト 70%、提出物 30%				
注意事項	各自が USB メモリ (8GB 以上) を毎回持参すること。必要に応じてモバイルデバイスも利用を認める。				

科目番号	115001			担当教員	土居 裕美子 E-mail ydoi@nns.tcn.ac.jp	
授業科目名	日本語表現演習					
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修			
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	可(5名)			資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業の概要	1年次前期の「スタディスキル」および「日本語表現」で行った内容を発展させ、口頭表現と文章表現のさらなる技能向上を目指す。発声練習、自己紹介から始まり、説明やプレゼンテーション、質問や意見交換といった口頭表現の基礎から応用に至る様々な課題に演習形式で取り組む。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や表現したいことを、読み手(聞き手)の立場に立って的確に表現することができる。 相手の意見や意図を的確に理解し、チームワークをもって他者と対話することができる。 議論の楽しさや楽しさを実感した上で、自分の表現スタイルを持つことができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション 授業概要・到達目標・評価基準 授業の進め方についての説明	講義 演習	【予習】自身のこれまでの「表現」との関わりを振り返る 【復習】本講義の概要と到達目標を自身に関連付けて理解する	1時間		
2	ニュース原稿を読む/聴く/書く(1)	演習	【復習】授業で取り上げた思考課題について自身の考えを1200字程度にまとめる 【予習・復習】発声練習をする	1時間		
3	ニュース原稿を読む/聴く/書く(2)	演習	【復習】授業で取り上げた思考課題について自身の考えを1200字程度にまとめる 【予習・復習】発声練習をする	1時間		
4	論説文を読む(1) ～異文化理解	演習	【予習】取り上げる文章を読み、分からない言葉を調べ、要旨をまとめる 【予習・復習】発声練習をする	1時間		
5	論説文を読む(2) ～自立とは	演習	【予習】取り上げる文章を読み、分からない言葉を調べ、要旨をまとめる 【予習・復習】発声練習をする	1時間		
6	意見文を書く(1) 自分にとっての異文化理解	演習	【予習】配付された課題について、意見文の骨子を作成する 【復習】他者のアドバイスを受けて、自身の意見文を修正する 【予習・復習】発声練習をする	1時間		
7	意見文を書く(2) 自分にとっての異文化理解	演習	【復習】課題についての意見文を1600字程度にまとめる 【予習・復習】発声練習をする	1時間		
8	聞き書き演習(1)	演習	【予習】配付された資料を読み、聞き書きの手法を理解する【復習】インタビューした内容を原稿にまとめる	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	聞き書き演習(2)	演習	【復習】インタビュー原稿を修正し、完成版に整える	1時間	
10	ビブリオバトル(1) オリエンテーション	講義 演習	【予習】紹介したい本を選んでくる 【復習】ビブリオバトルについて理解し、発表の構想を立てる	1時間	
11	ビブリオバトル(2) 発表会と今週のチャンプ本決定	演習	【予習】発表原稿を準備し、プレゼンリハーサルを行う 【復習】紹介された本を読む	1時間	
12	ビブリオバトル(3) 発表会と今週のチャンプ本決定	演習	【予習】発表原稿を準備し、プレゼンリハーサルを行う 【復習】紹介された本を読む	1時間	
13	ビブリオバトル(4) 発表会と今週のチャンプ本決定	演習	【予習】発表原稿を準備し、プレゼンリハーサルを行う 【復習】紹介された本を読む	1時間	
14	ビブリオバトル(5) 発表会と今週のチャンプ本決定	演習	【予習】発表原稿を準備し、プレゼンリハーサルを行う 【復習】紹介された本を読む	1時間	
15	まとめと振り返り	講義 演習	到達目標への到達度を自己評価し、次年度に向けての学びの目標を立てる	1時間	
先行履修科目	スタディスキル、日本語表現履修し、単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	テキストは特に指定せず、ハンドアウトを配付する。				
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。				
評価方法	レポート40%、授業態度20%、発表30%、提出物10%				
注意事項	最初から話し上手な人はいません。受講生全員が互いに未熟なのだという前提で、互いに良い点を発見しながらそれぞれの表現スタイルを身に付けていきましょう。予習が重要です。配付する「ブリアクションシート」を活用してください。				

科目番号	115003			担当教員	大谷 拓	
授業科目名	英語 B (英文講読)			E-mail	the_otanies@ncn-t.net	
開講年次	1年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分	看護師資格選択必修 保健師資格選択必修 読書教諭二種免許選択必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(若干名)					
授業の概要	医療問題を扱った英文を読み、その問題に関わる背景知識・問題点を一緒に考えていきます。また、実際の医療現場を想定し、基本的な医療英語表現を用いながら読む・書く・話す・聴くことができるようになるためのトレーニングを行います。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英文を的確に理解でき、他のメンバーと共に情報を整理して発表資料を作成することができる。 ・様々な英文に対応できるよう文法・語彙・イディオム・構文等の知識を身に付けることができる。 ・医療英語を含む英文の音読に自信を持ち、基本的な英文を書くこと、聴くこと、話すことができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	Unit 1 (1) 本文内容把握、語句・表現確認、本文要約	演習	授業前に Unit 1 本文を日本語訳しておく。医療英語表現に慣れる。	1時間		
2	Unit 1 (2) 本文トピック解説、speaking training	演習	英文の音読を繰り返して行い、暗唱できるようにしておく。	1時間		
3	Unit 2 (1) 本文内容把握、語句・表現確認、本文要約	演習	授業前に Unit 2 本文を日本語訳しておく。医療英語表現に慣れる。	1時間		
4	Unit 2 (2) 本文トピック解説、speaking training	演習	英文の音読を繰り返し、暗唱できるようにしておく。	1時間		
5	Unit 3 (1) 本文内容把握、語句・表現確認、本文要約	演習	授業前に Unit 3 本文を日本語訳しておく。医療英語表現を覚える。	1時間		
6	Unit 3 (2) 本文トピック解説、医療現場で用いる英語表現①	演習	授業で取り上げた医療専門用語を整理し、まとめておく。	1時間		
7	Unit 1, Unit 2, Unit 3 のまとめ、クラス発表①	演習	指定されたトピックについてグループで協力しながら発表準備を行う。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
8	Unit 5 (1) 本文内容把握、語句・表現確認、本文要約	演習	授業前に Unit 5 本文を日本語訳しておく。医療英語表現を覚える。	1時間	
9	Unit 5 (2) 本文トピック解説、医療現場で用いる英語表現②	演習	授業で取り上げた医療専門用語を整理し、まとめておく。	1時間	
10	Unit 6 (1) 本文内容把握、語句・表現確認、本文要約	演習	授業前に Unit 6 本文を日本語訳しておく。医療英語表現を覚える。	1時間	
11	Unit 6 (2) 本文トピック解説、医療現場で用いる英語表現③	演習	授業で取り上げた医療専門用語を整理し、まとめておく。	1時間	
12	Unit 7 (1) 本文内容把握、語句・表現確認、本文要約	演習	授業前に Unit 7 本文を日本語訳しておく。医療英語表現を覚える。	1時間	
13	Unit 7 (2) 本文トピック解説、医療現場で用いる英語表現④	演習	授業で取り上げた医療専門用語を整理し、まとめておく。	1時間	
14	Project Work クラス発表準備	演習	英文に関連するトピックを選び、背景知識・問題点について自らまとめていく。	2時間	
15	Project Work クラス発表②	演習	発表を通して得られた知識・情報・クラスで共有した様々な意見をまとめておく。	2時間	
先行履修科目					
テキスト	RURI ASHIDA, J.PATRICK BARRON 「THINKING CRITICALLY ABOUT HEALTH ISSUES」 MACMILLAN LANGUAGEHOUSE				
参考文献	適宜指示します。				
評価方法	授業への積極的な参加・態度 20%、課題(ペア・グループワーク、小テスト、提出物・暗唱テスト等含む)40%、定期試験 40%				
注意事項	英文読解能力の更なる向上を目指す努力をすると同時に、日々メディア・書籍を通して様々な医療問題に関心を持ちましょう。それが授業で扱う英文を理解する上での重要なポイントになります。				

科目番号	115005			担当教員	川口 斐斐	
授業科目名	中国語			E-mail		
開講年次	1年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分	看護師資格選択必修 保健師資格選択必修 養護教諭二種免許選択必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)		可(5名)				
授業の概要	中国の公用語を日本人は「中国語」と呼びます。発音の四声の練習を始め、簡単な日常挨拶などを身に着けることができる授業です。発音注視、会話中心の授業です。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化を楽しもう。 ・中国語の響きを感じよう。 ・簡単な日常挨拶ができるよう。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	ガイダンス、採点方法の紹介、中国語と日本語の違いを紹介する。	講義	中国や台湾のニュースを1つ以上見つけて、見る	0.5時間		
2	発音記号 四声の練習・単母音を紹介	講義	家で音読する	0.5時間		
3	複合母音・子音 四声の練習	講義	家で音読する	0.5時間		
4	鼻の母音 四声の練習	講義	家で音読する	0.5時間		
5	第1課 ポイント	講義	単語を覚える、音読	0.5時間		
6	第1課 本文紹介	講義	本文を丸暗記 次回の授業、単語テストをする	0.5時間		
7	第2課 ポイント	講義	単語を覚える、音読	0.5時間		
8	第2課 本文紹介	講義	本文を丸暗記 次回の授業、単語テストをする	0.5時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	第3課 ポイント	講義	単語を覚える、音読	0.5時間	
10	第3課 本文紹介	講義	本文を丸暗記 次回の授業、単語テストをする	0.5時間	
11	第4課 ポイント	講義	単語を覚える、音読	0.5時間	
12	第4課 本文紹介	講義	本文を丸暗記 次回の授業、単語テストをする	0.5時間	
13	第5課 ポイント	講義	単語を覚える、音読	0.5時間	
14	第5課 本文紹介	講義	インタビューの練習	0.5時間	
15	インタビュー	面接	期末の復習をする	0.5時間	
先行履修科目					
テキスト	シンプルチャイニーズ 東京(会話篇) 朝日出版社				
参考文献	三文字				
評価方法	定期試験60%、単語テスト・授業態度20%、インタビュー20%、				
注意事項	一緒に授業を作っていきたいから、授業中は声を出して、発音の練習をしましょう。携帯は鞆の中、私語は減点となる。				

科目番号	115006			担当教員	賈 恵京	
授業科目名	韓国語			E-mail		
開講年次	1年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分	看護師資格選択必修 保健師資格選択必修 養護教諭二種免許選択必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	韓国語の「書く」・「読む」・「聞く」・「話す」といった学習事項に重点をおいて、基礎文法を活用して簡単な会話や文ができるように学習する。随時、韓国の越や社会事情を紹介して、異文化にふれていく。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語を通して、視野が広がり、物事のグローバルな考え方を養える。 ・異文化との触れあいにより、日本の言葉や文化を再認識出来る。 ・韓国語の書き、読みの習得により、音声や言語感覚の潜在能力が発揮できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	ハングルの概要	講義	講義分復習	1.5時間		
2	文字と発音(母音)	講義	講義分復習	1.5時間		
3	文字と発音(子音)	講義	講義分復習	1.5時間		
4	文字と発音(子音)	講義	講義分復習	1.5時間		
5	文字と発音(激音)	講義	講義分復習	1.5時間		
6	文字と発音(濃音)	講義	講義分復習	1.5時間		
7	文字と発音(合成母音)	講義	講義分復習	1.5時間		
8	文字と発音(終声)	講義	講義分復習	1.5時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	中間テスト 漢字語彙詞(일 이 삼 사...)	講義	講義分復習	1.5時間	
10	発音のルール1	講義	講義分復習	1.5時間	
11	発音のルール2	講義	講義分復習	1.5時間	
12	指定詞の丁寧形 (입니다. 이에요. 예요)	講義	講義分復習	1.5時間	
13	助詞の用法	講義	講義分復習	1.5時間	
14	自己紹介、総合まとめ	講義	講義分復習	1.5時間	
15	インタビューテスト	講義	総合復習	1.5時間	
先行履修科目					
テキスト	プリントなど				
参考文献	改訂版 日韓類似ことわざ辞典				
評価方法	期末試験 60%、中間試験 25%、小テスト 15%				
注意事項	復習を兼ねて課題をまじめに行い、次回に提出する。課題の際、理解できないところを次回の授業時間に質問する。講義で取り扱っている歌は随時聴いて歌えるように覚える。メディアによる韓国語講座や韓国ドラマを視聴し、言葉や文化をより深く理解する。				

科目番号	I16002			担当教員	逢坂 秀樹	
授業科目名	実践スポーツ (バドミントン・卓球)			E-mail	A9is9k0@ns.cygnus.ac.jp	
開講年次	1年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分	看護師資格選択必修 保健師資格選択必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	スポーツ・レクリエーション活動の中から、バドミントンと卓球を取り上げ、技術やルールを学び、楽しみ方を知る。技術トレーニングや戦術的アドバイスを得たのち、学生の主体的な運営をもって試合・ゲームを体験する。 ★受講者制限有り 最大24名。希望者多数の場合は抽選で決定する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツとして、バドミントンや卓球を楽しむために必要なルールや技術、態度が理解できる。 ・豊かな生活を実現させる手段としての「他者との交流」「運動実践」の必要性が理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	授業OR(概要説明) 受講者確認、種目説明、 基礎練習①各種ラケットの握り方	演習	・バドミントンの発祥・歴史について調べ、理解しておくとともに、必要な技術について確認しておく	0.5時間		
2	【バドミントン】 基礎練習② ラケットの握り方、各種ストロークの練習	演習	握り方の応用と技術的理解とスキルアップの段階的練習法やゲームルールについて調べておく	0.5時間		
3	【バドミントン】 基礎練習③ ベアの決定 各種ストローク 隊形	演習	ベアの役割と隊形変化の練習法について調べ理解しておく	0.5時間		
4	【バドミントン】 実践練習①ベア練習 各種ストロークの確認 隊形の応用	演習	ベアの役割と隊形変化についての話し合いを行う(事前事後)	0.5時間		
5	【バドミントン】 実践練習②ベア練習 オープンゲーム	演習	実践を通して、ダブルスゲームの利点と弱点について理解し、以後に備える(事後)	0.5時間		
6	【バドミントン】 ゲーム①	演習	前時の実践より得た情報を基に、実践力を強化と各自の技量について考える	0.5時間		
7	【バドミントン】 ゲーム②	演習	前時を振り返り、チーム得点力への貢献、パートナーを活かすためのチームスキルについて考えておく	0.5時間		
8	【バドミントン】 ゲーム③	演習	実践を通して、誰もが楽しくできるバドミントンについて考え、取組み上、足らなかったことについて考える。(個人、ペア)	0.5時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	【卓球】 種目説明 基礎練習①ラケットの握り方 各種ストローク	演習	卓球の発祥・歴史について調べ、理解しておくとともに、必要な技術について確認しておく	0.5時間	
10	【卓球】 基礎練習② 各種ストローク スピン対応	演習	フォアロング、ショート打法についての技術的理解とスキルアップとゲームルールについて理解しておく	0.5時間	
11	【卓球】 基礎練習③ ベアの決定 各種ストローク スピン対応	演習	各種技術のスキルアップについての実践面での対応について考えておく	0.5時間	
12	【卓球】 実践練習① スマッシュ オープンゲーム	演習	ベアの役割について考えておく 移動方法について調べておく スマッシュについて調べておく	0.5時間	
13	【卓球】 実践練習② 基本技術の確認 ゲーム①	演習	実践に向けて、自己能力の確認と、それに基づくチーム貢献についての取り組みを考えておく	0.5時間	
14	【卓球】 ゲーム②	演習	前時を振り返り、チーム得点力への貢献、パートナーを活かすためのチームスキルについて考えておく	0.5時間	
15	【卓球】 ゲーム③ 振り返り	演習	実践を通して、誰もが楽しくできる卓球について考え取組み上、足らなかったことについて考える。(個人、ペア)	0.5時間	
先行履修科目					
テキスト	必要に応じ、担当者が準備する。				
参考文献	バドミントンパーフェクトマスター 松野修二 監修 新星出版社 体育図書館シリーズ卓球 矢尾板弘 著者 不味堂出版				
評価方法	実技 40%、授業態度 30%、貢献度 30%				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・受講の際は、スポーツウエア(指定なし)、運動靴(機能性に注意)を着用。 ・施設利用方法や熱中症対策等、受講上の留意点については第1回授業時に説明する。 				

科目番号	116002			担当教員	近藤 剛
授業科目名	実践スポーツ (テニス・バドミントン)			E-mail	kmacky@ns.cygnus.ac.jp
開講年次	1年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分	看護師資格選択必修 保健師資格選択必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間 (1単位)		
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	スポーツ・レクリエーション活動の中から、テニスとバドミントンを取り上げ、技術やルールを学び、楽しみ方を知る。技術トレーニングや戦術的アドバイスを得た後、学生の主体的な運営をもって試合・ゲームを体験する。 ★受講者数は原則18名までとし、希望者多数の場合には抽選を行う場合がある。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツとして、テニスやバドミントンを楽しむために必要なルールや技術、態度が理解できる。 ・豊かな生活を実現させる手段としての「他者との交流」「運動実践」の必要性が理解できる。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
1	授業OR、メンバー理解	演習	イニシアティブゲームと呼ばれるコミュニケーションを促進するアクティビティについて予備知識を獲得しておく	0.5時間	
2	【テニス】基礎練習① 概要説明、ステップラケットティングほか	演習	テニスの発祥や発展について調べること、特徴的なポイントの教え方のルーツについて理解しておく	0.5時間	
3	【テニス】基礎練習② ストローク(フォア/バック)、ミニゲーム(シングル)	演習	フォア&バックストロークの技術的ポイントを調べておく	0.5時間	
4	【テニス】基礎練習③ ストローク、ボレー、ミニゲーム(シングル)	演習	ボレーとは何か、語源とテニスにおけるプレー内容について調べておく	0.5時間	
5	【テニス】基礎練習④ サーブ&リターン練習、ミニゲーム(シングル)	演習	サーブを打つ際のポイント、サーブに関連するコート上の名称などについて調べておく	0.5時間	
6	【テニス】ゲーム① ダブルスゲーム	演習	テニスのダブルスゲームを運営するためのルールを確認しておく	0.5時間	
7	【テニス】ゲーム② ダブルスゲーム	演習	自らのペアの技量に応じたフォーメーションの在り方について再確認する	0.5時間	
8	【バドミントン】基礎練習① 概要説明、ラケットティングほか	演習	バドミントンの発祥や発展について調べ、テニスと比較してみる	0.5時間	

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	【バドミントン】基礎練習② ショットの種類の理解 ストローク練習 ミニゲーム(技術確認)	演習	ハイクリア、ヘアピン、ドライブ、ドロップと呼ばれるショットについて調べておくこと	0.5時間	
10	【バドミントン】基礎練習③ サーブ練習、リターン練習 シングルゲーム	演習	ショートサーブとロングサーブについて調べ、その長短所を調べておくこと	0.5時間	
11	【バドミントン】ゲーム① ダブルスゲーム(リーグ戦)	演習	バドミントンのルール(ゲーム進行の仕方)について確認しておくこと	0.5時間	
12	【バドミントン】ゲーム② ダブルスゲーム(リーグ戦)	演習	勝利を目指すために、自分のペアに必要な戦術、技術を考えること	0.5時間	
13	【バドミントン】ゲーム③ シングル&ダブルスゲーム(団体戦)	演習	本日の結果を振り返り、次週のゲームにつなげられるよう、反省を加えてくる	0.5時間	
14	【バドミントン】ゲーム④ シングル&ダブルスゲーム(団体戦)	演習	技量差のあるペアに効果的なフォーメーションを探し出していく	0.5時間	
15	授業の振り返り	演習	得られた技術、知識をもとに、自らプレーする機会を作り出し、仲間と時間を共有する	2時間	
先行履修科目					
テキスト	必要に応じ、担当者が準備する。				
参考文献	Q&A 式しらべるラケットスポーツ〈1〉歴史と発展、山田幸雄監修、ベースボールマガジン社 Q&A 式しらべるラケットスポーツ〈2〉用具・コート、山田幸雄監修、ベースボールマガジン社 Q&A 式しらべるラケットスポーツ〈3〉ルール・技術、山田幸雄監修、ベースボールマガジン社				
評価方法	実技 30%、貢献度 30%、授業態度 40%				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・受講の際は、スポーツウエア(指定なし)、運動靴(靴底の形状・材質に注意)を着用。 ・施設利用方法や寒暖対策等、受講上の留意点については第1回授業時に説明を加える。 				

科目番号	114002			担当教員	倉恒 俊一	
授業科目名	住環境論			E-mail		
開講年次	2年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	住環境は居住者が健康な生活を維持するために必要な場を提供しており、福祉と密接な関係にある。講義では現代日本の住居の特徴を建築学の観点から学習した上で、バリアフリーやユニバーサルデザインを取り入れた福祉住環境の視点で設計された住環境を理解する。在宅看護や介護に関わる建築の設計、設備やインテリアの整備について幅広い知識を学ぶことを目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 一般住居の建築構造を理解することができる。 安全・安心・快適空間を提供する基礎的知識(色彩、光、音、触覚等)が理解できる。 人体モジュールとユニバーサルデザインの関係を理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	住環境福祉について	講義	*予習 福祉とは何か。 参考 教科書第1章 1-1	1時間		
2	住宅・居住の意味、沿革、現状について	講義	*予習 時代時代の生活様式を調べてみる。	1時間		
3	木造住宅の構造	講義	*予習 自宅、寮、アパートの内外装で名称の分からない部位、物を探してみる。	1時間		
4	公共建築物におけるバリアフリー	講義	*予習 実際に町中、商業施設に行ってみる。名称の分からない部位、物を探してみる。	1時間		
5	人間環境とバリアフリー	講義	*予習 参考 教科書第2章 2-1~2-2	1時間		
6	生活と交通環境・まちづくり	講義	*予習 実際に町中、商業施設に行ってみる。 参考 教科書第3章 3-1~3-3	1時間		
7	福祉空間デザインの意義	講義	*予習 参考 教科書第4章 4-1	1時間		
8	住居福祉と住宅のデザイン1 室内外空間のバリアフリー	講義	*予習 参考 教科書第4章 4-2~4-4	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	住居福祉と住宅のデザイン2 高齢者の生活空間	講義	*予習 参考 教科書第4章 4-5	1時間	
10	高齢者福祉と施設空間の計画	講義	*予習 実際に町中、商業施設に行ってみる。	1時間	
11	戸建て住宅の改造・改修	講義	*予習 改造・改修事例をさがしてみる。	1時間	
12	福祉機器	講義	*予習 福祉機器の種類を調べる。	1時間	
13	福祉用具	講義	*予習 福祉用具の種類を調べる。	1時間	
14	福祉機器・用具の課題	講義	*復習 今後、どのような機器や用具が望まれるか考えてみる。	1時間	
15	まとめ	講義	*復習 住環境の不備があるとどのような事態になるか考える。	1時間	
先行履修科目					
テキスト	福祉空間学入門 人間のための環境デザイン 藤本尚久(編著) 鹿島出版会				
参考文献	福祉住環境 市ヶ谷出版社 住環境福祉論 ミネルヴァ書房				
評価方法	定期試験 70%、授業態度 20%、提出物 10%				
注意事項					

科目番号	I15004			担当教員	アイヴァン ティンブレル
授業科目名	英語C (英会話)			E-mail	tottorienglish+tivan@gmail.com
開講年次	2年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分	看護師資格選択必修 保健師資格選択必修 英語教諭二種免許選択必修
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	英語によるスピーチやプレゼンテーション、意見交換ができるようになることをめざします。まず、英語によるコミュニケーションを行ううえで重要な概念を理解し、日常生活でよくある状況からはじめ、具体的なテーマについて会話の演習を行います。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、間違えることを恐れない環境を作ることによって学生が互いに刺激しあい、能力を高めていきます。簡単なプレゼンテーションの議論、準備をして学生はより正確で流暢で信頼できる英語のユーザーになれます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物、写真、経験、自分の考えを分かりやすく、効果的に伝える能力を養います。 ・言語や文化の問題を分析的に考え、議論することができる。 ・なりたい自分を分かって目標を効果的に設定する能力を養います。 				

授業計画

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
1	Working Together - ガイダンス	講義	毎週の自己学修: ・コースブックのプレゼンテーションに関連する毎週の宿題必要あり ・毎日2-5分間のオンラインフラッシュカードの復習 ・毎日2-5分間の英語 diary を書く ・毎週、ソーシャルメディア、映画、書籍、雑誌、新聞、音楽、ゲームなどを用いた英語学習	1時間	
2	Topic 1 hometowns: プレーンストーミング、絵の説明、聞き取り、話す練習	講義	毎週の自己学修 (1回参照)	1時間	
3	Topic 1 hometowns: Presentation, feedback.	講義	毎週の自己学修 (1回参照)	1時間	
4	Topic 2 Music: プレーンストーミング、絵の説明、聞き取り、話す練習	講義	毎週の自己学修 (1回参照)	1時間	
5	Topic 2 Music: Presentation, feedback.	講義	毎週の自己学修 (1回参照)	1時間	
6	Review/Quiz	講義	毎週の自己学修 (1回参照)	1時間	
7	Topic 3 Books: プレーンストーミング、絵の説明、聞き取り、話す練習	講義	毎週の自己学修 (1回参照)	1時間	
8	Topic 3 Books: Presentation, feedback.	講義	毎週の自己学修 (1回参照)	1時間	

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	Topic 4 Family: プレーンストーミング、絵の説明、聞き取り、話す練習	講義	毎週の自己学修 (1回参照)	1時間	
10	Topic 4 Family: Presentation, feedback.	講義	毎週の自己学修 (1回参照)	1時間	
11	Review/Quiz	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日2-5分間のオンラインフラッシュカードの復習 ・毎日2-5分間の英語 diary を書く ・毎週、ソーシャルメディア、映画、書籍、雑誌、新聞、音楽、ゲームなどを用いた英語学習 	1時間	
12	Presentation preparation	講義	毎週の自己学修 (11回参照)	1時間	
13	Presentations practice	講義	毎週の自己学修 (11回参照)	1時間	
14	Presentations	講義	毎週の自己学修 (11回参照)	1時間	
15	Course Review	講義	毎週の自己学修 (11回参照)	1時間	
	先行履修科目				
	テキスト	Scraps by Brian Cullen and Sarah Mulvey. Perceptia Press. ISBN: 9784939130847			
	参考文献				
	評価方法	宿題と提出物 30%、定期試験 20%、グループ発表 30%、クラスワーク 20%、			
	注意事項	<p>英語って何? とても楽しくて人生を変えることかな? 必修科目だからしょうがない? どっちみち、勉強する事になるでしょう。そして、その時間を使って、外国語学習が役に立つことや楽しいことであることを発見しましょう。</p> <p>「勉強を頑張る」ことや「練習を沢山する」ことで、どんな人でも英語力を伸ばすことができます。</p> <p>スキルを伸ばすための選択と行動をするのは、自身の責任です。グループワークと個人ワークを行いながら、自身の選択をして自立と協グループワークのスキルを磨くを期待されます。たとえば「今日は英語の宿題にしばらく時間を費やす」、「理解できないところを先生に説明してもらおう」、「家でよく寝ることで、授業で寝る事がなくなる」のような選択が挙げられる。先生として、あなた自分自身の成功への道を発見出来る様に全力でお手伝いすると約束します。</p>			

科目番号	I12005			担当教員	土居 裕美子	
授業科目名	文学			E-mail	ydoi@nns.tcn.ac.jp	
開講年次	2年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(5名)					
授業の概要	日本文学に描かれた人間についての表現の多様性と豊かさに触れ、人間の生命、死生観、人間関係についての理解を深めることを通して、自らの感性を磨き、多様な価値観に対する想像力と理解力、受容性を高め、より豊かに人生を生きるための染地を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品に描かれた内容を正確に読み取り、作品分析を実践することができる。 ・ 作品に描かれた内容を複数の観点から考察し、自身の読解を的確に表現することができる。 ・ グループワークを通して他者の読解を肯定的に受容し、自身の考えを主体的・対話的に深めることができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション 授業概要・到達目標・評価基準 授業の進め方についての説明	講義	【予習】自身のこれまでの「文学」との関わりを振り返る 【復習】本講義の概要と到達目標を自身に関連付けて理解する	2時間		
2	古典文学に見る生と死(1) 『平家物語』木曾の最期の事 あらすじの確認と古典文学の基礎知識	講義	【予習】授業で取り上げる部分を読み、あらすじをまとめる	2時間		
3	古典文学に見る生と死(2) 『平家物語』木曾の最期の事 「読みのポイント」による読解	講義	【予習】「読みのポイント」を定める 【復習】各自の「木曾の最期」論を800字程度にまとめる	2時間		
4	古典文学に見る生と死(3) 『平家物語』忠度の最期の事	講義	【予習】授業で取り上げる部分を読み、「読みのポイント」を定める 【復習】各自の「忠度の最期」論を800字程度にまとめる	2時間		
5	古典文学に見る生と死(4) 『平家物語』教盛の最期の事	講義	【予習】授業で取り上げる部分を読み、「読みのポイント」を定める 【復習】各自の「教盛の最期」論を800字程度にまとめる	2時間		
6	古典文学に見る生と死(5) 『源氏物語』葵上 あらすじの確認と作品の背景	講義	【予習】授業で取り上げる部分を読み、あらすじをまとめる 【復習】登場人物について理解する	2時間		
7	古典文学に見る生と死(6) 『源氏物語』葵上 映像になった源氏物語	講義	【予習】「読みのポイント」を定める 【復習】源氏物語の享受のされ方を理解する	2時間		
8	古典文学に見る生と死(7) 『源氏物語』葵上	講義	【復習】各自の「葵上」論を800字程度にまとめる	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	近現代文学に見る生と死(1) 村上春樹(1) 人稱と視点	講義	【復習】あらすじを理解し、各自の「読みのポイント」を定める	2時間	
10	近現代文学に見る生と死(2) 村上春樹(2) 象徴と現実	講義	【復習】各自の作品論を1200字程度にまとめる	2時間	
11	近現代文学に見る生と死(3) 村上春樹(3) 生き抜く力	講義	【復習】あらすじを理解し、各自の「読みのポイント」を定める	2時間	
12	近現代文学に見る生と死(4) 村上春樹(4) 闘う力	講義	【復習】各自の作品論を1200字程度にまとめる	2時間	
13	近現代文学に見る生と死(5) 吉本ばなな(1) こころのゆらめき	講義	【復習】あらすじを理解し、各自の「読みのポイント」を定める	2時間	
14	近現代文学に見る生と死(6) 吉本ばなな(2) 時間の物語られ方	講義	【復習】各自の作品論を1200字程度にまとめる	2時間	
15	まとめと振り返り	講義	紹介された関連図書や映像化された作品に触れる	2時間	
先行履修科目					
テキスト	テキストは特に指定せず、取り上げる作品(部分)のプリントを配付する。				
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。				
評価方法	授業態度30%、発表20%、提出物50%				
注意事項	上記「授業計画」以外でも、受講生の希望に応じて作品を取り上げる予定です。受講者全員で作品を深く理解し、それぞれの作品の多様な魅力を引き出していける空間を作っていきます。予習・復習には、配付する「リアクションシート」「リフレクションシート」を活用してください。				

科目番号	115007			担当教員	戸羽 伸一	
授業科目名	手話			E-mail		
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生が受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	単に聴覚障害といっても、その特性や社会生活上の困難さは多岐にわたる。障害の程度等によってコミュニケーション方法等が異なる。そこで様々な日常生活場面であろう者と手話で会話しながら、ろう者について知り、手話の基礎的な力を身につける。					
到達目標	・手話について、必要性を理解し、簡単な日常会話程度の手話の習得ができる。 ・聴覚障害者の日常を知り、聴覚障害者を取り巻く問題を理解することができる。					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	聴覚障害者と手話の基礎知識	講義	【予習】 ・テキストの「知ってほしいこと①～⑤」を読んでくること。 ・指文字を練習してくること。	2時間		
2	つたえあってみよう	演習	【復習】物の形、動作の特徴をとらえ、身体全体で表現する練習を繰り返し行うこと。	2時間		
3	自己紹介をしてみよう	演習	【復習】自分の名前、家族の手話を正しく表現できるように繰り返し練習すること。	2時間		
4	あいさつをしてみよう	演習	【復習】あいさつや、質問の手話を正しく表現できるように繰り返し練習すること。	2時間		
5	手話がわからなかったときこんなときどうする？①	演習	【復習】手話がわからなかった時の聞き返し方を正しく表現できるように繰り返し練習すること。	2時間		
6	数学や時間の表現を覚えよう	演習	【復習】数字や時間の手話を正しく覚え、1日のことを話せるように繰り返し練習すること。	2時間		
7	趣味のことを話そう	演習	【復習】身振りなどを使って、趣味や好きなことを伝えられるように繰り返し練習すること。	2時間		
8	行きたい場所の表現を覚えよう	演習	【復習】県名や地域などの場所の手話を正しく表現できるように繰り返し練習すること。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	聴覚障害者と医療現場小テスト	講義	【予習】 ・ろう者が医療現場で困る事は何かを調べてくること。 ・今まで学んだ手話を正しく表現できるように練習してくること。	2時間	
10	病気やけがで困ったときこんなときどうする？②	演習	【復習】今回の授業で学んだ手話を正しく表現できるように繰り返し練習すること。	2時間	
11	お天気と乗物の手話を覚えよう	演習	【復習】天気や目的地への行き方などを正しく表現できるように繰り返し練習すること。	2時間	
12	買い物とお金の表現を覚えよう	演習	【予習】数字の手話を練習してくること。 【復習】買い物場面での会話を正しく表現できるように繰り返し練習すること。	2時間	
13	聴覚障害者の生活小テスト	講義	【予習】 ・テキストの「知ってほしいこと⑥～⑨」を読んでくること。 ・今まで学んだ手話を正しく表現できるように練習してくること。	2時間	
14	災害に関する手話を学ぼう	演習	【復習】災害に関する手話を正しく表現できるように繰り返し練習すること。	2時間	
15	今まで学んだ手話を活かして話してみよう	演習	【予習】今まで学んだ手話を使って、自己紹介ができるように練習してくること。	2時間	
先行履修科目					
テキスト	「聴さんと学ぼう」 「わたしたちの手話学習辞典Ⅰ」				
参考文献	「新・手話教室(入門)」他				
評価方法	定期試験 80%、レポート 20%				
注意事項	手話サークルや、鳥取県聴覚障害者協会主催の行事に自主参加し、様々な聴覚障害の方とコミュニケーションを図ることで学習の成果を積み重ねていく。				

【地域志向科目】

科目番号	211002			担当教員	早川 大輔	
授業科目名	人体の構造と機能A			E-mail		
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	看護の対象となるヒトの身体を理解するために、人体の正常な構造(解剖学)と機能(生理学)を学ぶ。人体の基本構造と機能について概説し、病態生理の理解や看護の実践に役立てられるように動機付ける。多くの標本・画像を供覧しながら、運動器系(骨格系・筋系)と末梢神経系(脊髄神経・脳神経)について、その構造と機能を学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の構造と機能に関する用語とその意味を正しく説明できる。 ・運動器系(骨格系・筋系)の機能を説明でき、全身の運動器系を概説できる。 ・末梢神経系の種類と機能を説明できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション 人体の階層性(細胞・組織・器官・器官系) 各器官系の概要	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業中に理解しにくかった箇所については、十分に調べて理解する。	2時間		
2	人体の区分と身体各部の名称 身体の方位・部位を示す用語 身体内部の腔所	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
3	骨の形態と構造 骨の発生と成長 骨の生理的機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
4	骨の連結 運動の方向を示す用語 関節の種類と構造	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
5	筋系の形態と構造 筋の生理的機能・収縮のメカニズム	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
6	神経系概論 神経系の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
7	脊髄と脊髄神経 脳神経	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
8	体幹の骨格系①(脊柱・胸郭)	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	上肢の骨格系	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
10	下肢の骨格系	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
11	体幹の骨格系②(頭蓋)	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
12	頭頸部の筋 胸部の筋	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
13	腹部の筋 背部の筋	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
14	上肢の筋 下肢の筋	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
15	運動器系と末梢神経系の総復習	講義	前回までの授業内容を十分復習しておく。	2時間	
先行履修科目	化学、生物を履修することが望ましい。				
テキスト	系統看護学講座「人体の構造と機能[1]解剖生理学」：坂井建雄・岡田隆夫著、医学書院配布プリント				
参考文献	トートラ人体解剖生理学：ジェラルド・J／トートラ著、丸善出版 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学、林正健二編、メディカ出版 カラー人体解剖学：井上貴史監訳、西村書店				
評価方法	定期試験 90%、小テスト 10%				
注意事項	「人体の構造と機能A～D」は、それぞれ独立した科目設定になってはいるが、すべてを学習することにより、解剖生理学の全体が把握できることになる。				

科目番号	211004			担当教員	早川 大輔、荒川 満枝	
授業科目名	人体の構造と機能C					
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修			
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	看護の対象となるヒトの身体を理解するために、人体の正常な構造(解剖学)と機能(生理学)を学ぶ。生物の基本構成単位である細胞とその集合である組織について解説する。多くの標本・画像を供覧しながら、消化器系・呼吸器系・血液について、その構造と機能を学び、病態生理の理解や看護の実践に役立てられるように動機付ける。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の構造と機能を説明できる 消化器系の正常な構造と機能を概説できる。 呼吸器系の正常な構造と機能を概説できる。 血液の組成とそれぞれの機能を説明し、さらに血液凝固のメカニズムを概説できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	細胞の構造と機能 細胞の化学成分とエネルギー生成	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業中に理解しにくかった箇所については、十分に調べて理解する。	2時間		
2	細胞膜の構造と機能 細胞分裂と染色体	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
3	組織の分類とそれらの機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
4	消化器系概論 口腔・咽頭・食道の構造	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
5	口腔・咽頭・食道の機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
6	胃・小腸・大腸の構造	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
7	胃・小腸・大腸の機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
8	肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜の構造	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	肝臓・胆嚢・膵臓の機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
10	呼吸器系概論 呼吸器系の構造	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
11	内呼吸と外呼吸 呼吸器と呼吸運動 呼吸気量	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
12	ガス交換とガスの運搬 肺の循環と血流 呼吸運動の調節	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
13	血液の組成と機能 赤血球・白血球・血小板	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
14	血漿タンパク質 血液凝固と線維素溶解 血液型	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
15	消化器系・呼吸器系・血液の総復習	講義	前回までの授業内容を十分復習しておく。	2時間	
先行履修科目	化学、生物を履修することが望ましい。				
テキスト	系統看護学講座「人体の構造と機能[1]解剖生理学」：坂井建雄・岡田隆夫著、医学書院配布プリント				
参考文献	トートラ人体解剖生理学：ジェラルド・J／トートラ著、丸善出版 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学、林正健二編、メディカ出版 カラー人体解剖学：井上貴央監訳、西村書店				
評価方法	定期試験 90%、小テスト 10%				
注意事項	「人体の構造と機能A～D」は、それぞれ独立した科目設定になってはいるが、すべてを学習することにより、解剖生理学の全体が把握できることになる。				

科目番号	211006			担当教員	増本 年男	
授業科目名	生物学			E-mail	imasumolo@med.tottori-u.ac.jp	
開講年次	1年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(20名)					
授業の概要	生物体の構造や有機的に関連している様々な生体事象は複雑かつ巧妙に機能している。この講義では生物学の基礎を学び、細胞レベル、個体レベルでの生物が示す生命現象に対する理解を深める。生命体のあり方の概要を学ぶとともに生体分子、細胞、遺伝、免疫、人体の構造などについての基本的な概念、専門用語、法則を習得し、医療現場で必要となる知識を確立することを目標とする。また、進展が著しい最先端の研究成果や応用分野についても学習を深める。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 細胞の構造と機能を理解すると同時に生体のエネルギー及び、細胞の増殖の仕組みを理解する。 遺伝情報の伝達と発現について理解すると同時に、遺伝子操作の関わる最先端の医学を理解する。 環境の中で個体の調節と生体高次機能について理解する。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	細胞の構造と機能	講義	教科書第1章を熟読する	1時間		
2	生体維持のエネルギー	講義	教科書第2章を熟読する	1時間		
3	細胞増殖	講義	教科書第3章を熟読する	1時間		
4	遺伝情報と伝達	講義	教科書第4章を熟読する	1時間		
5	遺伝情報の発現	講義	教科書第4章を熟読する	1時間		
6	生殖と発生	講義	教科書第5章を熟読する	1時間		
7	個体の調節	講義	教科書第6章を熟読する	1時間		
8	神経系のはたらき	講義	教科書第7章を熟読する	1時間		

先行履修科目	
テキスト	系統看護学 基礎分野 生物
参考文献	
評価方法	定期試験 60%、レポート 20%、小テスト 20%
注意事項	

科目番号	213002			担当教員	竹田 伸也	
授業科目名	臨床心理学			E-mail		
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	可(10名)					
授業の概要	看護師として臨床現場で働くには、自己理解と他者理解を深め、良い人間関係を結び、自律的に問題を解決する力が求められます。本講義では、臨床心理学の諸理論を学ぶことで、患者の理解と対応力を上げ、自分が健康に仕事を続けるためのスキルを身につけることを目指します。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人間の心理や行動を多面的に理解する態度を養う。 自分のストレスをうまくコントロールする力を養う。 患者に対する理解力や援助技術力を養う。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション(この講義で何を学び、何が得られるか)	講義	【復習】心の健康を守ることが自分にとってどのような意義があるかを考えること。	1時間		
2	失敗を引きずらず自信を育むスキル1(失敗を引きずるカラクリを学ぶ)	講義	【予習】テキスト第1章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間		
3	失敗を引きずらず自信を育むスキル2(認知療法の実際を学ぶ)	講義	【予習】テキスト第1章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間		
4	角を立てずに言いたいことを言うスキル1(自己主張できないカラクリを学ぶ)	講義	【予習】テキスト第2章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間		
5	角を立てずに言いたいことを言うスキル2(Aサーションを学ぶ)	講義	【予習】テキスト第2章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間		
6	患者の行動を理解するスキル1(行動アセスメントによる患者理解を学ぶ)	講義	【予習】テキスト第3章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間		
7	患者の行動を理解するスキル2(行動療法による対応を学ぶ)	講義	【予習】テキスト第3章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間		
8	患者の意欲を引き出すスキル(認知行動療法を学ぶ)	講義	【予習】テキスト第4章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	複雑な問題を解決するスキル1(問題が解決できなくなるカラクリを学ぶ)	講義	【予習】テキスト第5章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間	
10	複雑な問題を解決するスキル2(問題解決技法を学ぶ)	講義	【予習】テキスト第5章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間	
11	患者に苦手意識をもたないスキル(構造化を学ぶ)	講義	【予習】テキスト第6章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間	
12	イライラをコントロールするスキル(アンガーコントロールを学ぶ)	講義	【予習】テキスト第7章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間	
13	仕事の疲れをコントロールするスキル(リラクゼーションを学ぶ)	講義	【予習】テキスト第8章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間	
14	ぐっすりと眠れるためのスキル(患者と看護師の睡眠コントロールを学ぶ)	講義	【予習】テキスト第9章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間	
15	職場での人間関係を築くスキル(対人関係療法を学ぶ)	講義	【予習】テキスト第10章を読んだうえで授業に臨むこと。 【復習】授業で習ったことを日常生活で実践してみる。	1時間	
先行履修科目					
テキスト	対人援助職に効くストレスマネジメント(竹田伸也著、中央法規)				
参考文献	マイナス思考と上手につきあう認知療法トレーニング・ブック(竹田伸也著、遠見書房) 対人援助職に効く認知行動療法ワークショップ(竹田伸也著、中央法規)				
評価方法	レポート70%、小テスト20%、授業態度10%				
注意事項	この講義は、ただ知識を伝えるだけでなく、臨床心理学についてワークショップ形式で体験的に学んでもらいたいと考えています。一緒に、学びを楽しみましょう。				

科目番号	213003			担当教員	河村 壮一郎	
授業科目名	人間関係論			E-mail		
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	人間関係の知識を社会心理学に基づいて学習し、看護での対人関係に必要となる考え方や方法を身につけます。グループワークを通して自己の人間関係に対する理解を深めるとともに、他者と向き合う力を養成します。また、集団で協働する意義について理解を深めます。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の心理的側面を中心に、対人行動の基本的なメカニズムを説明できる。 ・他者との円滑にコミュニケーションすることができる。 ・新たな人間関係に関わる意欲的な態度をもっている。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	対人認知 印象形成、ステレオタイプ	講義	【復習】授業で説明した内容の具体例を考察すること。	0.5時間		
2	対人魅力 近接性、類似性、返報性	講義	【復習】授業で取り組んだ課題の感想をまとめること。	0.5時間		
3	コミュニケーション 双方向性、符号化・解読	講義	【復習】自身のコミュニケーション行動の特徴を考察すること。	0.5時間		
4	非言語的コミュニケーション 表情、動作、対人距離	講義	【復習】授業で学習したことを応用する場面を考察すること。	0.5時間		
5	受容的コミュニケーション ラポール、共感、傾聴	講義	【復習】授業で取り組んだ課題の感想をまとめること。	0.5時間		
6	認知的コミュニケーション 態度変容、心理的リアクタンス	講義	【復習】授業で学習したことを応用する場面を考察すること。	0.5時間		
7	集団 傍観者効果、社会的促進	講義	【復習】授業で説明した内容の具体例を考察すること。	0.5時間		
8	協力的行動 囚人のジレンマ、集団極性化	講義	【復習】授業で取り組んだ課題の感想をまとめること。	0.5時間		

先行履修科目	
テキスト	
参考文献	「ワークショップ 人間関係の心理学」 藤本 忠明・東 正訓 ナカニシヤ出版
評価方法	レポート 80%、授業態度 20%
注意事項	

科目番号	211003			担当教員	早川 大輔	
授業科目名	人体の構造と機能B					E-mail
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修			
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	看護の対象となるヒトの身体を理解するために、人体の正常な構造(解剖学)と機能(生理学)を学ぶ。多くの標本・画像を供覧しながら、泌尿器系・生殖器系・感覚器系、中枢神経について、その構造と機能を学び、病態生理の理解や看護の実践に役立てられるように動機付ける。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器系の構造と機能を説明できる。 ・生殖器系の構造と機能および女性の生殖機能を説明できる。 ・感覚器系(皮膚・眼・耳)の構造と機能を説明できる。 ・脳の構造と機能を説明できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション 泌尿生殖器系概論 腎臓の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業中に理解しにくかった箇所については、十分に調べて理解する。	2時間		
2	排尿路(尿管・膀胱・尿道)の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
3	体液の調節	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
4	男性生殖器の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
5	女性生殖器の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
6	乳房 女性の生殖機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
7	受精と胎児の発生	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
8	感覚器系概論 皮膚の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	眼の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
10	耳の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
11	脳幹・小脳の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
12	間脳・大脳の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
13	下行伝導路と上行伝導路	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
14	体表解剖学	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
15	泌尿生殖器系・感覚器系・脳の総復習	講義	前回までの授業内容を十分復習しておく。	2時間	
先行履修科目	化学、生物を履修することが望ましい。				
テキスト	系統看護学講座「人体の構造と機能[1]解剖生理学」：坂井建雄・岡田隆夫著、医学書院				
参考文献	トートラ人体解剖生理学：ジェラルド・J／トートラ著、丸善出版 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学、林正健二編、メディカ出版 カラー人体解剖学：井上貴央監訳、西村書店				
評価方法	定期試験 90%、小テスト 10%				
注意事項	「人体の構造と機能A～D」は、それぞれ独立した科目設定になっているが、すべてを学習することにより、解剖生理学の全体が把握できることになる。				

科目番号	211005			担当教員	早川 大輔、荒川 満枝	
授業科目名	人体の構造と機能D			E-mail		
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	看護の対象となるヒトの身体を理解するために、人体の正常な構造(解剖学)と機能(生理学)を学ぶ。多くの標本・画像を供覧しながら、生体防御系(免疫系)・循環器系・内分泌系について、その構造と機能を学び、病態生理の理解や看護の実践に役立てられるように動機付ける。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫の種類とそれぞれの働きを説明できる。 ・心臓の構造について説明できる。 ・血液循環の生理について概説できる。 ・ホルモンの種類とそれぞれの作用を説明できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション 生体防御機構概論 非特異的防御機構	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業中に理解しにくかった箇所については、十分に調べて理解する。	2時間		
2	特異的防御機構－免疫	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
3	リンパ性器官(リンパ節・胸腺・脾臓)の構造と機能	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
4	体温とその調節	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
5	循環器系概論 心臓の構造	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
6	心臓の興奮とその伝播 心電図 心臓の収縮	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
7	末梢循環系の構造(動脈系)	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		
8	末梢循環系の構造(静脈系)	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	血圧 血圧の循環	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
10	血圧・血液量の調節 微小循環	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
11	自律神経系による内臓機能の調節	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
12	内分泌系概論 視床下部-下垂体系	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
13	甲状腺・上皮小体 副腎・性腺	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
14	ホルモン分泌の調節	講義	授業内容の教科書該当部分に事前に目を通しておく。授業内容を十分復習するとともに、提示された課題について学習する。	2時間	
15	免疫系・循環器系・内分泌系の総復習	講義	前回までの授業内容を十分復習しておく。	2時間	
先行風修科目	化学、生物を風修することが望ましい。				
テキスト	系統看護学講座「人体の構造と機能[1]解剖生理学」：坂井建雄・岡田隆夫著、医学書院 配布プリント				
参考文献	トートラ人体解剖生理学：ジェラルド・J／トートラ著、丸善出版 ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学：林正健二編、メディカ出版 カラー人体解剖学：井上貴央監訳、西村書店				
評価方法	定期試験 90%、小テスト 10%				
注意事項	「人体の構造と機能A～D」は、それぞれ独立した科目設定になっているが、すべてを学習することにより、解剖生理学の全体が把握できることになる。				

科目番号	213001			担当教員	南 潮	
授業科目名	発達心理学			E-mail	minami@ns.cygnus.ac.jp	
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修			
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生が受入(受入可能人数)	可(10名)					
授業の概要	生涯発達の視点から乳児期から老年期に至る各ライフステージの特徴と発達課題の整理を行うと共に、知的機能・情緒・コミュニケーション・社会性の発達について学ぶ。特に乳幼児期を中心として理論から臨床へつなぐための考え方について検討する。また発達障害・精神疾患について概観し、発達臨床に携わる他職種の活動とその連携について学習する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生涯発達について理解し、どの年代の相手に対しても適切な接し方ができるようになる。 知的機能、情緒、コミュニケーション、社会性といった心の発達について理解する。 発達障害・精神疾患の概略と発達臨床に携わる他職種の活動について理解する。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	発達心理学の基本概念	講義	【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間		
2	胎生期、新生児期	講義	【予習】参考文献 p. 2-21 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間		
3	乳児期	講義	【予習】参考文献 p. 22-41 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間		
4	幼児期(愛着・情緒の発達)	講義	【予習】参考文献 p. 42-61 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間		
5	幼児期(知的機能の発達)	講義	【予習】参考文献 p. 62-67 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間		
6	幼児期(社会性の発達)	講義	【予習】参考文献 p. 68-81 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間		
7	乳幼児発達検査の理解	講義	【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間		
8	児童期	講義	【予習】参考文献 p. 82-101 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	青年期	講義	【予習】参考文献 p. 102-121 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間	
10	成人前期・成人期	講義	【予習】参考文献 p. 122-141 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間	
11	発達検査と心理検査	講義	【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間	
12	発達障害と精神疾患	講義	【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間	
13	老年期	講義	【予習】参考文献 p. 142-161 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間	
14	発達臨床の現場	講義	【予習】参考文献 p. 162-181 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間	
15	まとめ	講義	【予習】参考文献 p. 182-201 を読む 【復習】配布テキストを読み直し、不明だった点や更に詳しく知りたいと思った点について授業中に紹介する文献を用いて調べる	2時間	
先行履修科目					
テキスト	必要に応じて都度配布				
参考文献	無藤隆他編「よくわかる発達心理学」(ミネルヴァ書房)				
評価方法	定期試験 50%、レポート 20%、授業態度 30%				
注意事項					

科目番号	213004			担当教員	山脇 彰子、山本 智子	
授業科目名	ホスピタリティ論			E-mail		
開講年次	1年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(若干名)					
授業の概要	<p>人が人を思いやり、寄り添う人間関係が基本にあることによって、看護はその力を発揮する。つまり、患者の思いを大切に受け止めて理解し、その心に寄り添い、患者にどう向き合うか、そこに看護の出発点がある。この基本を踏まえて、本授業では看護におけるホスピタリティとは何か、ホスピタリティはなぜ必要なのかを考察する。看護や介護、病院といった狭い人間関係に限定せず、日常生活の様々な場面を想定して、社会人としてのマナーやホスピタリティ・マインドのポイントとその技法を学ぶ。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護におけるホスピタリティの必要性を理解し、実践出来る。 ・社会人として正しいマナーを身に付け、行動化出来る。 ・相手の気持ちを知り、向き合っているために、自分自身を知る。 ・相手の気持ちに寄り添うということが自分にとってどういう事であるか、言語化できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	ホスピタリティの必要性 第一印象の重要性	講義 演習	(復習) ・自分の第一印象を良くする為に、努力する事は何かを考える。	1時間		
2	自己を知る(自己のアサーションをチェック)	講義 演習	(復習) ・自己表現の傾向を知る。 ・「20の私」で自己評価の難に気付く。	1時間		
3	自己を知る(EQチェック) 相手を知る	講義 演習	(復習) ・自分の強み・弱みを認識する。 ・今後、どの様に活かしていくかを考える。	1時間		
4	ホスピタリティマナー (言葉遣い)	講義	(復習) ・敬語・謙語・丁寧語の交換形式を覚える。 ・宿題のプリントを実施する。	1時間		
5	ホスピタリティマナー (態度)	講義	(復習) ・テキスト・プリントを再度読み直す。	1時間		
6	ホスピタリティコミュニケーションの重要性 傾聴	講義	(復習) ・プリントを再度読み直す。	1時間		
7	ホスピタリティコミュニケーション 伝え方	講義	(復習) ・テキスト・プリントを再度読み直す。	1時間		
8	文化とホスピタリティ まとめ	講義	(復習) ・テキストを再度読み直し、周回のホスピタリティ溢れる事項を観察する。	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	オリエンテーション 看護者になるということ1 (白兔神社参拝)	演習	看護者となろうとした決心した自分自身を振り返る	1時間	
10	看護者になるということ2 (白兔神社参拝)	演習	友人と語り合っ考えたことを考察し、文章に起こしてみる	1時間	
11	自分について知る	講義	自身の考え方やものごとの受け取り方、自分自身をどう感じ、考えるか	1時間	
12	自分の表現のしかたについて知る	講義	自身の表現のクセや、タイプについて知り、振り返るとともにその原因を考察する	1時間	
13	相手の気持ちを知らうとする	講義	相手の気持ちを感じ取り、考える方法を知る。相手の気持ちを感じ取った感覚を経験する。	1時間	
14	ひととかわかる態度・姿勢	講義	相手を思いやる態度や姿勢を知る。その態度や姿勢を実践し、練習する。	1時間	
15	自分を表現する	講義	自分自身のタイプを考慮した上で、相手を思いやりながら自分を表現する方法を考察し、実践してみる。	1時間	
先行履修科目					
テキスト	「レッツ、ホスピタリティ」経済法令研究会 「すぐに役立つ ビジネスマナー これであなともマナーの達人」(有)関西レディーズコーポレーション 平木典子：相手の気持ちをきちんと〈聞く〉技術 会話が続く、上手なコミュニケーションができる！、PHP、2013				
参考文献	「よくわかる アサーション 自分の気持ちの伝え方」主婦の友社 「ホスピタリティ 実践コース」経済法令研究会				
評価方法	定期試験 45%、授業態度 5% レポート等提出物 50%				
注意事項					

科目番号	214001			担当教員	細田 武伸	
授業科目名	公衆衛生学			E-mail	tkhosoda@icn.ac.jp	
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	可(5名)					
授業の概要	公衆衛生学は、人々の生命と生活を築き、またこれを守るための学問である。したがって、疾病の治療のみでなく、積極的な健康増進に到る広い範囲を包含する。本科目では、看護師および保健師に必要な公衆衛生学の意義と目的、歴史とともに、人々の健康状況の動向および疾病予防や健康増進対策について理解する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生の歴史的経緯と基本的原理及びプライマリーヘルスケアについて理解を深める。 疫学を含む公衆衛生の技術について基本的な理解を深める。 公衆衛生の実践場面について、事例ごとに想定して対策の概要を考えられるようになる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	公衆衛生の基礎を学ぶ(1) 公衆衛生の歴史的経緯と定義について	講義	教科書の「公衆衛生の歴史的経緯と定義」を読んで復習する。	3時間		
2	公衆衛生の基礎を学ぶ(2) プライマリーヘルスケアの定義と目標について。保助看法の歴史と意義の復習	講義	教科書の「プライマリーヘルスケアの定義と目標」を読んで復習する。	3時間		
3	公衆衛生の基礎を学ぶ(3) 基本的人権と人権保護①(裁判例から学ぶ)	講義	教科書の「基本的人権と人権保護」を読んで復習する。	3時間		
4	公衆衛生の基礎を学ぶ(4) 基本的人権と人権保護②	講義	教科書の「基本的人権と人権保護」を読んで復習する。	3時間		
5	健康と環境(1) 人にとって環境とは何か？(生態系と環境)	講義	教科書の「生態系と環境」を読んで復習する。	3時間		
6	健康と環境(2) 生活環境の保全と地球環境	講義	教科書の「生活環境の保全と地球環境」を読んで復習する。	3時間		
7	公衆衛生の基礎(1) 疫学と健康指標、新しい健康概念と健康づくり支援	講義	教科書の「疫学と健康指標、新しい健康概念」を読んで復習する。	3時間		
8	日本の社会保障制度と医療制度体系①(医療保険制度と医療法)	講義	教科書の「医療保険制度と医療法」を読んで復習する。	3時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	日本の社会保障制度と医療制度体系(介護保険制度と生活保護制度)	講義	教科書の「介護保険制度と生活保護制度」を読んで復習する。	3時間	
10	日本の社会保障制度と医療制度体系。公衆衛生とグローバルイゼーション(国際保健と国際協力)	講義	教科書の「国際保健と国際協力」を読んで復習する。	3時間	
11	公衆衛生の実践(1) 地域とは何か？(地域保健)	講義	教科書の「地域保健」を読んで復習する。	3時間	
12	公衆衛生の実践(2) 母子保健、成人保健・老人保健	講義	教科書の「母子保健、成人保健・老人保健」を読んで復習する。	3時間	
13	公衆衛生の実践(3) 精神保健と難病保健(障がいのある者への支援)	講義	教科書の「精神保健と難病保健」を読んで復習する。	3時間	
14	公衆衛生の実践(4) 感染症予防と対策	講義	教科書の「感染症予防と対策」を読んで復習する。	3時間	
15	公衆衛生の実践(5) 場面別公衆衛生の実践-学校保健、産業保健の概要-	講義	教科書の「場面別公衆衛生の実践-学校保健、産業保健」を読んで復習する。	3時間	
先行履修科目	人体の構造と機能A、人体の構造と機能B				
テキスト	「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂				
参考文献	「系統看護学講座健康支援と社会保障制度(Ⅱ) 公衆衛生」医学書院				
評価方法	定期試験 35%、中間試験 35%、講義毎の課題 30%				
注意事項	復習を忘れに、自分のノートを作成し、学習すること。				

【地域志向科目】

科目番号	211007			担当教員	加古 大也	
授業科目名	代謝学・栄養学			E-mail	kako@ns.cygnus.ac.jp	
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	可(若干名)					
授業の概要	ヒトは従属栄養生物であり、外から栄養素を取り入れ生体活動を維持している。この栄養素の構造的特性、及び生体内での栄養素の消化・吸収・代謝のシステム、また、その過程で必要とされる酵素やビタミン、無機質の働きを学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の構成や特徴をつかむ。 ・栄養素の消化・吸収・代謝利用について整理・理解する。 ・栄養と疾病の関係について理解する。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	イントロダクション、食品の機能性(一次機能、二次機能、三次機能)	講義	・授業内容の復習を行う	1時間		
2	栄養素の構造と性質(糖質・脂質・たんぱく質)①	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間		
3	栄養素の構造と性質(糖質・脂質・たんぱく質)②	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間		
4	栄養素の構造と性質(ビタミン、ミネラル、食物繊維、水)	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間		
5	細胞の構造と機能、細胞内小器官	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間		
6	摂食行動	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間		
7	消化・吸収・代謝の概要、酵素反応	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間		
8	栄養素の消化・吸収・代謝①(糖)	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	栄養素の消化・吸収・代謝②(糖、脂質)	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間	
10	栄養素の消化・吸収・代謝③(脂質、アミノ酸)	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間	
11	栄養素の消化・吸収・代謝④(アミノ酸)	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間	
12	核酸の構造と代謝	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間	
13	栄養素の過剰症・欠乏症	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間	
14	代謝の異常	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間	
15	エネルギー代謝	講義	・テキスト該当範囲を読み、内容を確認する ・授業内容を復習し、定着をはかる	3時間	
先行履修科目	化学及び生物学を履修していることが望ましい。また、人体の構造と機能A・Bを履修すること。				
テキスト	三輪一智「系統看護学講座 生化学」(医学書院) 中村丁次「系統看護学講座 栄養学」(医学書院)				
参考文献	高畑雅一ら「系統看護学講座 生物学」(医学書院) 杉田良樹「系統看護学講座 化学」(医学書院) 医療情報科学研究所編「病気がみえる vol. 3」(メディックメディア) 高校で使用した化学、生物学系の教科書や資料集				
評価方法	筆記試験 90%、授業態度(小テストや提出物を含む) 10%				
注意事項	授業の進度などにより、内容が前後する可能性がある。				

科目番号	212003			担当教員	荒川 満枝	
授業科目名	看護病態学			E-mail		
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修		資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	病気とは何か、病が起こっている体の状態を学び、病の起るメカニズムを理解する。看護を目指す学生が、論理的な思考の下に、病を持つ人の看護を実践できるよう導く。その際、健康な人の形態、組織の状態の知識をもとに、その状態がどのように破綻しているのか、またその状態に対して、人はどのように反応するのか、その機能の関連のもとに解析する知識と考察力を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病の起る状況の主な要因とその特徴が説明できる。 ・身体各器官の異常により生じる症候のメカニズムを図示し説明できる。 ・病の要因と人体の反応の機序を看護の根拠として導く姿勢が持てる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション、生理学と病理学、病因	講義	疾病、症状、徴候、症候群、病因、内因、外因	1時間		
2	循環障害	講義	虚血、梗塞、充血、うっ血、浮腫、腹水、胸水、出血	1時間		
3	細胞・組織の障害	講義	細胞や組織の変性、炎症、変形と圧迫による障害	1時間		
4	感染症、腫瘍	講義	病原体と感染症、感染、感染症の治療と予防、良性腫瘍と悪性腫瘍、転移、がん遺伝子	1時間		
5	先天異常と遺伝子異常	講義	奇形、遺伝子異常、染色体異常	1時間		
6	老化と死、皮膚体温調節のしくみと病態生理	講義	老化、死の定義、皮膚障害、発熱	1時間		
7	免疫のしくみと病態生理	講義	免疫のしくみ、免疫不全、アレルギー、自己免疫疾患	1時間		
8	体液調節のしくみと病態生理	講義	脱水症、電解質異常、酸塩基平衡異常、代償	1時間		

先行履修科目	人体の構造と機能A、人体の構造と機能B、人体の構造と機能C、人体の構造と機能D
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進 2 田中越郎著 医学書院
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 1 大橋健一著 医学書院
評価方法	定期試験 95%、授業態度 5%
注意事項	復習をしっかりとしましょう。

科目番号	212004			担当教員	荒川 満枝	
授業科目名	看護病態学演習			E-mail		
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修			
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間 (1単位)			
科目等履修生が受入(受入可能人数)		不可				
授業の概要	看護病態学で学んだ、病の起こっている状態の体の状態や病の原因について、演習を交えて体験し確実な知識とすることを目的とする。各臓器の正常組織および病理組織の顕微鏡観察で組織レベルでの疾病理解を深めるとともに、人の健康や病の状態を見る指標として重要となるバイタルサイン(特に循環器系)の変化について演習を通して理解を深める。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病の起こっている状態の体の状態や、病の原因について説明することができる。 ・組織・細胞レベルで疾病を理解し、説明することができる。 ・疾病の原因とその生体の反応について、一般の方に向けて平易な言葉で説明できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	血液・造血系の疾患	講義演習	貧血、白血球の腫瘍化、出血傾向	1時間		
2	循環器系の疾患(血管の疾患)	講義演習	低血圧、ショック、高血圧、動脈硬化、動脈瘤、静脈瘤、肺塞栓症、チアノーゼ	1時間		
3	循環器系の疾患2(心臓の疾患)	講義演習	狭心症、心筋梗塞、心不全、弁膜症、先天性心疾患	1時間		
4	循環器系の疾患3(不整脈)	講義演習	正常洞調律、洞不全症候群、伝導ブロック、期外収縮	1時間		
5	循環器系の疾患4(心電図)	講義演習	心電図計、12誘導心電図	1時間		
6	呼吸のしくみの異常	講義演習	呼吸器系の防御機構の破綻、換気の仕組の破綻	1時間		
7	消化・吸収のしくみの異常1	講義演習	咀嚼・嚥下機能の破綻、胃・腸管の障害、消化吸収の障害	1時間		
8	消化・吸収のしくみの異常2	講義演習	肝臓・膵臓・胆嚢の機能の破綻、腹膜腔・腹膜機能の障害	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	腎・泌尿器のしくみの異常	講義演習	腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、神経因性膀胱	1時間	
10	内分泌の異常1	講義演習	脳下垂体ホルモン異常、成長ホルモン異常、副腎皮質ホルモン異常	1時間	
11	内分泌の異常2	講義演習	甲状腺ホルモン異常、副腎髄質ホルモン異常	1時間	
12	代謝障害	講義演習	糖尿病、脂質代謝異常、尿酸代謝異常	1時間	
13	生殖のしくみの異常	講義演習	月経異常、生殖器の腫瘍	1時間	
14	脳・神経のはたらきの異常	講義演習	脳血管障害、髄膜・髄液の障害、脳圧異常、脳腫瘍	1時間	
15	筋のはたらきの異常、感覚器の異常	講義演習	運動制御の働きの異常、筋収縮の異常、視覚器の異常、聴覚器の異常	1時間	
先行風修科目	人体の構造と機能A、人体の構造と機能B、人体の構造と機能C、人体の構造と機能D				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進 2 田中越郎著 医学書院				
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 1 大橋健一著 医学書院				
評価方法	定期試験70%、実技15%、提出物(スケッチ)15%				
注意事項	復習をしっかりとしましょう。				

科目番号	211001		担当教員	見尾 保幸	
授業科目名	生殖と倫理				
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修		
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)			資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業の概要					
到達目標					
授業計画					
回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
先行履修科目					
テキスト					
参考文献					
評価方法					
注意事項					

科目番号	212001			担当教員	荒川 満枝	
授業科目名	感染免疫学			E-mail		
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 介護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)		可(5名)				
授業の概要	感染症は現在も医療の重要課題である。院内感染制御や感染症の対策と予防を、明確な根拠を持って実践できる看護師をめざして、微生物という生命体を理解した上で、感染症の症状、治療を学ぶと共に、生体の重要な防御機構である免疫学、その応用、感染予防方法の原理を理解し、臨床応用できる能力の基礎を形成する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症を引き起こす病原体にはどのようなものがあるか、その感染様式と共に述べるができる。 ・感染症の治療と病原体の滅菌や消毒について、またその限界について述べるができる。 ・感染症に対する反応としての免疫と、その応用としての予防接種について述べるができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	コースオリエンテーション 病原微生物について	講義	細菌、ウイルス、真菌の違い	1時間		
2	病原微生物としての細菌の一般性状	講義	細菌の形状、細菌の一般性状、細菌の生育条件、毒素	1時間		
3	病原微生物としてのウイルスの一般性状	講義	ウイルスの形状、ウイルスの複製、ウイルスの複製	1時間		
4	病原微生物の感染様式・感染経路と病態	講義	感染とは、感染経路、感染様式、ベクターとその制御	1時間		
5	呼吸器感染症の感染様式と治療と予防	講義	インフルエンザ、レンサ球菌、結核菌、ジフテリア、百日咳 特異的治療と対症療法	1時間		
6	消化器感染症を起こす病原体 1-細菌を中心に-	講義	黄色ブドウ球菌、大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、その他食中毒菌の症状と予防	1時間		
7	消化器感染症を起こす病原体 2-ウイルスを中心に-	講義	肝炎ウイルス、ノロウイルス、ロタウイルスの症状と予防、消毒方法	1時間		
8	神経系に対する感染症を起こす病原体とその治療と予防	講義	髄膜炎菌、破傷風菌、狂犬病その他神経系の感染症の症状と治療、予防	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	全身への感染症をおこす病原体とその治療と予防	講義	麻疹、風疹、水痘・帯状疱疹、ムンプスの症状と治療、予防	1時間	
10	皮膚感染症やSTD、血液疾患をおこす病原体とその治療と予防	講義	炭疽菌、梅毒、淋菌、HIV、HTLV-1の症状と治療、予防	1時間	
11	感染症に対する生体防御機構としての免疫系の構成	講義	免疫系細胞の種類とその働き、異物の認識	1時間	
12	液性免疫と細胞性免疫	講義	抗体の種類とその特徴、細胞性免疫担当細胞の働き	1時間	
13	自然免疫と獲得免疫、感染症に対する免疫の活用、アレルギー	講義	自然免疫、獲得免疫、ワクチン、受動免疫と能動免疫、アレルギーの種類	1時間	
14	滅菌と消毒	講義	滅菌方法の種類、消毒法・消毒剤の種類とその使用方法	1時間	
15	医療関連感染の制御	講義	日和見感染、菌交代症、スタンダードプリコーション、感染経路別対策	1時間	
先行履修科目					
テキスト	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③臨床微生物・医動物 矢野久子ら メディカ出版				
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野疾病のなりたちと回復の促進 4 微生物学 南嶋 洋一ら 医学書院				
評価方法	定期試験 90%、レポート 10%				
注意事項	授業で学んだことを、自身の言葉で理解しなおす習慣をつけましょう。授業を受けたその日のうちに復習しましょう。				

科目番号	212002			担当教員	森内 葉子
授業科目名	薬理学			E-mail	
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)		
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	可(5名)				
授業の概要	<p>総論として、服用した薬物が体内をめぐる、薬効を発揮し、代謝・排泄される過程について理解するとともに、薬物を使用する際の注意点や問題点、薬物の適正使用について、一般的な知識を学ぶ。各論として各種疾患の治療に用いられる薬物の作用とそのメカニズムを学び、薬の副作用とその機序についてあわせて理解する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 薬物に関する全般的な知識を習得し、薬物治療の有効性や危険性を認識できる。 臨床における医薬品の取り扱いや与薬技術が正しい理解のもとに実施できるための素地を身につける。 薬物療法を受ける対象への看護を考えることができる。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
1	医薬品総論① 医薬品、医薬品の作用原理とその影響	講義	医薬品の分類と関連する法律 医薬品が作用する原理と作用に影響を与える要因	1時間	
2	医薬品総論②医薬品の適正な使用に向けて	講義	医薬品を適正かつ安全に使用するための注意事項	1時間	
3	主な生活習慣病に使用する薬 ①循環器疾患	講義	生活習慣病を発症する過程と使用する薬剤	1時間	
4	主な生活習慣病に使用する薬 ②糖尿病、脳血管障害	講義	インスリン自己注射の手技 脳血管障害と薬物療法	1時間	
5	がん・痛みに使用する薬①がん に使用する薬	講義	急性骨髄性白血病・乳がん に使用する薬剤 抗がん薬の有害作用とその対策	1時間	
6	がん・痛みに使用する薬②がん性 疼痛に使用する薬	講義	『WHO方式がん疼痛療法』 オピオイド鎮痛薬の特徴	1時間	
7	脳・中枢神経疾患で使用する薬 ①中枢神経系の働きと薬、抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬	講義	中枢神経系の機能と伝達物質 てんかん・パーキンソン病の病態と薬物療法	1時間	
8	脳・中枢神経疾患で使用する薬 ②アルツハイマー型認知症治療薬、精神疾患に用いる薬	講義	アルツハイマー型認知症の病態と薬物療法 向精神薬の種類と薬理作用	1時間	

回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
9	感染症に使用する薬①細菌感染症	講義	化学療法薬の病原微生物への作用機序(細菌) 病原微生物に有効な薬物とその有害反応(細菌)	1時間	
10	感染症に使用する薬②ウイルス感染症、真菌感染症、寄生虫感染症、消毒薬、予防接種	講義	化学療法薬の病原微生物への作用機序(その他) 病原微生物に有効な薬物とその有害反応(その他) 消毒薬の適応とその有害作用 予防接種の種類とその対象疾患	1時間	
11	救命救急時使用する薬	講義	医薬品投与に関連した緊急状態 ショック発生時に使用する薬 救命救急時使用する薬 麻酔時に用いる麻酔薬・麻酔補助薬・筋弛緩薬について	1時間	
12	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬	講義	気管支喘息発生時と管理期の薬 気管支喘息に使用する薬 抗アレルギー薬・鎮咳薬・去痰薬の特徴 関節リウマチと全身性エリテマトーデスに使用する薬剤	1時間	
13	消化器系疾患に使用する薬	講義	胃液分泌のしくみと潰瘍形成について・消化性潰瘍薬の作用機序と使用法を理解する 多様な原因で起こる嘔吐のしくみとそれに使用する制吐薬を理解する 瀉下薬の作用機序を理解し、患者に合った瀉下薬の選択ができる	1時間	
14	その他の症状に使用する薬①	講義	臨床でよく遭遇する疾患に使用する薬剤の機序とその各薬剤に対しての効果と有害作用の観察事項 輸液製剤の分類とそれぞれの特徴、用途について	1時間	
15	その他の症状に使用する薬②	講義	臨床でよく遭遇する疾患に使用する薬剤の機序とその各薬剤に対しての効果と有害作用の観察事項 輸液製剤の分類とそれぞれの特徴、用途について	1時間	
先行履修科目					
テキスト	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち②「臨床薬理学」 メディカ出版				
参考文献					
評価方法	定期試験 90%、授業態度 10%				
注意事項					

科目番号	212006			担当教員	西川 健一、濱吉 麻里 前田 和久、瀧川 みき	
授業科目名	疾病論B			E-mail		
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生が可受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	<p>看護の実践力を身につけることを目標とし、「人体の構造と機能領域(からだ理解)」で学んだ知識を基礎として、適切な看護実践を可能にするために必要とされる各疾病の病態生理、症状、診断、治療、予防等について学ぶ。</p> <p>ヒトのライフサイクルの各期における身体的(構造的・機能的)および精神的特徴を理解するとともに、小児系、母性系、老年系、精神系の各分野に特徴的な疾病について、その発生機序、病態、診断・治療の実際を理解する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児期特有の疾患の病因・病態・治療理念について理解する。 ・妊娠・分娩・産褥の各期と新生児に起こる異常について、その発生機序・病態・診断および治療を説明できる。 ・代表的な精神疾患について、その発生機序・病態・診断および治療を説明できる。 ・老年期の特徴的な疾患について、その発生機序・病態・診断および治療を説明できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	(小児) 1. 先天性疾患 2. 新生児期疾患 3. 代謝性疾患 4. 内分泌疾患	講義	予習) テキストの該当箇所を読んでおく。 復習) テキスト・プリントだけでなく、板書を含めた講義内容を復習する。	2時間		
2	(小児) 5. 免疫・アレルギー疾患 6. 感染症 7. 呼吸器 8. 循環器疾患	講義	予習) テキストの該当箇所を読んでおく。 復習) テキスト・プリントだけでなく、板書を含めた講義内容を復習する。	2時間		
3	(小児) 9. 消化管疾患 10. 肝・胆道疾患 11. 血液・腫瘍 12. 腎・泌尿器疾患	講義	予習) テキストの該当箇所を読んでおく。 復習) テキスト・プリントだけでなく、板書を含めた講義内容を復習する。	2時間		
4	(小児) 13. 神経系疾患 14. 発達障害 15. その他	講義	予習) テキストの該当箇所を読んでおく。 復習) テキスト・プリントだけでなく、板書を含めた講義内容を復習する。	2時間		
5	(母性) 妊娠の異常	講義	【予習】テキストの「妊娠の異常と看護」を読んだ上で授業に臨むこと。	1時間		
6	(母性) 分娩の異常	講義	【予習】テキストの「分娩の異常と看護」を読んだ上で授業に臨むこと。	1時間		
7	(母性) 産褥の異常	講義	【予習】テキストの「産褥の異常と看護」を読んだ上で授業に臨むこと。	1時間		
8	(母性) 新生児の異常	講義	【予習】テキストの「新生児の異常と看護」を読んだ上で授業に臨むこと。	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	(精神) 精神疾患の総論と関連する法、精神疾患の治療総論	講義	【予習】テキストP140～154、268～288を読んだ上で授業に臨むこと。	1時間	
10	(精神) 精神疾患各論(1) 統合失調症	講義	【予習】テキストP157～172、311～314を読んだ上で授業に臨むこと。	1時間	
11	(精神) 精神疾患各論(2) 気分障害	講義	【予習】テキストP172～181を読んだ上で授業に臨むこと。	1時間	
12	(精神) 精神疾患各論(3) 神経症性障害、器質性精神障害	講義	【予習】テキストP181～212を読んだ上で授業に臨むこと。	1時間	
13	(老年) 神経内科疾患・呼吸器疾患	講義	未定	1時間	
14	(老年) 感覚器疾患・消化器疾患・運動器疾患	講義	未定	1時間	
15	(老年) 脳血管疾患・循環器系疾患	講義	未定	1時間	
先行履修科目					
テキスト	別途指示する				
参考文献					
評価方法	試験90%、授業態度10%				
注意事項					

科目番号	214002			担当教員	(未定)	
授業科目名	社会福祉・社会保障論			E-mail		
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)						
授業の概要						
到達目標						
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
先行履修科目					
テキスト					
参考文献					
評価方法					
注意事項					

〔地域志向科目〕

科目番号	214003			担当教員	荒益 正信	
授業科目名	人権論			E-mail	aramasu@nncn-k.net	
開講年次	2年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	「人権」の概念や発展してきた人権保障、実生活上の様々な人権侵害と人権救済について、身近な人権問題や人権判例を取り上げながら解説し、人権の法規規範性ととも社会規範性の両面から人権保障に向けた行動化とともに職業倫理の確立について考える。受講生全員に最近の人権問題についてのレポートを課し、討議を行う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人権の主体者として、人権や人権擁護の基本的な内容や取組について理解することができる。 ・人権問題に関する情報を収集・吟味・分析し、自分の考えをレポートにすることができる。 ・人権・職業倫理の確立に向け、正義や自由、平等の実現に主体的に行動しようとする事ができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	人権ってなに —人権の意味と特質—	講義	・課題 「これは差別といえるか」 次時提出	0.5時間		
2	普遍的な人権と個別具体的人権	講義	・課題 「セクハラはなぜ人権侵害か」 次時提出	0.5時間		
3	人権観の転換 —人権の普遍性—	講義	・学習内容確認プリント 次時提出	0.5時間		
4	人権の国際化	講義	・確認テスト 次時提出 ・予習 「爆弾の作り方」という本を出版できるか?	1時間		
5	新しい人権 —知る権利—	講義	・予習 「尊厳死」の問題をどう考えたらよいか?	0.5時間		
6	新しい人権 —自己決定権(1)—	講義	・予習 「女性はなぜすぐに再婚できないの」	0.5時間		
7	新しい人権 —自己決定権(2)—	講義	・予習 「プライバシーとは」	0.5時間		
8	新しい人権 —プライバシーの権利(1)—	講義	・学習内容確認プリント 次時提出	0.5時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	新しい人権 —プライバシーの権利(2)—	講義	・学習内容確認プリント 次時提出	0.5時間	
10	基本的人権のいま—平等権—	講義	・学習内容確認プリント 次時提出	0.5時間	
11	基本的人権のいま—生存権—	講義	・予習 「裁判員裁判の審理はなぜ刑事事件だけなのか」	0.5時間	
12	人権救済	講義	・学習内容確認プリント 次時提出	0.5時間	
13	人権教育	講義	・レポート発表準備	1時間	
14	人権問題レポート発表・討議	演習	・レポート発表準備	1時間	
15	人権問題レポート発表・討議	演習	・模擬テスト	1時間	
先行履修科目					
テキスト	レジュメ、資料はプリントで提供する。				
参考文献	伊藤 真の憲法入門(日本評論社) 基本的人権の事件簿(有斐閣選書)				
評価方法	定期試験 60%、レポート 20%、授業態度 10%、提出物 10%				
注意事項	新聞等に目を通し、社会の出来事を入権の視点から捉えることに努めてほしい。評価は厳格に行いますので、授業を欠席することがないようにしてください。				

【地域志向科目】

科目番号	214004			担当教員	野津 和功	
授業科目名	家族社会学			E-mail		
開講年次	2年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	この授業では、社会学からみた家族研究の基礎的な理論と分析方法について学習する。家族の歴史と研究史、集団としての家族の形態、機能、役割などの基礎理論について学んだ後、現代日本の家族が抱えるさまざまな課題や病理現象を取り上げ、その原因・背景、解決方法を探っていく。さらに、これからの家族の在り方についても考えてみたい。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家族社会学の基礎的な理論を理解し、重要な用語について説明できる。 ・現代家族が抱える様々な福祉課題の中から、各自が研究テーマを設けてレポートを作成する。 ・多様化する現代家族に関心を持ち、家族の役割、背景などについて理解できるようになる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学習課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	授業紹介(概要、到達目標、授業計画、評価方法など)、家族のイメージ、存在感について発表	講義及び演習	(予習) 各自の家族のイメージ、存在感について発表できるようにまとめておくこと。	1時間		
2	「家族」を読み解くために(多様化する家族、日本の家族の変化、近代社会の編成)	講義	(予習) テキスト第1章を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間		
3	家族社会学(家族研究の歴史と方法)、経済学からの家族研究	講義	(復習) 社会学的観点から「家族」をとらえることの意味を理解する(ノートの整理)。	2時間		
4	家族の歴史①(近代以前の家族の歴史)	講義	(予習) テキスト第2章1～3を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間		
5	家族の歴史②(「近代家族」の成立)	講義	(予習) テキスト第2章4～5を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間		
6	家族に関する用語(形態、構造、機能、役割、家族周期など)	講義	(復習) 用語説明ができるように簡潔に要点をまとめる(ノートの整理)。	2時間		
7	現代家族の生活問題①(貧困をめぐる議論、家族と貧困)	講義	(予習) テキスト第3章1～3を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間		
8	現代家族の生活問題②(福祉レジーム類型と家族、日本の生活保障システム)	講義	(予習) テキスト第3章4～5を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学習課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	結婚と家族(結婚とは何か、未婚化という変化、離婚における変化など)	講義	(予習) テキスト第4章を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間	
10	就業と家族①(男女で異なる働き方、男女格差の温存と女性労働力)	講義	(予習) テキスト第5章1～3を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間	
11	就業と家族②(私的領域における性別役割分業、新たな家族モデル)	講義	(予習) テキスト第5章4～5を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間	
12	妊娠、出産、子育て①(性・生殖と家族、少子化と戦後日本の家族)	講義	(予習) テキスト第6章1～2を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間	
13	妊娠、出産、子育て②(子どもをもつということ、親とはだれか、子とは誰か)	講義	(予習) テキスト第6章3～4を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間	
14	親-成人子関係のゆくえ(親-成人子関係の変化、社会環境の変化など)	講義	(予習) テキスト第7章を読んだ上で授業に臨むこと。	2時間	
15	現代家族のゆくえ 授業のまとめ レポート課題	講義及び演習	(予習) テキスト第8章を読んだ上で授業に臨むこと。最終レポート課題の準備をしておく。	2時間	
先行履修科目	日本国憲法、多文化共生論を履修することが望ましい。				
テキスト	「問いからはじめる家族社会学」「岩間暁子・大和礼子・田間泰子」「有斐閣」				
参考文献	「論点ハンドブック 家族社会学」「野々山久也編集」「世界思想社」				
評価方法	レポート60%、授業態度20%、提出物20%				
注意事項	提出物は、予め用意された「授業の振り返りシート」に記入したものが中心である。				

【地域志向科目】

科目番号	214005			担当教員	(未定)	
授業科目名	コミュニティ論			E-mail		
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)						
授業の概要						
到達目標						
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
先行履修科目					
テキスト					
参考文献					
評価方法					
注意事項					

【地域志向科目】

科目番号	212005			担当教員	芦田 耕三、森尾 泰夫	
授業科目名	疾病論A			E-mail		
開講年次	2年 通年	必修・選択	必修			
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修					
授業の概要	内科各領域・整形外科領域の主要な疾患の病態生理・症状・診断・治療・予防について学びます。成人の各種疾病の理解は今後実習・臨床現場等の看護実践で基本となるものです。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 内科各領域・整形外科領域の主要な疾患について、病態、症候(症状と徴候)を理解する。 内科各領域・整形外科領域の主要な疾患について検査所見、治療、ケアの要点を説明できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	消化器1 逆流性食道炎・胃十二指腸潰瘍・癌(食道・胃・大腸)等について	講義	予習:食道・大腸の解剖生理の確認 復習:テキスト・配布資料の復習	0.5時間		
2	消化器2 肝炎(急性・慢性)・肝硬変・胆石・膵炎・癌(肝臓・胆のう・膵臓)等について	講義	予習:肝/胆/膵臓の解剖生理の確認 復習:テキスト・配布資料の復習	0.5時間		
3	循環器1 不整脈・心不全・先天性心疾患について	講義	予習:心臓の解剖生理の確認 復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間		
4	循環器2 虚血性心疾患・心弁膜症・大動脈瘤 等について	講義	予習:心臓の解剖生理の確認 復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間		
5	血液 貧血・白血病・血小板の異常などの疾患について	講義	予習:血液細胞の分類・役割の確認 復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間		
6	内分泌・代謝1 下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎疾患について	講義	予習:内分泌臓器とその働きについて 復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間		
7	内分泌・代謝2 糖尿病・高脂血症・高尿酸血症(痛風)・電解質異常等について	講義	復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間		
8	腎臓 腎炎・腎不全・透析・膀胱・前立腺疾患等について	講義	予習:腎臓・尿路系の解剖生理の確認 復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	アレルギー-膠原病 関節リウマチ・SLE・シェーグレン症候群などについて	講義	予習:教科書11アレルギー 膠原病 感染症2章を読み理解 復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間	
10	呼吸器1 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患等について	講義	予習:呼吸器の解剖生理の確認 復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間	
11	呼吸器2 肺癌 間質性肺炎 胸膜疾患などについて	講義	復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間	
12	脳神経1 脳血管障害 脳梗塞・脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍などについて	講義	予習:脳の解剖生理の確認 復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間	
13	脳神経2 認知症・神経疾患(パーキンソン病など)について	講義	復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間	
14	運動器1 四肢の各種疾患について	講義	復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間	
15	運動器2 脊椎の各種疾患について	講義	復習:配布資料・テキストの復習	0.5時間	
先行履修科目	人体の構造と機能A、人体の構造と機能B、人体の構造と機能C、人体の構造と機能Dを履修していること。				
テキスト	成人看護学(医学書院)2呼吸器、3循環器、4血液・血造器、5消化器、6内分泌・代謝、7脳・神経、8腎・泌尿器、10運動器				
参考文献	病気が見えるシリーズ(メディックメディア社)などは病気・病態の理解を助けると思います。				
評価方法	定期試験100%				
注意事項	授業の進度などにより、内容が前後する場合があります。				

科目番号	311001			担当教員	近田 敬子	
授業科目名	看護学概論			E-mail	kchikata@ns.tcn.ac.jp	
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修			
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間 (2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(5名)					
授業の概要	看護のイメージから看護の意味を大まかに理解し、看護を社会的な流れの中で理解するために、国内外の看護の歴史の変遷を学ぶ。特に国外の看護の変遷から、看護の実践を支える「人間」「健康」「環境」「生活」「看護」の概念を学ぶ。その上で、ケアの社会化の背景を理解し、看護の対象・目的・活動(機能)論を学び、ヒューマンケアを実現するための基本姿勢を培う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 看護活動の本質を学ぶ。 看護の歴史の変遷から、現在に至る看護の考え方を知るとともに、近未来の看護を考える。 看護の対象論・目標論・活動(機能)論を学ぶ。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	看護学の概観： 看護学の構造および基礎看護学の概要と科目概要の概観	講義		2時間		
2	看護活動の本質：看護を考える 看護の一般的なイメージと看護の専門家によるイメージ	ワーク	事前：看護のイメージ情報収集(一般人・看護者) 事後：ワークの仕上げ	2時間		
3	看護活動の本質：看護を考える 発表をとおして両者のイメージの違いの明確化	ワーク	事前：発表に向けての準備 事後：「今、私が考える看護とは」を150字程度で表現する	2時間		
4	看護活動の本質：看護を考える 看護の定義を探求	講義	事前：看護の定義に関する文献を探索し、読む	2時間		
5	看護活動の本質：看護を考える 看護の本質・看護の魅力を語る	卓話	事後：ゲストスピーチで看護として印象に残った事を記述する	2時間		
6	看護の歴史： 近代看護の創始者ナイチンゲール功績と看護の考え方を探求	発表講義	事前：ナイチンゲールの人となりを調べる 事後：ナイチンゲールの看護の考え方を要約する	2時間		
7	看護の歴史： 米国における職業的看護の誕生と看護学の発展過程を知る	講義		2時間		
8	看護の歴史： 著名な看護理論家とその理論概要を把握する	講義演習	事後： 一つの理論を用いて事例の看護上の課題と解決策を考える	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	わが国の近代看護の草創期： わが国の職業的看護の誕生とその変遷を知る(過去)	講義		2時間	
10	わが国の近年の看護： わが国の現在に至る看護の変遷を看護の機能から把握(現在)	講義	事前：可能な範囲でわが国の看護の良いところを見聞する 事後：可能な範囲で、看護の先人たちの労を聞く	2時間	
11	わが国の看護の役割拡大とこれからの看護(未来)を表現	ワーク	事後：小レポート「これからの看護」を1500字程度で記述し、提出する	2時間	
12	看護の対象論：	講義	事後：看護の目標論は生活健康論で学ぶ。それらを想起する。(ニーズ充足・セルフケア向上・QOLの向上・自然治癒力喚起等)	2時間	
13	看護の機能論：	講義	事前：早期に閉病記を1冊読みそこからどのような看護が必要とされていたかを導いてみる	2時間	
14	看護の機能論： わが国の法律上の看護職の業務を学び、関連する法律を概観	演習	事前：上記講義の中で、必要時保助看法に触れるので、概略を把握しておく	2時間	
15	知識の振り返り、総括する。	講義	事前事後 課題解決型で知識を振り返り 期末試験に臨むこと	2時間	
先行履修科目					
テキスト	佐藤登美 編集：基礎看護学① 看護学概論、メジカルフレンド社 保健師助産師看護師法(各自で準備し、毎回の講義時に持参)				
参考文献	日本看護協会 監修：新版 看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理、日本看護協会出版会				
評価方法	定期試験 70%、レポート 20%、提出物 10%				
注意事項					

【地域志向科目】

科目番号	311003			担当教員	田中 馨、十九百 君子、 田中 福恵、佐々木 晶子	
授業科目名	基盤看護技術A			E-mail		
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	人々の健康と深く関連する日常生活行動の意義を、「からだ」「こころ」「社会」の側面から理解し、基礎的な生活援助技術の科学的根拠を踏まえ、安全・安楽かつ効率的な援助方法を探求する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分の日常生活行動から生活と環境を考えることができる。 療養者の生活上の環境をアセスメントする意味とその方法を知ることができる。 自分で環境を整えることが困難な療養者に対して、療養者の状況に合った安全と清潔に関する援助方法を考えることができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	ガイダンス オリエンテーション	講義	オリエンテーション テキスト 基礎看護技術Ⅰ 序章 看護技術とは	1時間		
2	環境を整える	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第1章 環境を整える技術	1時間		
3	環境を整える	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第1章 環境を整える技術	1時間		
4	環境を整える	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第1章 環境を整える技術 ベッドメイキングの方法	3時間		
5	環境を整える	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第1章 環境を整える技術 ベッドメイキングの方法	3時間		
6	活動と休息	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第4章 活動・休息の援助技術	1時間		
7	活動と休息	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第4章 活動・休息の援助技術	1時間		
8	姿勢と動作	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅰ 第2編 第6章 安楽確保の技術 看護における安楽の意義、安楽な体位の保持、ボディメカニクス	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	姿勢と動作	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第4章 活動・休息の援助技術 運動機能の低下した人の援助 体位変換	1時間	
10	体位変換 安楽な体位	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第4章 活動・休息の援助技術 運動機能の低下した人の援助 体位変換	2時間	
11	移動と移送	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第4章 活動・休息の援助技術 運動機能の低下した人の援助 車いすによる移動	2時間	
12	体位変換 安楽な体位	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第4章 活動・休息の援助技術 運動機能の低下した人の援助 体位変換	2時間	
13	移動と移送	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第4章 活動・休息の援助技術 運動機能の低下した人の援助 ストレッチャーでの移送	2時間	
14	臥床患者のシーツ交換	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第1章 環境を整える技術 シーツ交換の方法	3時間	
15	臥床患者のシーツ交換	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第1章 環境を整える技術 シーツ交換の方法	3時間	
先行履修科目					
テキスト	深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学2・3 メヂカルフレンド社				
参考文献	坪井良子編：考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ ニューヴェルヒロカワ				
評価方法	定期試験 40%、技術試験 40%、課題レポート 20% (授業への不適切な参加姿勢、遅刻、欠席等は減点方式で評価する)				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 看護を行う上で非常に重要な科目であるため欠席を認めません。 演習を受講していなければ技術試験は受験できません。 指示した事前学習を行ったうえで授業に臨んでください。 演習への参加は適切な姿勢(服装、頭髪、身だしなみ等も含む)で臨んでください。 看護技術を習得するために実技の練習を繰り返し行いましょう。 				

科目番号	311007			担当教員	近田 敬子	
授業科目名	生活健康論			E-mail	kchikata@nns.tcn.ac.jp	
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)		不可				
授業の概要	健康に関する人々のイメージおよび代表的な健康の定義を知るとともに、自らの健康観を明らかにしていく。さらに生活に関する諸理論を学び、看護の立場の生活の視点を探求する。よって、自分自身の「健康観」「生活観」を構築し、看護援助の一助になることを目標とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康とは、どのような状態・状況かを生活現象の中で探求する。 生活に関する諸理論を学び、生活欲求・生活の質(QOL)と看護ニーズの関係を把握する。 「私の生活の中の健康」を表現し、生活観・健康観を導く。それを生活健康論実習に繋げる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	看護学と科目概要との関連性・生活健康論実習との繋がり	講義		2時間		
2	健康の概念：グループワークで健康に関する一般的なイメージを明らかにする。(ラベルワーク法を学ぶ)	グループワーク	予習：ラベルワーク法の概要を把握。健康の一般的なイメージの情報収集をする。	2時間		
3	健康の概念：グループワークの結果から、一般的な健康の概念を導く。発表準備	グループワーク	復習：役割分担にそって、発表内容を整える。	2時間		
4	健康の概念：示説発表する。(プーチンテーション能力を高める)	発表	予習：発表原稿・発表方法を整える。デモンストレーションを実施。	2時間		
5	健康の概念：代表的な健康の定義を知る。グループで導いた健康概念との差異を導く。健康に関する諸理論を学ぶとともに、健康のとらえ方の変遷を把握する。	講義	復習：自己で振り返り、概念や理論に関する要点を把握する。(小テスト範囲)	2時間		
6	生活の概念：生活に関する諸定義を知り、特に脳の基本構造と機能から見た生活現象を学ぶ。	講義	復習：生活現象が他の科目と繋がっていることに想起できる。	2時間		
7	生活の概念：生活と看護の関連を学ぶために、生活欲求(マズロー)および生活の質(QOL)の理論を学習する。これらを時代の変化と関連させて学ぶ。	講義	復習：重要な理論として、自己の生活に結びつけて記憶する。(小テスト範囲)	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
8	生活の概念：生活と看護の関連を深めるために、セルフケア力および自然治癒力の理論を学習する。	講義	予習：小テスト(健康の概念・生活の理論)	2時間	
9	生活の概念：生活概念を拡大するために、生活構造理論の概要を把握する。	講義		2時間	
10	生活の中の健康：「自己の生活のしかたで、大事にしていること・良い意味でこだわっていること」を想起する。	グループワーク	予習：グループワークに臨むにあたって、発言の要点を整理しておく。	2時間	
11	生活の中の健康：その生活の仕方がどのように身体的・精神的な健康につながっているかを考える。さらに、社会的健康との関係も追及する。	グループワーク	復習：特に、社会的健康に関する見解を自ら納得できるまで、情報収集したり、文献を探索する。	2時間	
12	生活の中の健康：「私の生活の中の健康とは」を表現し、結論を導く。	記述		2時間	
13	生活の中の健康：各自の結論を念頭において、他者の健康観を探るインタビュー法を学ぶ。	デモ演習	予習：何をどのようにして、他者の健康観を導くかを想起する。復習：デモ後、自分のインタビューガイド案を作成する。	2時間	
14	生活健康論実習へ：他者の健康観を探るインタビューガイドを作成する。	グループ指導	復習：インタビューガイドを完成させる。	2時間	
15	生活健康論実習へ：インタビューガイドの個別指導とインタビュー模擬を行う。	グループ指導	復習：実習で使えるインタビューガイドとして練り上げる。	2時間	
先行履修科目					
テキスト	佐藤登美編：看護学概論、メヂカルフレンド社(看護学概論の教科書と同じ)適宜、授業に必要な教材プリントを配布する。				
参考文献	山崎智子監修：基礎看護学Ⅰ、「10章、近田敬子著：生活と看護」、金芳堂				
評価方法	レポート40%、小テスト20%、ワーク等参加度20%、インタビューガイド10%、コメントシート(学びとして印象に残ったこと)10%				
注意事項	全体に、看護観を育成するとともに生活健康論実習に繋げる内容としている。				

【地域志向科目】

科目番号	311010			担当教員 E-mail	近田 敬子、田中 馨、 十九百君子、佐々木 晶子、 田中 福恵 他
授業科目名	生活健康論実習				
開講年次	1年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	実習	時間数(単位数)	45時間(1単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	地域で生活する身近な人びとの生活の場に身を置き、人びとの生活やその社会に向き合い、人びとの生活のしかた、行動、その中に潜んでいる考え方、健康に対する意識を理解する。さらに、自己の具体的な体験と比較検討し、自己の生活観や健康観を深める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生活のしかたや生活習慣に焦点を当てて、自己の健康にとっての意味・意義を考え、実習で取り組むテーマを決定する。 ・実習場所で人びとの生活習慣や生活様式、実際の行動様式や考え方についての情報を、インタビューによって収集する。 ・生活行動の背景にある、人びとの健康に対する意識(意味・意義など)を考察する。 ・対象とした人びとの意識と自分の考えを対比させながら、各自の生活観や健康観に対する考えを拡大する。 ・自己の実習内容を提示しながらグループディスカッションを行い、自己の生活観や健康観を深める。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 事前オリエンテーションでの導入に続き、各自の実習テーマを決定し、対象者からの情報収集のためのインタビューガイドを作成し、実習をイメージ化する。 実習施設に参加している人びとの背景を把握するために、施設の設置目的や機能、プログラム内容などのオリエンテーションを受ける。一部プログラムに参加する。 プログラムに参加するとともに施設を利用している人に、了解を得て、目的に沿って情報収集する。インタビュー直後に情報内容を整理する。 同様にして、インタビュー事例を重ねる。(全体で4から6事例) 面接した人びとの健康に対する意識が導けるよう考察を試みる。 生活健康論でまとめた自分の考え方とインタビュー結果とを対比させてみる。その結果を提示しながらグループディスカッションを行い、考えを深める。 				
自己学修課題(予習・復習)	<p>授業時間外の学習(事前・事後の学習)</p> <p>事前オリエンテーション(2コマ)：実習オリエンテーションに加えて、生活健康論でまとめた「現在考えている私の生活の中の健康観」を振り返りながら、実習で取り組むテーマを考え始める。</p> <p>事後に、実習レポートを1週間後に担当教員に提出し、フィードバックを受ける。</p>				
先行履修科目	看護学概論、生活健康論を履修していること。				
テキスト	テキスト、プリントなど資料を配布する。				
参考文献	各自の実習テーマに関連する文献に関しては自分で探索する。				
評価方法	事前レポート10%、最終レポート60%、臨地実習態度10%、カンファレンス参加態度10%、提出物10%				
注意事項	オリエンテーションを含め原則として欠席は認めない。				

【地域志向科目】

科目番号	311004			担当教員	田中 馨、十九百 君子	
授業科目名	基盤看護技術B			E-mail	佐々木 晶子、田中 福恵	
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	60時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	人びとの健康と深く関連する日常生活行動の意義を「からだ」「こころ」「社会」の側面から理解し、事例を通して看護の視点から援助の必要性を見出す能力を養う。さらに、基礎的な生活援助技術の科学的根拠を踏まえ、安全・安楽・個別性のある援助方法を探求する。各演習の場を、リフレクションを通して自己を振り返りながら実践する力を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活行動を看護の視点で判断し、援助の必要性を判断することを理解できる。 各援助技術の原理・原則を理解し、演習場を用いて根拠に基づいた看護実践ができる。 日常生活援助技術における看護専門職者としての態度を身につける。 演習場を用いて、安全・安楽・さらに個別性を考えた援助方法を探求できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1 2	コースオリエンテーション 感染・手洗い	講義 演習	感染予防の基礎知識	2時間		
3 4	生活の中の「食事」	講義	人間の摂食行動・メカニズム 消化・吸収機能、栄養状態の指標 安楽な体位など	2時間		
5 6	生活の中の「食の援助」	演習	事前学習・事後学習課題	2時間		
7 8	生活の中の「衣」 生活の中の「衣の援助」	講義 演習	和式袷衣の名称と着用のマナー 体幹の解剖と上肢の可動域 体位変換など 事前学習記録・事後学習課題	2時間		
9 10	リフレクション 生活の中の「排泄」	講義	消化器系・泌尿器系の解剖・生理 ボディメカニクス、排泄の歴史 排泄の意義など	2時間		
11 12	生活の中の「排泄の援助： ～床上排泄 排便の援助～」	演習	事前学習・事後学習課題	2時間		
13 14	生活の中の「清潔」	講義	皮膚・粘膜、毛髪の構造と機能、 入浴の三大効果 洗浄剤を調べてみよう	2時間		
15 16	生活の中の「清潔： ～足浴・陰部洗浄～」	講義 演習	事前学習・事後学習課題	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
17 18	生活の中の「清潔の援助： ～洗髪～」	講義 演習	事前学習・事後学習課題	2時間	
19 20	生活の中の「清潔の援助： ～全身清拭～」	演習	看護技術における安全・安楽・ 自立・個性とは 事前学習・事後学習課題	2時間	
21 22	生活の中の「清潔の援助： ～全身清拭～」	演習	事前学習・事後学習課題	2時間	
23 24	生活の中の「清潔の援助： ～全身清拭～」	演習	事前学習・事後学習課題 今回の演習準備(事例紹介)	2時間	
25 26	総合演習(事例展開) 「生活の中の清潔： 清潔の援助」	演習	事例の事前学習課題・資料集め 事後学習課題	2時間	
27 28	総合演習(事例展開) 「生活の中の清潔： 清潔の援助」	演習	事前学習・事後学習課題	2時間	
29 30	総合演習(事例展開) 「生活の中の清潔： 清潔の援助 まとめ」	演習	事前学習・事後学習課題	2時間	
先行履修科目	人体の機能と構造A、人体の構造と機能C、看護学概論、生活健康論、生活健康論実習、基盤看護技術Aを履修していること				
テキスト	新体系 看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 深井喜代子 編集 メヂカルフレンド社				
参考文献	基礎看護技術 第7版 医学書院 基礎看護技術 南江堂 新・看護生理学テキスト 南江堂				
評価方法	定期試験40%、技術試験40%、提出物20%				
注意事項	到達目標に到達するために一つひとつの学習内容を積み上げアセスメント力、各援助技術の原理・原則を理解できるように授業を構成しています。各学習内容が、一回限りで終了するため欠席しないように体調等を自己コントロールして臨むことを期待します。				

【地域志向科目】

科目番号	311008			担当教員	田中 舞	
授業科目名	看護ケア論			E-mail	l_hibiki@ns.tcn.ac.jp	
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修			
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生が受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	看護を実践していくためには患者をケアする過程が焦点となる。看護の本質を探求していくにはケアとは何であるのかを学ぶ必要がある。看護の本質となるところのケアについて学び、自己の考えや行動を振り返りながら、「看護とは何か」を理解していく。本時では、ケア・ケアリングについてなぜ学ぶのか、ケアとは何かを自分なりに理解できることを目標とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの意味を概観する。 ・文献をとおしてケアの本質を学び、それを日常生活の中で実感する。 ・「看護におけるケアとは」を考え、実習時には意識して看護の本質を探究する姿勢を持つ。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション なぜケア・ケアリングを学ぶのか	講義	テキストを読み進めておく	1時間		
2	ケア・ケアリングの概念	講義	テキストを読み進めておく	1時間		
3	メイヤロフのケア・ケアリングの本質	講義	テキストを読み終え授業に臨む	1時間		
4	ケア・ケアリングの看護理論①	講義	看護理論について調べてみる	1時間		
5	ケア・ケアリングの看護理論②	講義	看護理論について考えてみる	1時間		
6	看護における専門職としてのケア	講義	看護の専門職としてのケアについて考えてみる	1時間		
7	ケアについて考える(ラベルワーク)	講義	ラベルワークのための準備をする	1時間		
8	グループワークの結果を発表する。「看護におけるケアとは」をレポートしてまとめる。	講義	発表に向けて準備する	1時間		

先行履修科目	看護概論、生活健康論を履修していることが望ましい
テキスト	ミルトン・メイヤロフ著：「ケアの本質」、ゆみる出版
参考文献	菱沼典子他編：看護の原理 ケアすることの本質と魅力、ライフサポート社
評価方法	まとめレポート 70%、グループワーク参加 20%、授業態度・日々の提出物 10%
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは、授業が始まる前に読み進めておくこと。 ・各回の授業で次回までの課題を提示することがあるので、準備して臨むこと。 ・7回目の授業で出された課題について、8回目の授業で発表できるように準備をすること。 ・レポートの提出期限は、授業終了後、1週間程度の予定である。

科目番号	311009			担当教員	矢倉 紀子	
授業科目名	地域基礎看護学			E-mail	nyakura@ns.tcn.ac.jp	
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修			
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(5名)			資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業の概要	<p>如何なる生活の場においても、いかなるライフステージ・健康レベルにあっても、全ての人の健康はまもられていることを理解する。さらに、地域看護とは公衆衛生看護を基盤にした看護活動であることを理解する。</p> <p>学生自身を取り巻く環境や経験から“健康を支える”とはどのようなことか考え、人々の健康を支えるために、人びとの持っている力を引き出しながら生活を基盤にして展開される地域看護活動の基礎について学習する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各ライフステージ、健康レベルに応じた健康支援について説明することができる。 ヘルスプロモーションの視点から地域看護活動について説明ができる。 					

授業計画

回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
1	地域看護の概念 地域看護、公衆衛生看護、在宅看護との関連性	講義	地域看護、公衆衛生看護、在宅看護について定義してあるものを文献で予習	1時間	
2	フォーマルな健康支援とインフォーマルな健康支援	講義	自身がこれまでに受けた健康支援について、母子手帳、学校生活を振り返りまとめておく(予習)。	0.5時間	
3	健康概念の歴史的変遷 健康概念に伴う健康支援の変遷 ヘルスプロモーションについて概説	講義	本日の学習内容について復習	0.5時間	
4	健康レベルに応じた健康支援活動 ライフステージに応じた健康支援活動	講義	本日の学習内容について復習	0.5時間	
5	地域づくり・まちづくりと地域看護活動 ソーシャルキャピタルの概説 健康支援活動事例の提示	講義	提示した健康支援活動事例について、次回までにソーシャルキャピタルの視点で保健師の役割についてグループワークでまとめる(時間外)	2時間	
6	グループワークの発表	発表	グループワークの成果物を提出	1時間	
7	保健師の活動実践を通して関連職種(看護、医療、福祉)との連携及び看護の専門性 レポート課題の提示	講義	実践報告の内容をヘルスプロモーションの視点で考察しておく(復習)	0.5時間	
8	地域看護活動とヘルスプロモーション 前回の実践報告事例を教材として概説	講義	本日の学習内容について復習 レポートの提出	0.5時間	

先行履修科目	生活健康論、生活健康論実習を履修すること
テキスト	講義時にプリント配付
参考文献	
評価方法	定期試験 80%、レポート 10%、提出物 10%
注意事項	

〔地域志向科目〕

科目番号	311011		担当教員 E-mail	近田 敬子、田中 馨、 十九百 君子、佐々木 晶子、 田中 福恵 他	
授業科目名	フィールド体験実習				
開講年次	1年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	実習	時間数(単位数)	45時間(1単位)		
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	健康づくりに関連した活動を行っている集団や組織とその参加者に向き合い、ウェルネス社会やヘルスプロモーションについての理解を深める。自己の学習課題に応じて、健康づくりに関連した集団・組織を選定し健康づくり活動に参加しながら、参加者と支援者両面からヘルスプロモーションについて考察する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に、健康づくりに関連した活動を行っている集団や組織があることを知る。 ・その集団や組織の活動に参加し、活動内容を理解し、地域の中におけるヘルスプロモーションの意味を理解する。 ・集団、組織や参加者、支援者の相互作用が健康づくりを支える環境となることを理解する。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> a 実習概要を把握する b グループで演習テーマを決定する c テーマに基づいた自己の学習課題を明確にする d 学習課題を達成できる実習場所を選定、開拓する。 e 実習場所に参加している人びとや運営に携わる人々とコミュニケーションを図る f 実習場所に参加している人びとや運営に携わる人々とともに活動する g 学内でグループごとに学生の体験を討議、発表し、体験の共有を図る 				
自己学習課題(予習・復習)	自己の生活や健康に対する考えを明らかにし、実習に向けての準備性を高める。また、実習に臨む際の倫理的配慮について習得しておく。 新聞等にも目を通し、人々の生活・健康等に関心を持ち、実習に臨んでほしい。				
先行履修科目	地域基礎看護学、生活健康論実習を履修していること。				
テキスト	テキスト、プリントなど資料を配布する。				
参考文献	各自の実習テーマに関連する文献に関しては自分で探索する。				
評価方法	平常評価(学内演習やグループワークの取り組み状況、態度など)20%、 発表会のプレゼンテーション5%、記録物及びまとめのレポート75%				
注意事項	オリエンテーションを含め原則として欠席は認めない。				

〔地域志向科目〕

科目番号	311002			担当教員	前田 陽子	
授業科目名	看護倫理学			E-mail		
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生が受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	倫理に関する基礎的な理論を理解するとともに、看護実践における倫理的判断の必要性について学ぶことを目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的な視点と倫理原則について理解する。 ・対象の尊厳を守るための看護者としての倫理的判断について理解する。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	人間の尊厳と人権	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権 ・世界人権宣言 ・医療の倫理原則 	2時間		
2	看護行為の法的責任と倫理的責務	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師助産師看護師法 ・個人の尊厳 ・患者の権利 ・患者の権利擁護 	2時間		
3	看護実践にとつての倫理原則 (倫理綱領)	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の役割 ・看護職者の倫理綱領 	2時間		
4	患者の知る権利・自己決定権 とインフォームド・コンセント	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定権と患者の意思 ・インフォームド・コンセント 	2時間		
5	プライバシーと守秘義務、看護アドボカシー	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の管理 ・チーム医療と情報のマネジメント 	2時間		
6	看護者のニーズと対処行動	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的葛藤と対処 	2時間		
7	看護者のニーズと対処行動	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と(基本的・社会的)欲求 ・QOL ・看護師業務 	2時間		
8	看護研究の倫理	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権 ・肖像権 ・倫理規定 ・倫理的配慮 	2時間		

先行履修科目	
テキスト	
参考文献	やさしい看護者の倫理綱領, 照林社 看護倫理学, 看護実践における倫理的基礎
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%
注意事項	

科目番号	311006			担当教員	田中 馨、十九百 君子、 佐々木 品子、田中 福恵	
授業科目名	基盤看護技術D			E-mail		
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	60時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	看護の対象となる人びとを包括的に理解することを基盤とし看護を展開していく上で必要となる基礎的知識と思考過程を学び、思考する力を培う。また、正常な人間の身体を理解し、生活することと関連した身体の状態に接近し、みる・聴く・触れる・コミュニケーション技術などを用いて看護に必要な情報をみい出す看護の技術を修得する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な観察・診察手技を修得できる。また、修得した手技を適用し得られた所見を記述・解釈できる。 看護の専門性を具現化する一つのツールとしての看護過程の意義と課題を理解する。 看護過程の方法論についてその展開方法の基本的方法を修得する 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1 2	・コースオリエンテーション ・看護におけるフィジカルアセスメントの意義・診察技法	講義	テキストの授業範囲を読む	3時間		
3 4	・看護に活かすフィジカルアセスメント ：バイタルサインとは	講義	呼吸器・循環器系の構造と機能	3時間		
5 6	・バイタルサイン測定 (血圧・脈拍・呼吸・体温測定)	演習	呼吸器・循環器系の構造と機能 事前学習・事後学習	3時間		
7 8	看護に活かすフィジカルアセスメント ：呼吸系のみかた (呼吸音その他)	講義 演習	事前学習・事後学習	3時間		
9 10	看護に活かすフィジカルアセスメント ：循環器系のみかた (心音・血圧測定その他)	講義 演習	事前学習・事後学習	3時間		
11 12	看護に活かすフィジカルアセスメント ：消化器系のみかた	講義 演習	事前学習・事後学習	3時間		
13 14	看護に活かすフィジカルアセスメント ：神経系のみかた	講義 演習	事前学習・事後学習	3時間		
15 16	人間の思考の特徴と看護活動への活用 看護過程の理論 ：看護過程の概念	講義	テキストの授業範囲を読む	3時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
17 18	看護過程の方法論 ：看護過程の構造と展開方法 ：アセスメント過程	講義	テキストの授業範囲を読む	3時間	
19 20	事例を用いた看護過程 ：演習(グループワーク)の進め方	演習	グループ内の課題学習	3時間	
21 22	事例を用いた看護過程の展開 ：グループワーク	演習	グループ内の課題学習	3時間	
23 24	事例を用いた看護過程の展開 ：アセスメント過程	演習	グループ内の課題学習	3時間	
25 26	事例を用いた看護過程の展開 ：看護問題の抽出	演習	グループ内の課題学習	3時間	
27 28	事例を用いた看護過程の展開 ：看護計画・立案 ：実施過程と評価過程	演習	グループ内の課題学習	3時間	
29 30	事例を用いた看護過程の展開・まとめ	演習 講義	グループ内の課題学習	3時間	
先行履修科目	発達心理学、人体の機能と構造 A・B・C・D、看護学概論、基盤看護技術 A・B、看護ケア論、生活健康論・生活健康論実習・フィールド体験実習を履修していること				
テキスト	はじめのフィジカルアセスメント：横山美樹著：メヂカルフレンド社 看護過程を臨床に生かそう：鎌田美智子著：看護の科学社				
参考文献	問題解決の心理学：安西祐一郎著：中公新書 フィジカルアセスメント：山内豊明著：医学書院				
評価方法	定期試験 40%、技術試験 40%、提出物 20% (具体的な評価方法はオリエンテーションで説明する)				
注意事項	授業は大きく2つの授業内容で構成しています。前半(1回から7回まで)は、看護におけるフィジカルアセスメントです。事前に講義内容を示すので、テキストおよび該当する臓器の構造と機能を予習した上で授業に臨むこと。また、後半(8回から15回)は事例を用いて看護過程を展開します。1年次に学んだ知識を活用するので復習をしておくこと。9月に開講する基盤看護学実習に、本授業の内容を既習学習として適用するので、各自が理解できるように主体的な態度で取り組んでほしい。期待しています。				

科目番号	311012		担当教員 E-mail	近田 敬子 他	
授業科目名	基盤看護学実習				
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	実習	時間数(単位数)	90時間(2単位)		
科目等履修生曰か受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	看護とは何か、人が病を生きるということはどういうことかといった看護を学ぶ上での問いに向き合う。さらに、入院し病を体験している人に向き合い、心身の状態や生活の場である療養環境についての理解を深め、包括的に対象者を理解する基盤や姿勢を養う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病を体験している人に行われる看護のしくみと役割を理解し、看護師と病を体験している人と多職種との連携について考え、必要なコミュニケーションを図ることができる。 ・病を体験している人に看護の思考を用いて必要な看護を考え、看護援助の一部を実施できる。 ・病を体験している人の看護援助に対する反応や、自己のかかわりを振り返るとともに、看護は対象者との相互作用によって成り立っていることを理解する。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> a. 実習内容を把握する。 b. 病院という環境内で病を体験している人に行われている医療と医療従事者を理解する。 c. 医療従事者の中での看護の働きかけを理解する。 d. 受け持ち患者の看護を行うために対象者を理解する。 e. 受け持ち患者に必要な看護を計画し、実施する。 f. 自らの行った看護について振り返りを行う。 g. 看護を学ぶものとして、自己の課題を明確にする。 				
自己学修課題 (予習・復習)	既習の基盤看護技術D、基盤看護技術及び基盤看護技術Bの技術の内容を確実に実施できるように練習しておく。また、既習の人体の構造と機能などの教科書を熟読し、事前課題を行ったうえで臨むこと。				
先行履修科目	基盤看護技術A、基盤看護技術B、基盤看護技術C、基盤看護技術Dを履修していること。				
テキスト	既習のすべての教科書				
参考文献	既習のすべての教科書				
評価方法	平常評価 20% (学内演習やグループワークの取り組み状況、態度など)、対象者への看護技術の実施 40%、記録物及びまとめのレポート 40%				
注意事項	オリエンテーションを含め、原則として欠席は認めない。既習の科目のすべてが、実習に必要な科目になる。日ごろから、復習を心掛けること。また、ほとんどの受け持ち患者は、学生より人生経験が多い。その人々にかかわることについて考え、行動すること。				

科目番号	311005			担当教員	田中 馨、十九百 君子、 田中 福恵、佐々木 晶子	
授業科目名	基盤看護技術C					
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	演習	時間数(単位数)	60時間(2単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	診療に伴う看護技術の原理・原則を理解し、その技術を安全・安楽に適用する方法とその実際について演習を通して学ぶ。また、診療を受ける対象者の身体的、心理的、社会的影響を理解し、対象者の安全・安楽を基盤とした援助の在り方について考える姿勢を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・診療に伴う援助の基本的知識を理解できる。 ・診療に伴う看護技術が安全・安楽に実施できる。 ・診療を受ける対象者の身体的、心理的、社会的影響と看護師の役割について、体験的に理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1 2	オリエンテーション 感染予防の技術	講義	オリエンテーション テキスト 基礎看護技術Ⅰ 第2編 第4章 感染予防の技術	1時間		
3 4	感染予防の技術	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅰ 第2編 第4章 感染予防の技術 滅菌手袋・エプロンの着脱、滅菌物の取り扱い	2時間		
5 6	診察・検査時の看護技術	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第5編 第4章 検査に伴う看護技術	1時間		
7 8	診察・検査時の看護技術	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第5編 第4章 検査に伴う看護技術 静脈血採血の方法	3時間		
9 10	与薬の技術	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第5編 第3章 与薬・輸血の技術	1時間		
11 12	与薬の技術	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第5編 第3章 与薬・輸血の技術 筋肉内注射の方法	2時間		
13 14	与薬の技術	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第5編 第3章 与薬・輸血の技術 輸液の管理	2時間		
15 16	創傷管理技術	講義 演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第5編 第2章 創傷管理技術 包帯法	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
17 18	栄養摂取の援助技術	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第2章 食生活と栄養摂取の援助技術 経腸栄養	1時間	
19 20	排泄の援助技術	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第3章 排泄の援助技術	1時間	
21 22	排泄の援助技術	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第3章 排泄の援助技術 浣腸の方法	2時間	
23 24	排泄の援助技術	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第4編 第3章 排泄の援助技術 一時的導尿の方法	2時間	
25 26	呼吸・循環を整える技術	講義	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第5編 第1章 呼吸・循環を整える技術 酸素吸入・吸引	1時間	
27 28	呼吸・循環を整える技術	演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第5編 第1章 呼吸・循環を整える技術 酸素吸入・吸引	2時間	
29 30	呼吸・循環を整える技術	講義 演習	テキスト 基礎看護技術Ⅱ 第5編 第1章 呼吸・循環を整える技術 巻法	1時間	
先行履修科目	発達心理学、人体の機能と構造A・B・C・D、看護学概論、基盤看護技術A・B・D、看護ケア論、生活健康論実習、フィールド体験実習				
テキスト	深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学2・3 メヂカルフレンド社				
参考文献	深井喜代子編：基礎看護学テキスト 南江堂 吉田みつ子監：写真でわかる臨床看護技術1・2 インターメディカ				
評価方法	定期試験 40%、技術試験 40%、課題レポート 20% (授業への不適切な参加姿勢、遅刻、欠席等は減点方式で評価する)				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・看護を行う上で非常に重要な科目であるため欠席を認めません。 ・演習を受講していなければ技術試験は受験できません。 ・指示した事前学習を行ったうえで授業に臨んでください。 ・演習への参加は適切な姿勢(服装、頭髮、身だしなみ等も含む)で臨んでください。 ・看護技術を習得するために実技の練習を繰り返し行いましょう。 				

科目番号	321001			担当教員	前田 陽子	
授業科目名	成人看護学概論			E-mail		
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修		資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 介護教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)		可(5名)				
授業の概要	<p>人日が主体的に健康生活を送っていくために必要な支援の在り方を考える。特に、人のライフサイクルにおける成熟の過程として成人期の特徴を社会や生活の関係から理解し、健康問題について考える。また、看護に有用な概念や理論を理解しながら、成人看護のアプローチの基本と看護の役割について学ぶ。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の発達課題が明確にでき、自分自身や家族の健康問題について関心を深める。 ・我が国の成人期の疾病構造と予防対策について理解できる。 ・成人期の健康危機とその克服への支援が理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	成熟過程にある成人期である対象者の青年期・成人期の生活と健康課題と危機	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期・壮年期・向老期の身体の特徴 ・青年期・壮年期・向老期の心理社会的な特徴 	2時間		
2	生活習慣病予防	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の発症因子と予防 ・生活習慣病の発生状況 	2時間		
3	ヘルスプロモーション	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・就労条件や環境と病気 ・職業性疾患の発生状況と予防 ・自殺、職業性疾患、作業関連疾患 	2時間		
4	Aさんへの生活習慣病予防(紙上事例):グループワーク	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に関連する健康問題と予防 ・生活ストレスに関連する健康問題と予防 	2時間		
5	健康生活の破綻と回復を促す看護	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・急性・重症患者と家族の特徴 ・急性・重症患者の看護 ・周術期の看護 	2時間		
6	健康生活と慢性的な揺らぎの調整・障害を持ちながらの生活とリハビリ	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患の特徴とその看護 ・セルフケア・自己管理支援 ・リハビリテーションの特徴とその看護 	2時間		
7	がん治療と看護	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・手術療法の看護 ・化学療法の看護 ・放射線療法時の看護 ・緩和ケア 	2時間		
8	終末期看護	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期にある患者への看護 	2時間		

先行履修科目	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ「成人看護学総論」医学書院
参考文献	
評価方法	定期試験 70%、レポート 20%、グループワークの参加度・発表 10%
注意事項	

科目番号	321002			担当教員	前田 陽子	
授業科目名	成人看護学援助論A			E-mail		
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 看護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	成人期に特有な急性の健康問題と看護援助について、クリティカルケアを必要とする人、周手術期にある人の健康レベルの特徴を踏まえて学ぶ。また、急性期から生活を構築していく、あるいは再調整していく看護について、リハビリテーションという概念に基づいて学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 成人期に急性の健康問題を抱える患者の特徴と看護について理解できる。 周手術期にある患者の特徴と看護について理解できる。(呼吸器、循環器、消化器、脳神経、運動器) 機能障害やボディイメージの変化を伴う患者の特徴と看護について理解できる。 心身の回復過程と回復を促す治療や早期リハビリテーションについて理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	周手術期の看護(術前の看護)	講義	手術の意思決定への援助 術前指導 不安のアセスメントと援助 ボディイメージ変容への援助	1時間		
2	周手術期の看護(術中、術後の看護)	講義	手術方法・体位とその影響 術後の疼痛管理 術後合併症の予防	1時間		
3	クリティカルケアとは	講義	クリティカルケア 救急看護、集中治療	1時間		
4	呼吸機能障害のある患者の看護	講義	呼吸器の構造と機能 ガス交換、慢性閉塞性肺疾患 呼吸リハビリテーション	1時間		
5	手術療法を受ける肺がん患者の看護	講義	肺がん、胸腔鏡下手術 胸腔ドレーン、呼吸訓練 術前オリエンテーション	1時間		
6	循環機能障害のある患者の看護	講義	循環器の構造と機能、 狭心症、心筋梗塞、心不全	1時間		
7	検査・手術・治療を受ける循環機能障害のある患者の看護	講義	心臓カテーテル検査 冠動脈バイパス術、抗凝固療法	1時間		
8	消化器・吸収機能障害のある患者の看護(食道・胃・膵臓・大腸)	講義	機能障害と症状 症状と検査 治療方法(内視鏡・摘出術・ 切除術・造設術)	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	栄養代謝機能障害のある患者の看護(胆臓・肝臓)	講義	機能障害と症状 症状と検査 治療方法(肝臓療法・イン ターフェロン・塞栓術)	1時間	
10	栄養代謝機能障害のある患者の看護(肝臓・腎臓)	講義	機能障害と症状 症状と検査 治療方法(インスリン補充療 法・透析・腎移植)	1時間	
11	脳・神経機能障害のある患者の看護	講義	JCS, GCS, 頭蓋内圧亢進症状	1時間	
12	脳・神経機能障害のある患者の看護	講義	褥瘡予防、ポジショニング 口腔ケア	1時間	
13	乳がん患者の看護(術前・術後)	講義	乳房切除術、化学療法 ボディイメージ、喪失の概念 乳房自己検診、	1時間	
14	運動器の手術を受ける患者の看護	講義	患者の特徴と看護の役割、 人工関節置換術、人工股関節 置換術	1時間	
15	回復過程にある患者の看護	講義	回復期、早期リハビリテーショ ン、セルフケア、社会資源の活 用	1時間	
先行履修科目	人体の構造と機能A、人体の構造と機能B、人体の構造と機能C、人体の構造と機能D、看護学概論				
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「呼吸器」成人看護学 2 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「循環器」成人看護学 3 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「消化器」成人看護学 5 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「脳・神経」成人看護学 7 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「運動器」成人看護学 10 医学書院				
参考文献	成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 改訂第2版 南江堂 成人看護学実習ガイドⅠ 急性期・周手術期 照林社 新体系 看護学全書 <別巻> 臨床外科看護学Ⅰ、Ⅱ メヂカルフレンド社				
評価方法	定期試験70%、小テスト20%、授業態度10%				
注意事項	(予習) テキストの該当部分を読んでおく。 (復習) 授業内容を振り返り、テキストを読んで理解を深める。				

科目番号	322001			担当教員	小村 三千代	
授業科目名	小児看護学概論			E-mail	mkomura@nns.tcn.ac.jp	
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	子どもが個性ある一人の存在であること、成長と発達の上にあることを理解する。そのうえで、小児看護に関する概念、理論、知識、技術を活用しながら、健康問題を総合的に捉え、子どもとその家族に対する看護実践に必要な基礎的能力を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの各発達段階および、健康障害が理解できる。 ・小児各期の子どもの成長発達評価および、小児看護において用いる発達理論が理解できる。 ・子どもの健康障害が成長発達や家族に及ぼす影響と必要な看護について理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	ガイダンス 子どもの成長発達と看護① (新生児期)	講義	新生児期の子どもの成長発達	1時間		
2	子どもの成長発達と看護② (乳児期)	講義	乳児期の子どもの成長発達	1時間		
3	子どもの成長発達と看護③ (幼児期)	講義	幼児期の子どもの成長発達	1時間		
4	子どもの成長発達評価と看護	講義	子どもの成長発達評価	1時間		
5	子どもの成長発達と看護④ (学童・思春期)	講義	学童・思春期の子どもの成長発達	1時間		
6	小児看護で用いる発達理論	講義	発達理論	1時間		
7	小児看護における倫理	講義	看護倫理	1時間		
8	小児医療と小児看護の変遷 小児看護の理念および機能と役割	講義	小児看護の理念	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	外来を受診する子どもと家族の看護 入院する子どもと家族の看護	講義	入院が子どもと家族に及ぼす影響	1時間	
10	子どもの安全を守る看護	講義	子どもの危険因子	1時間	
11	感染症の子どもと家族の看護 (発熱 発疹 隔離)	講義	子どもの発熱	1時間	
12	急性胃腸炎の子どもと家族の看護 (下痢 嘔吐 脱水)	講義	子どもの脱水	1時間	
13	川崎病の子どもと家族の看護 (不機嫌 啼泣)	講義	川崎病	1時間	
14	先天性心疾患の子どもと家族の看護 (チアノーゼ 手術療法)	講義	先天性心疾患	1時間	
15	急性リンパ性白血病の子どもと家族の看護 (出血 易感染)	講義	急性リンパ性白血病	1時間	
先行履修科目					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学②小児臨床看護各論 医学書院 ・小児をめぐる看護現象入門 ライフサポート社 				
参考文献	授業の中で適宜紹介する。				
評価方法	定期試験 100%				
注意事項					

科目番号	322004			担当教員	前田 隆子	
授業科目名	母性看護学概論			E-mail		
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(5名)					
授業の概要	身体、心理、社会的側面から母性の特性をとらえ、女性のライフステージ各期における母性の特徴とそれに対応する看護の基礎を学修する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 母性看護学概念、母性看護領域の専門性を理解できる。 女性のライフステージ各期における母性の健康課題を理解し、対象者をアセスメントする視点を学び、必要な看護援助が理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	母性看護の基盤となる概念、母性看護の理念 母性看護とは、リプロダクティブヘルス/ライツ	講義	母性とは、女性の一生と母性、リプロダクティブヘルス/ライツ、発達と危機	1時間		
2	母性看護の歴史の変遷、母子保健と法律	グループワーク	児童福祉法、母体保護法、母子保健法等	1時間		
3	母子保健統計から見える母子保健の動向と課題	講義	合計特殊出生率、周産期死亡率等 少子化、関連施策(エンゼルプラン等)	1時間		
4	対象理解：生殖器官の形態と機能、人間の性と生殖、妊娠のメカニズム	講義	排卵のメカニズム、月経周期、基礎体温	1時間		
5	家族計画、受胎調節	グループ学習	避妊法	1時間		
6	ライフステージと母性のイベント/思春期	講義	月経前緊張症、月経痛 性感 感染症	1時間		
7	ピアカウンセリングスキル	講義/演習	アクティブラーニング	1時間		
8	成熟期女性の健康課題	講義	妊娠・出産 不妊	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	妊婦の看護(1)	演習	内診、レオポルド触診、胎児心音聴取	1時間	
10	妊婦の看護(2)	演習	内診、レオポルド触診、胎児心音聴取	1時間	
11	出産	講義	分娩経過、胎盤の構造と機能	1時間	
12	産婦の支援(1)	演習	産痛、弛緩法、分娩時呼吸法	1時間	
13	産婦の支援(2)	演習	産痛、弛緩法、分娩時呼吸法	1時間	
14	成熟期、老年期女性の健康課題/健康障害と看護(1)	講義	子宮筋腫、子宮がん、	1時間	
15	成熟期、老年期女性の健康課題/健康障害と看護(2)	講義	更年期障害	1時間	
先行履修科目	人体の構造と機能A、人体の構造と機能B、人体の構造と機能C、人体の構造と機能D				
テキスト	医学書院・母性看護学①、② 南江堂・母性看護学Ⅱ				
参考文献	病気が見える(産科)、病気が見える(婦人科)				
評価方法	定期試験50%、レポート20%、小テスト10%、発表10%、提出物10%				
注意事項					

科目番号	321003			担当教員	前田 陽子	
授業科目名	成人看護学援助論B			E-mail		
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	成人期にある特有な健康問題のうち、慢性期の健康障害と病いと共に生きる人の体験を理解し、ケアリングの考えを基盤にした看護援助について学ぶ。 慢性期にある人の病気の体験や看護アセスメントから健康障害による身体の変化を理解する。生活習慣病や難病など慢性疾患の人の健康の回復・苦痛への看護援助の理論と実践を理解する。さらに、成人期にある人の健康の増進、生活習慣病の予防への看護援助の理論と実践を理解する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもちながら生きるということを理解し、ケアリングの考えを基盤にした看護援助について説明できる。 慢性期にある人の看護アセスメントから健康障害による身体の変化を理解できる。 生活習慣病など慢性疾患の人の健康の回復、増進、予防への看護援助の理論と実践方法を理解できる。 主な疾患の看護過程の展開が理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	慢性期ケアとは慢性疾患をもつ人の特徴	講義	慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者の理解 慢性病患者のたえない取り組みーセルフケア	1時間		
2	慢性疾患をもちながら生きるということ	講義	慢性病との共存を支える看護 慢性期の患者のニーズ 家族支援・退院支援 リハビリテーション	1時間		
3	循環障害のある患者の看護(虚血性心疾患、不整脈)	講義	機能障害と症状 虚血性心疾患、不整脈の治療	1時間		
4	循環障害のある患者の看護(心不全、動脈閉塞性疾患)	講義	機能障害と症状 心不全、動脈閉塞性疾患の治療	1時間		
5	生活行動に障害のある患者の看護(脊髄・神経疾患)	講義	機能障害と症状 脊髄・神経疾患の治療	1時間		
6	生活行動に障害のある患者の看護(骨・関節疾患)	講義	機能障害と症状 骨・関節疾患の治療	1時間		
7	内分泌・代謝障害のある患者の看護	講義	成人期の特徴について 内分泌疾患の概要 内分泌、代謝のしくみと病態生理について復習	1時間		
8	内分泌・代謝障害のある患者の看護	講義	糖尿病について予習 糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝について復習	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	腎・泌尿器障害のある患者の看護	講義	腎臓の解剖生理を復習 周手術期の看護 ストマについて	1時間	
10	腎・泌尿器障害のある患者の看護	講義	急性腎不全 慢性腎不全 腎移植	1時間	
11	看護過程と看護診断	講義	看護過程の展開を復習 看護診断について(定義、診断 指標、関連因子、危険因子とは 何か)	1時間	
12	紙上事例による看護過程の展開演習	講義	紙上事例による情報アセスメントから看護診断過程への展開 関連図の作成	1時間	
13	グループワーク(情報収集・関連図・看護診断・看護計画)	演習	事例の情報整理とアセスメントを行う 事例の看護計画を立案する	1時間	
14	看護過程展開の発表	演習	各グループによる発表	1時間	
15	成人看護技術	演習	ドレーン管理 心電図モニター、酸素吸入、吸引、点滴管理 自己血糖測定、ストーマの装着	1時間	
先行履修科目	疾病論A、疾病論B、成人看護学概論、成人看護学援助論A、看護倫理学				
テキスト	系統看護学講座 別巻「臨床外科看護総論」医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「循環器」成人看護学3 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「運動器」成人看護学10 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「内分泌」成人看護学6 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「腎・泌尿器」成人看護学8 医学書院 看護診断ハンドブック 第10版 医学書院				
参考文献	糖尿病食事療法のための食品交換表第7版 日本糖尿病学会				
評価方法	定期試験70%、小テスト10%、グループワークの参加態度・発表10%、提出物10%				
注意事項	(予習) 事前にテキストを読んでおく (復習) 授業を受けた後に、資料、テキストを復習する				

科目番号	321004			担当教員 E-mail	堀江 千恵 horic-chic@yonagomc.jp 池田 牧 ikedam@pref.tottori.lg.jp
授業科目名	成人看護学援助論C				
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 介護教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)		可(5名)			
授業の概要	成人期にある特有な健康問題のうち、終末期の健康障害と病いと共に生きる人の体験を理解し、ケアリングの考えを基盤にした看護援助について学ぶ。 その中で、終末期にある人の病気の体験、および看護アセスメントから健康障害による身体の変化を理解し、特に、身体的苦痛の緩和の援助を学ぶ。また、終末期にある人の精神的苦痛の理解に迫り、精神的・心理的緩和ケアの実践を学ぶ。併せて、家族の支援のあり方を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期の健康障害について、全人的苦痛の観点から説明できる。 ・終末期にある人に対して身体的苦痛のアセスメントの視点とケアを説明できる。 ・終末期にある人に対して精神的苦痛のアセスメントの視点とケアを説明できる。 ・終末期にある家族のアセスメントとケアの視点について説明できる。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
1	終末期にある患者の全人的苦痛 身体的苦痛へのケア	講義	【予習】テキスト第1・2章を読んだ上で授業に臨むこと	1時間	
2	終末期にある患者の身体的苦痛へのケア	講義	【予習】テキスト第7章を読んだ上で授業に臨むこと	1時間	
3	終末期にある患者の身体的苦痛のアセスメント、看護診断の立案	講義 GW	【予習】前回までの講義を復習した上で授業に臨むこと	1時間	
4	終末期にある患者の身体的苦痛のアセスメント、看護計画の立案	GW	【予習】前回のGWの事例の看護診断を立案しておくこと	1時間	
5	終末期にある患者の心理社会的ケア	講義	【予習】テキスト第8・9章を読んだ上で授業に臨むこと	1時間	
6	終末期にある患者のスピリチュアルケア	講義	【予習】テキスト第10章を読んだ上で授業に臨むこと	1時間	
7	終末期患者の意思決定支援	講義	【予習】テキスト第4章を読んだ上で授業に臨むこと	1時間	
8	終末期の家族支援	講義	【予習】テキスト第11章を読んだ上で授業に臨むこと	1時間	

先行履修科目	
テキスト	恒藤暁、内布敦子編集：系統看護学講座 別巻 緩和ケア、医学書院、2015.
参考文献	
評価方法	定期試験 60%、グループワークの参加態度・発表 20%、授業態度 20%
注意事項	

科目番号	322002			担当教員	小村 三千代	
授業科目名	小児看護学援助論			E-mail	mkomura@nns.tcn.ac.jp	
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	子どもが個性ある一人の存在であること、成長と発達の上にあることを理解する。そのうえで、小児看護に関する概念、理論、知識、技術を活用しながら、健康問題を総合的に捉え、子どもとその家族に対する看護実践に必要な基礎的能力を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康障害が成長発達や家族に及ぼす影響が理解できる。 ・子どもの健康障害に応じた援助方法が理解できる。 ・健康障害のある子どもの社会生活において、保健・医療・福祉・教育の連携が理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	ガイダンス 気管支喘息の子どもと家族の看護(呼吸困難)	講義	気管支喘息	1時間		
2	先天性股関節脱臼の子どもと家族の看護(牽引・ギブス療法)	講義	先天性股関節脱臼	1時間		
3	1型糖尿病の子どもと家族の看護(自己管理、薬物療法)	講義	1型糖尿病	1時間		
4	障害(重心・筋ジス)をもつ子どもと家族の看護(痙攣、意識障害)	講義	障害のある子ども	1時間		
5	終末期の子どもと家族の看護(チーム医療、IA)	講義	終末期の子ども	1時間		
6	検査処置を受ける子どもと家族の看護	講義	子どもの検査や処置	1時間		
7	看護の展開①(事例紹介・アセスメント)	演習	アセスメント	1時間		
8	看護の展開②(全体像)	演習	全体像	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	子どもの看護に必要な看護技術①	講義	小児看護技術	1時間	
10	看護の展開③(看護計画立案)	演習	看護計画	1時間	
11	子どもの看護に必要な看護技術②③	演習	小児看護技術	1時間	
12	子どもの看護に必要な看護技術②③	演習	小児看護技術	1時間	
13	看護の展開④(実施)	演習	実施	1時間	
14	看護の展開⑤(評価・修正)	演習	評価・修正	1時間	
15	看護の展開⑥(発表)	演習	課題	1時間	
先行履修科目	小児看護学概論を履修している。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学②小児臨床看護各論 医学書院 ・小児をめぐる看護現象入門 ライフサポート社 ・小児看護実習ガイド 照林社 				
参考文献	授業の中で適宜紹介する。				
評価方法	定期試験 80%、課題レポート 20%				
注意事項	演習終了後はレポートを提出する。				

科目番号	322005			担当教員	前田 隆子	
授業科目名	母性看護学援助論			E-mail		
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選別区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間 (2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	母性看護を実践するために必要な基礎的知識を理解し、必要な技術を修得する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠、分娩、産褥、新生児の看護を理解できる。 ・各期における母性の特徴を理解し、対象者をアセスメントする視点、必要な看護が述べられる。 ・母性看護に必要なアセスメント技術、ケア技術を理解、学生相互、あるいはモデル人形で実施できる。 ・臨床実習が円滑に進められるよう、看護過程のイメージ化ができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	妊娠の生理と経過、妊婦の健康診査	講義	妊娠とは 妊娠の判定 妊娠が判明した場合必要となる基礎的な情報(医学書院 各論 P105-111)	1時間		
2	妊娠初期の事例の看護課題と計画立案	講義/グループワーク	基礎的な情報	1時間		
3	妊娠中期の身体的、心理的変化	講義/グループワーク	糖代謝異常、胎児循環、胎盤の機能、羊水の循環、胎児発育	2時間		
4	妊婦の健康管理と保健指導(食生活、嗜好品、日常生活、不快症状)	講義/演習	妊産婦に必要な栄養、嗜好品、日常生活	1時間		
5	A:講義 妊娠中の異常 B:妊婦の看護に必要な技術(妊婦体験、子宮底長等測定、レボルト触診、心音測定、予定日算出血圧測定、浮腫のチェック等)	講義/演習	切迫早産、妊娠高血圧症候群、貧血、正常な心拍パターン 妊婦健康診査に必要な技術	1時間		
6	妊娠末期の事例の看護	講義/演習	妊婦の体重増加、胎位、妊娠末期の情緒的変化、疲労妊婦に対する保護規定、バースプラン	1時間		
7	分娩の経過と看護	講義	分娩の妊娠週数による分類、分娩の三要素、分娩の経過	1時間		
8	A:新生児の看護:講義 B:技術演習(パッド測定、計測、沐浴、排気、おむつ交換)	講義/演習	新生児の生理、観察事項 パッド測定、計測、沐浴、排気、おむつ交換	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	B:新生児の看護:講義 A:技術演習(パッド測定、計測、沐浴、排気、おむつ交換)	講義	新生児の生理、観察事項 パッド測定、計測、沐浴、排気、おむつ交換	1時間	
10	褥瘡の看護	講義/演習	産褥期の退行性変化、進行性変化	1時間	
11	看護過程 1	グループワーク	看護過程の展開	0.5時間	
12	看護過程 2	グループワーク	記録の書き方	2時間	
13	発表	発表/まとめ	記録整理	2時間	
14	助産所における出産	講義	文献の購読	0.5時間	
15	技術テスト	テスト	子宮底長等測定、レボルト触診、心音測定、予定日算出血圧測定、浮腫のチェック等 補助動作、沐浴などの内	1時間	
先行履修科目	生殖と倫理、疾病論 B、母性看護学概論				
テキスト	医学書院・母性看護学①、② 南江堂・母性看護学Ⅱ				
参考文献	資料を配布する。				
評価方法	定期試験 60%、実技 10%、小テスト 10%、発表 10%、提出物 10%				
注意事項					

科目番号	321005			担当教員	永見 純子、平野 裕美 他	
授業科目名	成人看護学実習 A			E-mail		
開講年次	3年 後期	必修・選択	必修		資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	実習	時間数(単位数)	90時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	急性期・周手術期にある成人期の患者とその家族の健康上の問題を理解し、問題を解決するための看護援助を主体的に考え、実践できる能力を養う。 患者とその家族とともに、生命の回復力を高めたり、QOLの向上を目指す看護を行い、生活の自立や再構築を支援する。看護を展開していく中で、患者とその家族の個性を理解し、急性期の変化に応じた看護援助のあり方を考え、看護を創造できる力を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の発達課題をふまえ、健康障害が患者のからだ、こころ、生活、社会に及ぼす影響を理解できる。 ・急性期の健康障害に対する患者とその家族の受容や対処を理解し、価値観を尊重できる看護者としての理解的態度を身につけることができる。 ・急性期・周手術期などにある患者の状況を包括的にアセスメントし、看護上の問題を明らかにし、個別化した看護援助を計画立案、実践、評価・修正できる。 ・患者とその家族の生活調整や生活の再構築の必要性を理解した看護援助ができる。 ・患者と家族を取り巻くチーム医療の重要性を学び、看護の役割について理解できる。 ・実習を通して、自己の看護観を深めることができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 患者を1名以上受け持ち、実習を行う。 受け持ち患者の看護計画を立案し、実践、評価を行う。 所定の受け持ち患者記録を使用し記録を行う。 カンファレンスなどを通して、実習グループメンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し、共有する。 					
自己学修課題(予習・復習)	成人看護学概論、成人看護学援助論、看護倫理学、疾病論、栄養学、看護病態学					
先行履修科目	単位取得科目：基盤看護学実習 履修済み科目：基盤看護技術C、成人看護学概論、成人看護学援助論A、成人看護学援助論B、成人看護学援助論C					
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ「成人看護学総論」 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「呼吸器」成人看護学2 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「呼吸器」成人看護学2 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「循環器」成人看護学3 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「消化器」成人看護学5 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「内分泌」成人看護学6 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「脳・神経」成人看護学7 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「腎・泌尿器」成人看護学8 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「運動器」成人看護学10 医学書院 系統看護学講座 別巻「臨床外科看護総論」医学書院 看護診断ハンドブック 第10版 医学書院					
参考文献	疾病論で使用した書籍 成人看護学概論で使用した書籍 成人看護学援助論Aで使用した書籍 成人看護学援助論Bで使用した書籍 今日の治療薬・今日の臨床検査・看護過程に沿った対象看護					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習目標の達成状況を総合的に評価する。 ・最終評価は、学生の自己評価・実習内容・レポート・実習記録、最終評価面接を総合し、教員が行う。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを含め、原則として欠席は認めない。 ・急性期患者の病態生理、周手術期の看護について事前学習して臨む。

科目番号	321006			担当教員	村口 孝子, 出石 幸子 他
授業科目名	成人看護学実習B			E-mail	
開講年次	3年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	実習	時間数(単位数)	135時間(3単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	<p>慢性期・回復期・終末期にある成人期の患者とその家族の健康上の問題を理解し、問題を解決するための看護援助を主体的に考え、実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>患者とその家族とともに、生活の自立や再構築を支援したり、生命の回復力を高めたり、QOLの向上を目指す看護を展開する能力と態度を養い、患者とその家族の個性を理解し、変化に応じた看護援助のあり方を考え、看護を創造し発展できる力を養う。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の発達課題をふまえ、健康障害が患者のからだ、こころ、生活、社会に及ぼす影響を理解できる。 ・患者の状況を包括的にアセスメントし、看護上の問題を明らかにし、個別化した看護援助を計画立案、実践、評価・修正できる。 ・患者と家族を取り巻くチーム医療の重要性を学び、継続看護の実際を通して、看護の役割について理解できる。 ・実習を通して、自己の看護観を深めることができる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 患者を1名以上受け持ち、実習を行う。 受け持ち患者の看護計画を立案し、実践、評価を行う。 所定の受け持ち患者記録を使用し記録を行う。 カンファレンス等を通して、実習グループメンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し、共有する。 				
自己学修課題(予習・復習)	成人看護学概論、成人看護学援助論、看護倫理学、疾病論、看護病態学				
先行履修科目	単位取得科目：基盤看護学実習 履修済み科目：基盤看護技術C、成人看護学概論、成人看護学援助論A、成人看護学援助論B、成人看護学援助論C				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ「成人看護学総論」 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「呼吸器」成人看護学 2 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「循環器」成人看護学 3 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「血液・造血器」成人看護学 4 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「消化器」成人看護学 5 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「内分泌・代謝」成人看護学 6 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「脳・神経」成人看護学 7 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「腎・泌尿器」成人看護学 8 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「運動器」成人看護学 10 医学書院 系統看護学講座 別巻「臨床外科看護総論」医学書院 系統看護学講座 別巻「臨床外科看護各論」医学書院 看護診断ハンドブック 第10版 医学書院				
参考文献	疾病論で使用した書籍・プリント 成人看護学概論で使用した書籍・プリント 成人看護学援助論Aで使用した書籍・プリント 成人看護学援助論Bで使用した書籍・プリント 今日の治療薬・今日の臨床検査・看護過程に沿った対象看護				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習目標の達成状況を総合的に評価する。 ・最終評価は、学生の自己評価・実習内容・レポート・実習記録、最終評価面接を総合し、教員が行う。
注意事項	オリエンテーションを含め、原則として欠席は認めない。実習前、成人期特有の健康障害の慢性期にある対象の概要について事前学習して臨む。

科目番号	322003			担当教員	小村 三千代 他
授業科目名	小児看護学実習			E-mail	mkomura@nns.tcn.ac.jp
開講年次	3年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	実習	時間数(単位数)	90時間(2単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	<p>子どもが個性ある一人の存在であること、成長と発達の上にあることを理解する。そのうえで、小児看護に関する概念、理論、知識、技術を活用しながら、健康問題を総合的に捉え、子どもとその家族に対する看護実践に必要な基礎的能力を養う。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階、健康障害が理解できる。 ・子どもの発達段階を考慮し、日常生活援助ができる。 ・小児保健医療チームにおける小児看護の役割が説明できる。 				
授業計画	<p>子どもの成長発達段階を理解し、個々の健康状態に応じて子どもと家族が生き生きと生活できるように支援するための基礎的な能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な子どもの看護：健康な乳幼児に対する保育実習を経験する。 ・外来通院中の子どもの看護：小児外来における診察、看護、教育場面に参加し小児外来の看護のポイントと役割を理解する。 ・健康障害のある子どもの看護：健康障害を持った子どもを1名受け持ち、既習の知識・技術・態度を活用しながら看護計画の立案および実施し、小児看護に必要な基礎的能力を養う。 ・具体的な目標や内容は、実習要項に示す。 ・実習開始前に小児看護学実習要項を配布し、実習オリエンテーションを実施する。 				
自己学習課題(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：課題学習Ⅰ・Ⅱ ・事後学習：リフレクション、課題レポート 				
先行履修科目	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤看護学実習の単位を修得している。 ・基盤看護技術D、小児看護学概論および小児看護学援助論を履修している。 				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・実習開始前に「小児看護学実習要項」を配布する。 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、提示する。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の評価は評価項目により行う。 				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーションには必ず出席する。 				

科目番号	322006			担当教員	前田 隆子 他
授業科目名	母性看護学実習			E-mail	
開講年次	3年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	実習	時間数(単位数)	90時間(2単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	妊婦・産婦・褥婦及び新生児に対する母性看護を展開し、周産期における母子およびその家族が、よりよい健康生活を維持していくために必要な支援について学習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期における母子とその家族が、経験する変化について理解する。 ・周産期における母子とその家族の、健康課題・問題をアセスメントできる。 ・周産期における母子の看護に必要な、援助技術について説明できる。 ・対象に寄り添い、必要な支援を実践し評価できる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 施設のオリエンテーションを受け産科環境の特殊性を理解する。 1事例を受け持ち、情報収集、アセスメントし、看護計画を立案、実施、評価する。 援助技術は実習指導者の指導を受けて行い、実施後にはリフレクションの時間をもち、ケアに対する指導を受ける。 カンファレンスを通して、他の実習生の事例からも学び、看護を深めることができる。 				
自己学習課題(予習・復習)	母性看護ワークブック、特に妊婦の診察・分娩の補助動作・産褥の観察・新生児の観察とそれらの母性看護を復習して臨む				
先行履修科目	生殖と倫理、疾病論B、基盤看護技術D、母性看護学概論、母性看護学援助論				
テキスト	母性看護学各論(医学書院)・母性看護学Ⅱマタニティサイクル(南江堂)				
参考文献	受け持ち事例の看護を追究するために必要な文献を広く探索する。				
評価方法	実習目標の到達度(評価表)80%、出席状況、実習・カンファレンスへの参加状況や態度実習終了後のレポートなど20%				
注意事項					

科目番号	331001			担当教員	高田 美子	
授業科目名	老年看護学概論			E-mail	ylakata@nns.icn.ac.jp	
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)		可(5名)				
授業の概要	日本の高齢化が進行する中で老年看護学が生まれた経過を学ぶ。加齢の身体的・生理的・社会的特徴を理解し、高齢者とその家族が直面する介護の現状を学ぶ。高齢者の健康とQOLを高めるため、医療・福祉の社会資源や看護理論を学び、個性の大きい高齢者の理解と、老年看護の目的・役割について学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学にかかわる基礎知識を学ぶ。 ・老年看護の目的並びにその課題を理解し歴史的背景を学ぶ。 ・高齢化社会における家族形態の特徴と課題を理解できる。 ・高齢者の生活史を理解し高齢者看護について学ぶ。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	コースオリエンテーション 老年看護学について	講義	【予習】 高齢者の健康と障害テキスト 「1 高齢者の理解」及びAR コンテンツ読み受講すること。	2時間		
2	高齢者のライフサイクルについて	講義	【予習】 高齢者にとっての健康とは、テキスト、文献を読んだ上で授業に臨むこと	2時間		
3	高齢者をとりまく社会の現状	講義	【予習】 高齢者の生活と家族について自分意見をまとめておく。	2時間		
4	高齢者の理解① ライフレビューインタビュー	講義	【予習】 老年期を生きる人々の特徴について自分の考えをまとめておく	2時間		
5	高齢者の理解② 老人専門看護師による老年看護の現状について	講義	【予習】 CNS 老人専門看護師の役割について把握し授業に臨むこと。	2時間		
6	高齢者の理解③ ライフレビューインタビュー	講義	【予習】 老年期を生きる人々の特徴について自分の考え発表できる	2時間		
7	高齢者と家族、高齢者を支える制度・社会資源について	講義	【復習】 授業で出された課題について、次回の授業で発表できるように準備をすること。	2時間		
8	高齢者のリスクマネジメント 基本的考え方	講義	【復習】 生活のリスクとセルフケアについて読み受講すること。	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	高齢者看護の基本① 高齢者疑似体験	講義 演習	【予習】 日常生活体験から高齢者の特徴についてを自分の考えをまとめておく。	2時間	
10	高齢者看護の基本② 高齢者疑似体験	講義 演習	【復習】 日常生活体験から高齢者の特徴についてを自分の考えを発表する。	2時間	
11	高齢者看護の基本③ アセスメントの特徴 包括的機能アセスメント	講義	【復習】 包括的機能アセスメントについて調べること。	2時間	
12	介護保険施設に暮らす高齢者看護について	講義	【予習】 長期療養施設について調べて授業に臨むこと。	2時間	
13	認知症の基本的看護①	講義	【予習】 認知症の人とのコミュニケーションの基本についてまとめておく。	2時間	
14	認知症の基本的看護②	講義	【復習】 アクティビティについて調べまとめておくこと。	2時間	
15	統合期を支え 高齢者看護についてまとめ	講義	【復習】 これまでの講義を想起しながら「高齢者の看護について」まとめておくこと。	2時間	
先行履修科目					
テキスト	「ナースング・グラフィカ 26 高齢者の健康と障害」メディカ出版				
参考文献	参考文献の紹介は随時します。 各講義において適宜資料等を配布します。				
評価方法	定期試験 80%、レポート 10%、ワーク参加 10%				
注意事項					

(地域志向科目)

科目番号	333001			担当教員	(未定)
授業科目名	在宅看護学概論				E-mail
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修		
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)			資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業の概要					
到達目標					
授業計画					
回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
先行履修科目					
テキスト					
参考文献					
評価方法					
注意事項					

〔地域志向科目〕

科目番号	334005			担当教員	矢倉 紀子	
授業科目名	公衆衛生看護学概論			E-mail	nyakura@nns.tcn.ac.jp	
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修			
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(5名)					
授業の概要	公衆衛生看護学の基礎となる理念・概念を概説し、また保健師活動の歴史を概観することで公衆衛生看護の意義を追求する。公衆衛生看護活動に必要な基本的な理論と方法論について概説する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の理念と目的について説明できる。 ・公衆衛生看護活動を展開するための基本的な知識と技術について説明できる。 ・地域保健活動過程として地域アセスメント、地域診断、計画立案、実施評価の課程について説明できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	公衆衛生看護の理念と目的	講義	教科書 p.3~12 を熟読しておく	0.5時間		
2	ヘルスプロモーションと公衆衛生看護活動	講義	教科書 p.13~20 を熟読しておく 1年次「地域基礎看護学」で既習の健康概念の変遷を復習しておく	0.5時間		
3	公衆衛生看護の歴史と展望 公衆衛生看護の始まり～第二次世界大戦後の公衆衛生看護活動	講義	教科書 p.21~27 を熟読しておく	0.5時間		
4	公衆衛生看護の歴史と展望 経済発展期における公衆衛生看護活動 高齢社会と保健師活動 保健師教育の歴史	講義	教科書 p.28~41 を熟読しておく	0.5時間		
5	医療経済と保健活動 保健医療福祉システム	講義	教科書 p.42~57 を熟読しておく [国民衛生の動向] p.32-38 を熟読しておく	0.5時間		
6	保健師と公衆衛生看護活動 公衆衛生看護活動の場、活動内容、方法	講義	教科書 p.58~67 を熟読しておく	0.5時間		
7	社会環境の変化と健康課題	講義	教科書 p.69~82 を熟読しておく	0.5時間		
8	保健師活動事例を通して公衆衛生看護活動を理解する 提示した事例をもとにグループワーク	講義	事前に事例を提示するので熟読しておく	0.5時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	保健行動と保健活動	講義	教科書 p.83~89 を熟読しておく	0.5時間	
10	地域保健活動過程と保健師活動 地域診断の概念と活用モデル プリシード・プロシードモデル	講義	教科書 p.97~101 を熟読しておく	0.5時間	
11	地域保健活動過程と保健師活動 地域診断の概念と活用モデル コミュニティアズパートナーモデル	講義	教科書 p.101~116 を熟読しておく	0.5時間	
12	地域保健活動過程と保健師活動 活動・事業計画と保健師の役割	講義	教科書 p.128~137 を熟読しておく	0.5時間	
13	地方自治体における計画策定・ 施策化と予算の仕組み	講義	教科書 p.138~147 を熟読しておく	0.5時間	
14	保健師の活動の展望 保健師の活動と倫理的問題	講義	教科書 p.502~510 を熟読しておく 日本看護協会看護者の倫理綱領、 ICN看護者の倫理綱領を熟読しておく	0.5時間	
15	公衆衛生看護活動と研究	講義	当日資料提示 本科目全体で疑問点や理解できないところがないか振り返っておく	0.5時間	
先行履修科目	地域基礎看護学、公衆衛生学、疫学				
テキスト	公衆衛生看護学：荒賀直子、後閑容子編集、インターメディカル 厚生指 国民衛生の動向 2016/2017：厚生統計協会				
参考文献	標準保健師講座 公衆衛生看護学概論、奥山則子他、医学書院 コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際：エリザベスTアンダーソン、ジュ ディス・マクファーレイン 金川克子、早川和生監訳、医学書院				
評価方法	定期試験 80%、レポート 20%				
注意事項					

【地域志向科目】

科目番号	331002			担当教員	高田 美子	
授業科目名	老年看護学援助論			E-mail	ylakala@ns.tcn.ac.jp	
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)		不可				
授業の概要	老化に伴う心身の健康状態の変化に対応していくために、どのような援助が必要なのかを学ぶ。医療的側面とこれまでの生活を関連づけながら、事例分析等の演習を通して、個別的な高齢者看護の展開ができる能力を習得する。加齢に伴う発達と新たな可能性の広がりという意味の老化について学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者特有の心身の健康状態の変化に関する知識を正しく理解し、科学的根拠に基づき高齢者看護に必要な看護過程の展開を段階的に理解できる。 ・高齢者の生活に対応する統合的能力を習得することができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	老年看護学演習授業の概要 高齢者に多い病気・症状の理解と看護①	講義	【予習】脳神経系、循環器系、呼吸器系、骨・運動器系、生活習慣病についてテキスト(老年看護学①)を読んでおくこと	2時間		
2	高齢者に多い病気・症状の理解と看護②	講義	【予習】高齢者の聴覚機能、英物療法についてテキスト(老年看護学①②)を読んでおくこと	2時間		
3	認知症ケア	講義	【復習】講義資料を読み返しておくこと	2時間		
4	食生活を支える看護①	講義	【復習】口腔の働き、唾液の働き、口腔ケア、嚥下・治療食、食事の介助方法、経腸栄養法について復習し演習につなげること	2時間		
5	食生活を支える看護②	演習	【復習】演習を振り返り、課題レポートをまとめて、指示された日までに提出すること	2時間		
6	排泄を支える看護①	講義	【復習】排泄を支える看護についてテキスト・資料で復習し、演習につなげること	2時間		
7	排泄を支える看護②	演習	【復習】演習を振り返り、課題レポートをまとめて、指示された日までに提出すること	2時間		
8	清潔・衣生活を支える看護	講義	【予習】清潔・衣生活を支える看護についてテキスト(老年看護学②)を読んでおくこと	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	高齢者の自立支援について	講義	【復習】外部の専門の方からの講義ですので、しっかりと忘れないように復習すること	2時間	
10	活動と休息を支える看護①	講義	【予習】活動と休息を支える看護についてテキスト(老年看護学②)を読んでおくこと	2時間	
11	活動と休息を支える看護②	演習	【復習】演習を振り返り、課題レポートを、指示された日までに提出すること	2時間	
12	アクティビティについて	講義	【復習】アクティビティは実習で行うので、大切なことを忘れないよう復習すること	2時間	
13	看護過程の展開①	講義	【復習】演習に繋げていくことができるよう理解しておくこと	2時間	
14	看護過程の展開②	演習	個人で事例の看護過程の展開を行うこと	2時間	
15	看護過程の展開③	演習	個人で事例の看護過程の展開を行うこと	2時間	
先行履修科目	老年看護学概論				
テキスト	ナーシング・グラフィカ 老年看護学①「高齢者の健康と障害」メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 老年看護学②「高齢者看護の実践」メディカ出版 系統看護学講座 老年看護 病態・疾病論 医学書院				
参考文献	適宜紹介します。				
評価方法	定期試験 80%、レポートや提出物 10%、授業態度 10%				
注意事項					

【地域志向科目】

科目番号	332001			担当教員	安田 美彌子	
授業科目名	精神看護学概論			E-mail		
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(5名)					
授業の概要	精神障害者のセルフケアに焦点を当て、対人関係技術や、精神状態のアセスメント技術の基礎を学ぶ。精神障害のとらえ方、心の働きと人格の発展、危機介入とストレス理論、家族及び集団心理、精神療法などの基本を学ぶ。さらに精神保健福祉の歴史の変遷と精神障害者の人権や倫理について理解し、精神保健福祉法などの制度を学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護を提供するうえで基礎となる制度や法律、精神医療の歴史と現状、人権擁護などを理解する。 ・精神看護実践の基礎となる看護理論、治療的コミュニケーションについて理解する。 ・心の発達、ライフサイクルと聞きなど精神保健について理解する。 ・社会の動き、家庭や職場のメンタルヘルスについて理解する。 ・精神疾患の概要を理解し、生活者としてのセルフケアの大切さを理解する。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	オリエンテーション 社会の中の精神障害(精神看護の歴史と精神保健福祉の法律など)	講義	精神看護の基礎(P288~328)	2時間		
2	精神の健康とは 人間の心の働き(1)(正常と異常など)	講義	精神看護の基礎(P20~99)	2時間		
3	人間の心の働き(2)(発達課題など)	講義	精神看護の基礎(P20~90)	2時間		
4	関係の中の人間(家族と家族療法)	講義	精神保健福祉(P98~115)	2時間		
5	精神科看護における看護理論	講義	精神看護の基礎	2時間		
6	関係の中の人間(セルフヘルプとソーシャルサポート)	講義	精神保健福祉(P98~115)	2時間		
7	治療的コミュニケーション(看護と人間関係)	講義	精神看護の展開(1~60)	2時間		
8	精神疾患の基礎知識(精神科で出会う人々)(1)統合失調	講義	精神看護の基礎(P136~222)	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	精神疾患の基礎知識(精神科で出会う人々)(2)気分(感情)障害	講義	精神看護の基礎(P136~222)	2時間	
10	精神疾患の基礎知識(精神科で出会う人々)(3)神経症障害、ストレス関連障害	講義	精神看護の基礎(P136~222)	2時間	
11	社会の変化とアディクション(アルコール依存症、薬物依存症の治療と精神保健福祉)	講義	精神保健福祉(p176~190)	2時間	
12	社会の変化と精神保健福祉(児童虐待、いじめなど)	講義	精神保健福祉(p192~216)	2時間	
13	心の発達<自分を知る>精神分析と交流分析	講義	エゴグラムとは	2時間	
14	当事者と語る	講義	レポート作成	2時間	
15	メンタルヘルスと産業保健	講義	精神看護の展開(P334~355)	2時間	
先行履修科目	特になし				
テキスト	精神看護学(1)精神看護の基礎、精神看護学(2)精神看護の展開、精神保健福祉、医学書院				
参考文献	アディクション看護学、医学書院				
評価方法	定期試験80%、レポート10%、授業態度10%				
注意事項	予習より復習に重点を入れてください。				

科目番号	332002			担当教員	中川 康江	
授業科目名	精神看護学援助論			E-mail		
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	主な疾患・治療・回復段階における援助方法について学ぶ。病院での看護過程の展開方法は、生物・心理・社会的側面からアセスメントを行い、看護計画立案の演習を行う。また、地域精神保健活動における看護活動、精神障がい者と家族への支援の理論について学習する。					
到達目標	精神保健上の疾患の特徴、治療方法などの理解と、看護実践の基礎力の修得を目的とする。 ・精神に障がいをもつ人の特徴・看護・治療が理解できる。 ・地域における精神看護が理解できる。 ・精神科における看護過程の展開ができる。					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学習課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	I. おもな現症(状態像) 1. 不安 2. 幻覚・妄想 3. 躁鬱 II. 精神の健康 【生物・心理・社会的側面】	講義	精神看護概論とテキスト第7, 8, 11, 終章の関連部分の予習・復習	2時間		
2	疾患別看護Ⅰ 【統合失調症】	講義	治療処置①精神療法②身体療法③薬物療法④身体拘束・隔離、回復段階①急性期②慢性期③回復期の概念を予習	2時間		
3	疾患別看護Ⅱ 【気分障害】	講義	各疾患の治療処置・段階別看護の予習・復習	2時間		
4	疾患別看護Ⅲ 【パーソナリティ障害】	講義	各疾患の治療処置・段階別看護の予習・復習	2時間		
5	疾患別看護Ⅳ 【発達障害】	講義	各疾患の治療処置・段階別看護の予習・復習	2時間		
6	地域移行への流れとシステム 自立支援法、DALY、偏見、自助グループ、リエゾン	講義	テキスト第10, 11章の関連部分の予習・復習	2時間		
7	精神科以外での精神看護 1. 一般科における精神看護 2. 治療的コミュニケーション	講義	テキスト第8, 10, 11, 終章の関連部分の予習・復習	2時間		
8	プロセスレコードⅠ 目的、アセスメント基準、書き方	講義 演習	テキスト第7章の関連部分の予習・復習	2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学習課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	プロセスレコードⅡ グループワーク (提示症例で作製)	演習	予習：治療的コミュニケーションの復習 復習：グループ発表の準備	2時間	
10	プロセスレコードⅢ グループ発表、講評	演習	予習：グループ発表の準備 復習：発表を聴いての学びと今後の課題	2時間	
11	看護過程Ⅰ 考え方・理論・基本的システム/オレムのセルフケア理論・概念・ケアレベル	講義	参考文献を予習・復習	2時間	
12	看護過程Ⅱ 展開方法と手順(情報収集/関連図/問題と診断/目標/計画/評価)	講義 演習	予習：前回の学びの復習 復習：看護過程の記録	2時間	
13	看護過程Ⅲ 紙上事例を用いて個別作成	演習	看護過程の修正指導を適宜受けられるよう準備・作成	2時間	
14	看護過程Ⅳ 個別作成と個別指導	演習	予習：看護過程の修正指導を受けられるよう作成 復習：完成に向け看護過程の作成	2時間	
15	看護過程Ⅴ 全体の傾向と対策	演習 講義	看護過程が作成でき、完成したものを期限内に提出できるようにする	2時間	
先行履修科目	精神看護学概論				
テキスト	精神看護学②精神看護の基礎(系統看護学講座 専門分野Ⅱ)、医学書院				
参考文献	オレム看護論入門、コニー・M・デニス、訳：小野寺杜紀、医学書院				
評価方法	定期試験 70%、提出物 20%、授業態度 10%				
注意事項	・作成した課題は、実習で活用します。ファイルにまとめ、実習前の復習に使ってください。 ・学習内容は、日常でのコミュニケーションにおいても学びを意識してください。				

【地域志向科目】

科目番号	333002			担当教員	(未定)	
授業科目名	在宅看護学援助論			E-mail		
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)						
授業の概要						
到達目標						
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						

回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
先行履修科目					
テキスト					
参考文献					
評価方法					
注意事項					

【地域志向科目】

科目番号	334001			担当教員	近田 敬子 他	
授業科目名	地域連携・協働支援論			E-mail		
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 介護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生が受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	地域で生活する人々の健康と生活を支えるための保健医療福祉施策(地域包括ケアシステムの構築に焦点を当て)における看護の役割を理解する。そのために人々(患者や利用者を軸に)を支える社会資源の実際とその活用について理解する。また、様々な組織が連携・協働して構築する地域ケアシステムであることを理解し、今後の看護の在り方や役割についてを学ぶ。迫り来る地域完結型の医療において、人々が安全・安心して生きていくために、どのような組織や職種との連携システムを具体化するかを考える。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムという施策の中での看護の役割を理解する。 ・成人・老年・精神・在宅看護学領域における連携・協働に関する実態と今後のあり方を考察する。 ・地域で生活する人々の健康と生活を支える社会資源とその活用を確認する。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の育成する看護力と科目との関連性を把握し、連携・協働の概念を学ぶ。(1) ・地域包括ケアシステムと新看護提供サービスの関連を理解し、今後の連携・協働のあり方を考える。(2) ・地域で患者や利用者が活用できる非専門家による社会資源の場と機能をさぐる。(3) 	講義	3週間の間に、非専門家による社会資源を探求する。(分野分担をする)	2時間 2時間 2時間		
4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・病院から地域社会への看護の継続性と連携・協働についてこれまでの経緯を学ぶ。(1) ・成人領域での看護の継続性と連携・協働についての現在の動向を学ぶとともに、社会資源を確認する。(2) ・地域社会に繋ぐための看護の継続性と連携・協働についての今後のあり方を学ぶ。(3) 	講義	3週間の間に、成人領域における社会資源を探求する。(分野分担をする)	2時間 2時間 2時間		
7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で高齢者とその家族が直面する看護・介護のこれまでの実態を知る。(1) ・地域の中で高齢者とその家族が望む生活を継続させるために取り組んでいる連携・協働の現状と課題を学ぶ。併せて老年領域の社会資源を確認する。(2) ・地域の中で高齢者とその家族が希望する生活を継続させるための看護の連携・協働の今後のあり方を学ぶ。(3) 	講義	3週間の間に、高齢者とその家族が活用できる社会資源を探求する。(分野分担をする)	2時間 2時間 2時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健上の健康問題や障がいをもつ対象者とその家族が希望する生活継続のための地域生活支援とサポートシステムのこれまでの実態を学ぶ。(1) ・精神保健上の健康問題や障がいをもつ対象者とその家族が希望する生活継続のための地域生活支援とサポートシステムの現状を学ぶ。(2) ・精神保健上の健康問題や障がいをもつ対象者とその家族が希望する生活継続のための地域生活支援とサポートシステムの今後の在り方を学ぶ。(3) 	講義	3週間の間に、精神保健上(心のケア含む)の社会資源を探求する。(分野分担をする)	2時間 2時間 2時間	
13 14 15	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における在宅看護のこれまでの連携・協働のあり方の変遷を学ぶ。(1) ・地域における在宅看護の現在のあり様、患者や利用者を支える地域ケアシステムの構築について学ぶ。(2) ・今後の地域ケアシステムのあり方について事例をとおして学ぶ。(3) 	講義	3週間の間に、在宅(拡大した概念で)看護にかかわる社会資源を探求する。(分野分担をする)	2時間 2時間 2時間	
先行履修科目	なし				
テキスト	必要時資料を配付する				
参考文献	配付資料に出典を明示するので、参考文献にすること				
評価方法	小レポート1:15%、小レポート2:15%、小レポート3:15%、小レポート4:15%、小レポート5:15%、授業態度15%、提出物10%				
注意事項					

科目番号	334004			担当教員	近田 敬子	
授業科目名	まちの健康論			E-mail	kchikata@ns.tcn.ac.jp	
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	<p>近年の健康問題の深刻化に伴い、健康ニーズの多様化や「よりよく生きる」ための関心の高まりに対して、人々の主体的な地域健康づくりが重要になっている。</p> <p>そこで、この多様な健康・生活ニーズに柔軟に対応するため、地域における連携・協働を軸にした「まちの保健室」構築の意味・意義を考える。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中に保健室を創設した由来を把握するとともに、「まちの保健室」の多様性を知る。 ・我が国での「まちの保健室」等の現状を調べ、鳥取県の現状と課題を明確化する。 ・「まちの保健室」の意味・意義を考えるとともに、今後の在り方を考察する。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	科目概要を理解するとともに、1・2年生で体験した「まちの保健室」を想起する。	講義	復習：過去に参加した「まちの保健室」のタイプ(場)によって、機能および目的の違いをまとめる。	2時間		
2	「まちの保健室」の発祥の由来と社会的背景を理解する。	講義		2時間		
3	都道府県別に「まちの保健室」等の現状を調査し、分析する。	分担ワーク	予習：分担した地域の現状を調べる。	2時間		
4	分析結果から地域(大区分別)に現状と課題を抽出する。	グループワーク	復習：発表にむけて課題をまとめる。	2時間		
5	「まちの保健室」の現状と課題を発表し、その中で鳥取県の特徴を把握する。	発表講義	復習：「まちの保健室」に対して鳥取県(東部・中部・西部)ではどのようなニーズがあるかを考察する。	2時間		
6	従事者や参加者の声を聴き、既習したことと総合させ、「まちの保健室」の意味・意義と今後の在り方を考える。	体験	予習および復習：3年生としての課題に向き合いながら、「まちの保健室」の意味・意義と今後の在り方をまとめる。	2時間		
7	地域ニーズと今後の在り方を踏まえて、模擬「まちの保健室」を想定し、場と機能を考え始める。	グループワーク	予習：創設の手順を考え、持ち寄る(機能含み、連携・協働を意識する)	2時間		
8	模擬「まちの保健室」創設の計画案を試みる(まとめのレポート)。	講義	復習：レポートは、A4版2枚程度にまとめる(図表含む)。締切：6月2日(月)13時まで	2時間		

先行履修科目	
テキスト	適宜、授業に必要な教材プリントを配布する。
参考文献	「まちの保健室」関連の報告文献を提示する。
評価方法	まとめレポート 60%、分担課題 10%、ワーク等参加度 20%、提出物 10%
注意事項	「まちの保健室」創設の計画案は、保存すること。

〔地域志向科目〕

科目番号	334006			担当教員	細田 武伸	
授業科目名	疫学			E-mail	tkhosoda@cn.ac.jp	
開講年次	3年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	可(5名)					
授業の概要	体における生命現象と疫病のかかわりあいを医学的な知識の集積をとおして知るために、自然・社会的環境の中で人間の集団の健康に影響を与える各種の要因を理解する。本講義では、基本的な疫学的手法として、集団とその集団を構成する人々の健康に関する事象に関し、そのアプローチの方法、評価について予防医学の面から理解し、健康の保持増進、疾病予防に活かすための方策を学ぶ。疫学調査および衛生統計学的手法を用いて、健康と自然的、社会的環境との因果関係を明らかにする方法を理解する。さらに、国民衛生の動向など、既存の資料を読み解き、国家試験に備える					
到達目標	・疫学の目的を理解し、疫学的方法を身につける ・疫学研究方法実践のため、既存の保健統計を利用できるようになる。					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	疫学の概念と集団の健康状態の把握①-有病率と罹患率、死亡率-(疫学とは何か、歴史に学ぶ疫学の原理、有病率と罹患率、死亡率とその比較)	講義	「有病率と罹患率、死亡率」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間		
2	健康状態の把握②-その他指標-(致命率、死因別死亡率、50歳以上の死亡割合、その他指標、それぞれの指標の関係)	講義	「致命率、死因別死亡率、50歳以上の死亡割合」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間		
3	疫学的方法①-研究方法、疫学研究での信頼性と妥当性-(観察研究、介入研究、エビデンスレベル、疫学研究の課題、信頼性、妥当性)について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	講義	「観察研究、介入研究、エビデンスレベル、疫学研究の課題、信頼性、妥当性」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間		
4	疫学的方法②-疫学の因果関係、調査票作成の基礎-(疫学の因果関係立証条件、疫学的因果関係の実際、調査票の作成方法、質問の作成方法)	講義	「疫学的因果関係立証条件、疫学的因果関係の実際、調査票の作成方法、質問の作成方法」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間		
5	疾病予防とスクリーニング(疾病予防の3段階、スクリーニングの概念、スクリーニング検査の評価、スクリーニングの事例、調査研究事例)	講義	「疾病予防の3段階、スクリーニングの概念、スクリーニング検査の評価、スクリーニングの事例」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間		
6	感染症の疫学(感染症の基礎概念、主要な感染症、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、アウトブレイク発生時の調査)	講義	「観察研究、介入研究、エビデンスレベル、疫学研究の課題、信頼性、妥当性」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間		
7	主な疾患の疫学①-循環器疾患の疫学-(心疾患の疫学、心疾患の予防方法と対策、脳血管疾患の疫学、脳血管疾患の予防方法と対策)	講義	「心疾患の疫学、心疾患の予防方法と対策、脳血管疾患の疫学、脳血管疾患の予防方法と対策」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間		
8	主な疾患の疫学②-がんと糖尿病の疫学-(がんの疫学、がんの予防方法と対策、糖尿病の疫学、糖尿病の疫学と対策)	講義	「がんの疫学、がんの予防方法と対策、糖尿病の疫学、糖尿病の疫学と対策」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	主な疾患の疫学③-精神疾患、女性関連疾患、小児疾患の疫学-(精神疾患の疫学、精神疾患の予防方法と対策、女性関連疾患の疫学、女性関連疾患の予防方法と対策、小児疾患の疫学、小児疾患の予防方法と対策)	講義	「精神疾患の疫学、精神疾患の予防方法と対策、女性関連疾患の疫学、女性関連疾患の予防方法と対策、小児疾患の疫学、小児疾患の予防方法と対策」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間	
10	主な疾患の疫学④-骨・関節疾患、歯科疾患、難病の疫学-(骨・関節疾患の疫学、骨・関節疾患の予防方法と対策、歯科疾患の疫学、歯科疾患の予防方法と対策、難病の疫学)	講義	「骨・関節疾患の疫学、骨・関節疾患の予防方法と対策、歯科疾患の疫学、歯科疾患の予防方法と対策、難病の疫学」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間	
11	主な疾患の疫学⑤-環境の疫学、生活習慣の疫学-(環境の疫学、エコチル調査、喫煙、飲酒、栄養、食生活、運動・身体活動、休養・睡眠・ストレス、性行為)	講義	「環境の疫学、エコチル調査、喫煙、飲酒、栄養、食生活、運動・身体活動、休養・睡眠・ストレス、性行為」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間	
12	保健医療分野における情報の管理・活用①-保健医療情報と個人情報情報の取り扱い-(保健医療情報、個人情報保護法、倫理指針、インフォームド・コンセント、情報公開、倫理委員会)	講義	「保健医療情報、個人情報保護法、倫理指針、インフォームド・コンセント、情報公開、倫理委員会」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間	
13	保健医療分野における情報の管理・活用②-既存資料とデータベースの活用、保健医療情報の収集-(既存の統計資料、行政情報、ウェブサイト上の情報公開と活用、文献データベース、保健医療情報の収集方法)	講義	「既存の統計資料、行政情報、ウェブサイト上の情報公開と活用、文献データベース、保健医療情報の収集方法」について、教科書の該当箇所を読んで復習する。	3時間	
14	保健医療分野の情報活用演習①-日本全国と鳥取県の健康情報の比較-(「国民衛生の動向」などを活用して保健医療分野の既存統計資料より、鳥取県の住民の健康状態を読み解く。)	演習	鳥取県の健康状態を調べる。	3時間	
15	保健医療分野の情報活用演習②-鳥取県と倉吉市を中心とした鳥取県中部地域の健康状態の比較-(保健医療分野の既存統計資料より、鳥取県中部地域の住民の健康状態を読み解く。)	演習	鳥取県中部の健康状態を調べる。	3時間	
先行履修科目	人体の構造と機能A、人体の構造と機能B、人体の構造と機能C、人体の構造と機能D、公衆衛生学、疾病論、地域基礎看護学、公衆衛生看護学概論、保健統計学				
テキスト	「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂				
参考文献	「標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計」医学書院				
評価方法	中間試験 50%、定期試験 50%				
注意事項	中間試験の受験を忘れないこと。				

(地域志向科目)

科目番号	331003		担当教員	高田 美子 他	
授業科目名	老年看護学実習		E-mail	ylakata@ns.tcn.ac.jp	
開講年次	3年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	実習	時間数(単位数)	90時間(2単位)		
科目等履修生が受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	老年看護に必要な基礎知識・技術を活用し、老化に伴う変化について諸側面から理解し健康障害を持つ高齢者の健康を回復・維持する過程における援助について学ぶ。また、高齢者とその家族を理解し、高齢者の人権と権利を擁護する態度を養い、自己の高齢者観と看護援助のあり方について考える。高齢者介護施設での看護を学び、病院、施設、地域、他職種との連携、協働を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入院・施設入所が高齢者や家族に及ぼす影響について理解することができる。 ・健康障害を持つ高齢者の特性、個性性を考慮した看護過程を段階的に展開できる。 ・高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> a. 臨地実習現地オリエンテーション 受け持ち患者さんの紹介 b. 指導を受けながら看護師と共にケアに参加・情報収集 c. 指導を受けながら看護師と共にケアに参加・情報収集 d. 指導を受けながら看護師と共にケアに参加・ケア計画発表 e. 指導を受けながら看護師と共にケアに参加ケア計画にそって実践 f. 施設実習現地実習オリエンテーション g. 高齢者の生活の場での指導を受けながら看護師と共にケアに参加 h. 高齢者の生活の場での指導を受けながら看護師と共にケアに参加 i. デイサービス体験 利用者の送迎 j. 学内まとめ 				
自己学習課題(予習・復習)	<p>高齢者看護の基本、および疾患・障がいに関する看護及び介護保険を中心とした社会資源について学習を深めておくこと。</p> <p>老年看護学援助論及び既習科目のまとめ等準備して臨むこと。看護を学ぶものとして、自己の課題を明確にする。</p>				
先行履修科目	基盤看護技術D、老年看護学概論、老年看護学援助論を履修していること。				
テキスト	既習のすべての教科書。				
参考文献	適宜指示				
評価方法	老年看護学実習評価基準により実習目的・目標の達成状況実習記録80%、レポート、カンファレンス20%の内容から総合的に判断する。				
注意事項	オリエンテーションを含め、原則として欠席は認めない。既習の科目のすべてが、実習に必要な科目になる。日ごろから、復習を心掛けること。また、ほとんどの受け持ち患者は、学生より人生経験が多い。その人々にかかわることについて考え、行動すること。				

〔地域志向科目〕

科目番号	332003			担当教員	安田 美彌子 他
授業科目名	精神看護学実習			E-mail	
開講年次	3年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	実習	時間数(単位数)	90時間(2単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	精神保健上の健康問題を持つ対象者とその家族との「患者-援助者関係」を展開し、対象者、家族、及び、自己の理解を深める。受け持ち患者の看護課程を展開し、実際のケアを行う中で、精神疾患精神疾患を持つ人々の健康を回復するための医療や看護の実践を学ぶ。さらに患者の地域生活支援とサポートシステムを学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患をもつ患者の看護過程が、指導者や教員の援助のもとで展開できる。 ・精神科における医療と看護の実践が理解できる。 ・患者の地域生活支援の実践とサポートシステムが理解でき、患者、家族への支援の必要性が理解できる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 精神に障がいをもって入院している患者1名を受け持ち実習する。 オレムの看護論を用いてアセスメントを行い、看護計画を立てる。 看護計画に基づき、指導者の下で看護の実践を行い、評価する。 核施設で行われている作業療法、SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)、学習会に参加する。 デイケアの見学実習を行う 家族会、家族教室などに可能であれば参加する。 実習最終日までに、プロセスレコードと看護過程について発表する。 				
自己学修課題(予習・復習)	精神看護学概論と精神看護学援助論で学んだことを自分のノートを作り確認する。				
先行履修科目	基盤看護技術D、精神看護学概論、精神看護学援助論				
テキスト	精神看護学(1)精神看護の基礎、精神看護学(2)精神看護の展開 医学書院				
参考文献	精神保健福祉 アディクション看護 医学書院 オレム看護論入門 コニー・M・デニス 医学書院				
評価方法	実習内容・記録80%、レポート10%、成果発表(口頭、演習)10%				
注意事項	公共交通機関利用中の、安全と個人情報保護への配慮に努めてください。				

科目番号	341003			担当教員	前田 隆子	
授業科目名	家族看護学			E-mail		
開講年次	2年 前期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間 (1単位)			
科目等履修生はか受入(受入可能人数)		可(5名)				
授業の概要	<p>家族の定義、家族を特徴づけるもの、多様な家族像について教授し、家族を支援する専門職としての視点を養う。家族の基本概念(家族の構造・機能、家族の発達段階、家族システム)と家族看護の基礎となる理論、家族アセスメントと家族介入の方法について理解し、家族の特性別に具体的な事例を通して家族看護の実際について学ぶ。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家族とは、家族の発達段階、家族システムが理解できる。 ・家族アセスメントと家族介入の方法について理解できる。 ・様々な分野における家族看護が理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	家族看護学、家族看護学の歴史	講義	家族看護学の歴史	1時間		
2	家族とは、家族の機能、システムとしての家族	講義	家族とは、家族の機能	1時間		
3	家族のライフサイクル、家族のコミュニケーション、家族と危機	講義	家族発達	1時間		
4	カルガリー式家族看護モデル(1)	講義	システム理論	1時間		
5	カルガリー式家族看護モデル(2)	講義	カルガリー式家族アセスメントモデル 家族発達のアセスメント、家族機能	1時間		
6	カルガリー式家族看護モデル(3)	講義	介入モデル	1時間		
7	渡辺式家族アセスメントモデル	講義	家族適応の二重 ABCX モデル	1時間		
8	家族情報収集、ジェノグラム、エコマップ	講義	ジェノグラム、エコマップ	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
9	家族インタビュー	講義/演習	紹介する文献の購読	1時間	
10	苦悩する家族の物語・グループワーク(1)	グループワーク	グループワークの課題の準備	2時間	
11	苦悩する家族の物語・グループワーク(2)	グループワーク	グループワークの課題の準備	2時間	
12	苦悩する家族の物語・グループワーク(3)	グループワーク	発表準備	2時間	
13	発表	発表	まとめのレポート作成	1時間	
14	まとめ	講義	発表事例への介入法	1時間	
15	家族支援専門看護師としての病院における家族看護の取り組み	講義	紹介された文献購読	1時間	
先行履修科目					
テキスト	小林奈美著、家族看護論(医歯薬出版)				
参考文献	ファミリーナーシングプラクティス(医学書院)				
評価方法	定期試験 50%、レポート 20%、発表 20%、提出物 10%				
注意事項	毎回、テキストを読んで出席すること。				

科目番号	341006			担当教員	中村 登美子	
授業科目名	リスクマネジメント論			E-mail		
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修		資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)		不可				
授業の概要	医療安全対策について総論的概要を理解する。法的根拠及び看護者の倫理綱領から看護者の役割と機能はなんであるかを理解し、事故防止と対策についての知識を習得する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全の考え方と法的責任について説明できる。 ・チームで行う看護職の仕事の特徴と事故防止、リスクの分析法について説明できる。 ・安全文化の醸成と安全管理の効果的な方法について説明できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学習課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	看護学生の実習中の事故と法的責任 安全に実習するために必要なこと	講義	基盤看護実習の体験を安全・リスクの視点で振り返る(復習)	1時間		
2	医療事故の特徴と事故発生時の対応 ADR(裁判外紛争処理)について	講義	コンフリクト(葛藤)と紛争(対立)について(復習)	1時間		
3	看護業務の特徴的な環境とリスク 主な医療事故の背景と対策	講義	主な医療事故の背景と対策のまとめ(復習)	1時間		
4	在宅看護の現状と医療事故・介護事故の特徴	講義 テスト	在宅看護について、医療施設での医療・看護との違い(予習)	1時間		
5	医療安全の考え方(To Err is Human) と患者主体の医療 医療事故への患者・家族との協同の取組	講義	医療事故(医療過誤・インシデント他)の定義を整理(復習)	1時間		
6	医療安全対策(医療法の改正ほか)の経緯と医療の質の評価	講義	医療の質を評価する物差しの一つ 褥瘡裁判の理解を深める(復習)	1時間		
7	医療従事者の安全を脅かすリスク 医療安全管理者の役割	講義	医療従事者の環境に潜むリスクについて調べる(予習)	1時間		
8	主な医療事故(転倒転落・誤薬・針刺他)についてSHEL法を用いて分析	演習 テスト	事故分析の手法のうちSHEL法についてその要因を分類する(予習)	1時間		

先行履修科目	
テキスト	看護の統合と実践② 医療安全 編集 松下由美子 メディカ出版
参考文献	「看護教育」「アンフィニ」などの判例解説
評価方法	定期試験 50%、小テスト 40%、授業態度: 10%
注意事項	

科目番号	341007		担当教員	田中 馨	
授業科目名	リフレクション論と実践		E-mail	l_hibiki@nns.tcn.ac.jp	
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修		資格選択区分 看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)		
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可				
授業の概要	リフレクションの概要を把握し、その過程を実際の体験とつなげて学ぶ。実習における学生の体験を題材とし、「一人の看護者として」他者に向き合う自己を振り返り、自己を理解する。さらに、ケアを受ける人の価値観、ニーズを尊重することの必要性と重要性を理解する。学生自らが、自分のコミュニケーションや観察の技術を振り返り、自己の課題と目標を明確にし、実践する力の向上をめざす。さらに、自分の経験を客観的に見直す思考を養う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションの定義、意義、リフレクションに必要なスキルを理解する。 ・リフレクションの方法を理解する。 ・リフレクションを実施し、リフレクションの意義を実感する。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
1	リフレクションとは	講義	テキストを読んでおく	1時間	
2	リフレクションしてみる①	講義	自身の生活の中でリフレクションしてみたいことを考えておく	1時間	
3	リフレクションしてみる②	講義	リフレクション用紙を用いてリフレクションしておく	1時間	
4	実習での学び「受け持ち患者との関わりの中でリフレクションする」①	講義	実習における患者との関わりを振り返っておく	1時間	
5	実習での学び「受け持ち患者との関わりの中でリフレクションする」②	講義	リフレクション用紙を用いてリフレクションする	1時間	
6	グループでリフレクションする①	講義	自身のリフレクション事例を完成させておく	1時間	
7	グループでリフレクションする②	講義	グループでディスカッションでできるよう準備する	1時間	
8	まとめ・発表	講義	発表できるように準備する	1時間	

先行履修科目	基盤看護学実習を履修しておくこと
テキスト	看護リフレクション入門 東めぐみ ライフサポート社
参考文献	リフレクションに関するもの等、授業で提示する。
評価方法	レポート75%、提出物10%、授業態度10%、発表5%
注意事項	基盤看護学実習での学びをリフレクションします。実習での学びをしっかりと記録しておきましょう。授業について連絡事項を掲示する場合がありますので、必ず、1階の掲示板を見るようにしてください。

科目番号	341009			担当教員	美鮎 智代	
授業科目名	災害看護論			E-mail		
開講年次	2年 後期	必修・選択	必修	資格選択区分	看護師資格必修 保健師資格必修 養護教諭二種免許必修	
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	被災者の生命、健康、生活を支えるための災害看護の基本的な知識や技術について学ぶ。また、発災直後および中・長期にわたり必要となる看護活動について学び、災害看護活動に参加できる基礎的能力を習得する。災害時に様々な専門職種やボランティアとの連携から成り立つサポートシステムの在り方についても学ぶ。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害看護の基礎となる危機管理、災害の歴史、定義、種類、法律、制度について理解できる。 ・災害サイクル各期における特徴と健康問題、災害看護の役割と活動を理解することが出来る。 ・災害時に必要な看護技術(トリアージ、搬送等)を習得する。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	災害看護の歴史、現状、課題 ・災害の歴史に学ぶ ・災害看護の発展と今後の課題 ・日本および世界における災害と救済活動 ・チーム医療とインタープロフェッショナル・ワーク	講義	教科書 p2~26 を予習 ・日本の災害および世界の災害について調べておく	0.5時間		
2	災害と災害看護に関する知識 ・災害の定義、種類、疾病構造、災害医療 ・災害看護の定義と災害サイクル別にみる看護の役割 ・知っておくべき災害関連法規 ・災害看護活動における倫理と心構え	講義	教科書 p28~p82 を予習 ・災害から守る備えについて自身が考え、家族と話し合う ・災害関連法案について調べておく	1時間		
3	災害看護の実践に必要な知識・技術 ・災害急性期の看護と救急看護の違い ・災害中長期の看護	講義	教科書 p84~94 を予習	0.5時間		
4	トリアージについて ・災害現場における被災傷病者の救護過程 ・一次トリアージおよび二次トリアージ ・トリアージの演習 ・トリアージタグ記載について	講義 演習	教科書 p95~p112 を予習 ・演習の振り返りをグループで行う	1時間		
5	災害時の看護活動の実際 ・災害急性期の看護 ・災害中長期の看護	講義	教科書 p124~179 を予習 ・東日本大震災時の看護活動を調べておく	1時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
6	災害時の看護活動の実際 ・静穏期における災害看護の取り組み ・災害時の保健活動(保健師の活動) ・災害時要援護者への看護	講義	教科書 p180~188 を予習 ・各自の地域の「自主防災組織」について調べておく ・災害時要援護者とはどういう対象なのか調べておく	1時間	
7	被災者と支援者に対する「心のケア」 ・被災者の心理過程 ・心のトリアージ ・援助者のストレスとストレスマネジメント	講義	教科書 p202~p218 を予習 ・被災ストレスについて調べておく	0.5時間	
8	災害に備えた病院防災 ・病院防災の考え方 ・災害時に対応できるマニュアルの考え方・活かし方	講義	教科書 p224~239 を予習	0.5時間	
先行履修科目					
テキスト	「看護 心得ておきたい基本的な知識」南山堂 監修：小原真理子、酒井明子				
参考文献	「例を通して学ぶ避難所・仮設住宅の看護ケア」日本看護協会出版会 著：黒田裕子、沖崎初美				
評価方法	定期試験 70%、レポート 20%、授業態度 10%				
注意事項	災害に関するニュース、新聞などから災害医療、災害看護、災害ボランティアなどに対し関心を持ち、新聞ノートを作成しましょう。また、自主防災活動について調べ、機会があれば参加してみましよう。				

科目番号	341001			担当教員	田中 馨	
授業科目名	看護活動と研究			E-mail	t_hibiki@ns.tcn.ac.jp	
開講年次	3年前期	必修・選択	必修			
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生が受入(受入可能人数)		可(3名)				
授業の概要	<p>看護研究における研究の意義・目的と看護研究の一般的な進め方を理解する。さらに看護研究を進めるための文献クリティークの必要性と方法がわかる。</p> <p>倫理的問題の歴史から研究に求められる対象者の権利擁護の観点を理解し、倫理的な研究計画、実践について考察する。</p> <p>現場の看護をよりよくしようと試みる探求心をもった看護者になるための基礎的な知識・態度を習得する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 看護研究における研究の意義・目的と看護研究の一般的な進め方を理解する。 看護研究は研究の正確性や秘密性を守る事、対象者への道義的配慮の重要性が理解できる。 研究は疑問に答えたり、問題を解決したりするために、組織立った科学的方法を用いて行う系統的な探求であることが理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	看護実践と看護研究	講義	看護研究のテキストを読む(予習)	1時間		
2	看護実践から研究へ	講義	興味のある研究テーマを考えてくる(予習)	1時間		
3	関連する文献を検討する	講義	研究テーマに関連する文献を探しておく(予習・復習)	1時間		
4	クリティーク	講義 演習	文献を検討する(予習・復習)	1時間		
5	研究計画書を立てる	講義	テキストを読んでおく(予習)	1時間		
6	データ収集・分析	講義	テキストを読んでおく(予習)	1時間		
7	研究結果の活用	講義	テキストを読んでおく(予習)	1時間		
8	看護基礎教育における研究	講義	事例研究における文献を探しておく	1時間		

先行履修科目	統計学、保健統計学を履修していることが望ましい。
テキスト	看護における研究 南裕子著 日本看護協会出版会
参考文献	早川和生(編著):JNNスペシャル 看護研究の進め方 論文の書き方 医学書院 川村佐和子(編):ナースング・グラフィカ 基礎看護学 看護研究 メディカ出版
評価方法	レポート80%、小テスト10%、授業態度10%
注意事項	テキスト事前に熟読し、授業に臨むこと。

科目番号	341008			担当教員	山根 隆治	
授業科目名	生活リハビリテーション論			E-mail	lakaharu_yamano@hosp.misasa.tottori.jp	
開講年次	3年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)		可(若干名)				
授業の概要	リハビリテーションという言葉の持つ意味を理解し、代表的な疾患のリハビリテーションについて急性期から維持期までの流れを理解する。また看護の視点から生活をみていく上で必要なポジショニングや介助技術といった実技を習得する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 『知識』急性期から維持期の各ステージにおけるリハビリテーションの関わりを知ったうえで、看護の立場から急性期ベッドサイドでの注意点、回復期・維持期における援助方法を理解し実践する。 『技術』シーティングやポジショニングにおける問題点を理解し、トランスファーなどの介助技術を知ることによって安全・安心な看護を実践する。 『態度』自分の考え・意見を積極的に発言できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学習課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	リハビリテーション概論	講義	【予習】特に調べて書く必要はないが、リハビリテーションと聞いて自身がイメージするものを5箇条書きにして提出。 A-4サイズのレポート用紙使用	0.25時間		
2	各時期におけるリハビリテーションの役割	講義	【復習】授業を聞いて最も興味深かった内容について400字程度の感想文として次回提出	0.5時間		
3	疾患別リハビリテーションⅠ(整形外科領域)	講義	『予習』授業で出された課題について答えられるように準備すること	0.5時間		
4	疾患別リハビリテーションⅡ(内科領域)	講義	『予習』授業で出された課題について答えられるように準備すること	0.5時間		
5	シーティングとポジショニング	講義 実技	『予習』授業で出された課題について答えられるように準備すること	0.5時間		
6	福祉用具の活用	講義 実技	『予習』授業で出された課題について答えられるように準備すること	0.5時間		
7	介護技術・知識	講義 実技	『復習』授業を聞いて「難しかった」と感じた内容をA-4、1枚にまとめて提出	0.5時間		
8	医療者自身の健康管理(腰痛対策を中心に)	講義 実技	『予習』普段自身で健康に気を付けて実践していることがあれば発表できるようにしておく	0.25時間		

先行履修科目	
テキスト	授業ごとに担当者がプリントを準備する。
参考文献	もっと!らくらく 動作介助マニュアル 医学書院 著者 山本康稔・佐々木良
評価方法	定期試験 50%、授業態度 30%、提出物 20%
注意事項	正解を答える必要はなく、間違っているでもいいので授業における積極的な発言・態度を評価する。

【地域志向科目】

科目番号	341010			担当教員	(未定)	
授業科目名	国際看護論			E-mail		
開講年次	3年 前期	必修・選択	選択	資格選択区分		
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)						
授業の概要						
到達目標						
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						

先行履修科目	
テキスト	
参考文献	
評価方法	
注意事項	

科目番号	351001			担当教員	黒沢 洋一
授業科目名	保健統計学			E-mail	
開講年次	2年 後期	必修・選択	選択	資格選択区分	保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	30時間(2単位)		
科目等履修生はか受入(受入可能人数)	可(5名)				
授業の概要	地域住民、学校、職域などの集団を対象とした健康問題を解決する際に、複雑に絡み合った要因を分析し、健康水準を高める方策を探求する方法について学習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康現象を説明するために基本的な保健統計を活用できる。 地域等集団の健康に関する情報、指標の動向を理解・分析できる。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
1	保健統計とは 人口	講義	人口、人口動態統計、人口動態統計、合計特殊出生率、少子高齢化社会	2時間	
2	罹患率・有病率	講義	罹患率と有病率の違い	2時間	
3	死亡率	講義	年齢調整死亡率、標準化死亡比、致命率	2時間	
4	母子保健統計	講義	死産率、周産期死亡率、新生児死亡率、乳児死亡率、妊産婦死亡率 児童虐待	2時間	
5	働く世代の保健統計	講義	不慮の事故、自殺、産業保健 生活習慣病	2時間	
6	高齢者の保健統計 医療の保健統計	講義	認知症、ADL、介護保険、医療 制度、医療関係者	2時間	
7	保健統計資料	講義	患者調査、国民生活基礎調査、国民 栄養調査	2時間	
8	保健統計演習	演習	第1-7回までの内容の演習を行います。	2時間	

回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
9	統計の基礎 特性値	講義	平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、正規分布	2時間	
10	母集団 標本 推定	講義	母集団 標本 中心極限定理、推定、信頼区間	2時間	
11	差の検定	講義	差の検定とは、帰無仮説、p値 Wilcoxon 順位和検定、t検定	2時間	
12	比率の差の検定	講義	分割表、 χ^2 乗検定	2時間	
13	相関・回帰	講義	相関とは、散布図、相関係数	2時間	
14	生存分析	講義	カプランマイヤー法	2時間	
15	統計の演習	演習	第9-14回までの内容の演習を行います。	2時間	
先行履修科目					
テキスト	標準保健師講座 疫学・保健統計学 医学書院				
参考文献					
評価方法	定期試験 100%				
注意事項	電卓、または表計算ソフト Excel (エクセル) が使用できることが望ましい。				

科目番号 もかもと	351002 学校保健			担当教員 E-mail	岡本 幹三 mokamoto@mcd.tottori-u.ac.jp	
開講年次	3年 前期	必修・選択	選択		資格選択区分	保健師資格必修 栄養教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(2名)					
授業の概要	子供たちの心とからだの健全なる発育発達のため、学校保健をめぐる現状と課題を把握し、問題解決ができる能力・スキルの修得を念頭に、学校保健のしくみと役割について理解した上で、学校保健の基礎となる保健教育と保健安全管理および保健組織活動に関する理論と実践について学習し、教育現場でのヘルスプロモーションに即した子どもたちの健康づくりと環境づくりを考えるために保健教室のテーマを設定・シナリオ作成・発表を試みる。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの心とからだの健康に関心・興味を持ち、今日的課題について理解・把握できる。 ・健康生活の基盤づくりのための問題点を明らかにして、行動変容の方策が考えられる。 ・保健組織活動の重要性を認識し、保健教室のシナリオを作成し、お互いに発表できる。 ・保健教室のテーマの設定、発表内容や発表方法などについて問題点を整理し評価できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学習課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	・学校保健の現状と問題点 ・学校保健のしくみと役割 ・保健教育・保健管理・安全管理	講義	・近年の子どもたちの心とからだの健康問題に関する情報収集 ・授業内容の確認	2時間		
2	・健康診断 ・感染症予防 ・学校環境衛生 ・食育と学校給食	講義	・健康診断、感染症予防、学校環境衛生、食育と学校給食などの授業内容について確認	2時間		
3	・現代生活と児童・生徒の健康 ・思春期から青年期の健康	講義	・最近の子どもたちに増えている健康問題 ・青少年期における問題行動 ・授業内容の確認	2時間		
4	・健康生活の基盤づくり ・保健学習 ・保健指導】保健教育	講義	・保健学習の目的・内容 ・保健指導の実践 ・授業内容の確認	2時間		
5	・地域保健活動の事例紹介 ・ヘルスプロモーション ・行動変容を目指した保健教室 ・グループ分け・テーマの設定	演習	・地域保健活動(組織・PDCAサイクル) ・ヘルスプロモーションの理解 ・行動変容の理解・評価 ・授業内容の確認	2時間		
6	・グループ分け・討論 ・テーマの設定・見直し ・シナリオ作成	演習	・子どもたちの生活習慣をめぐる健康問題に関する文献検索(情報収集) ・授業内容の確認	2時間		
7	・保健教室のシナリオ作成 ・発表のまとめ ・リハーサル	演習	・文献・資料の収集(情報収集) ・発表方法(言葉・資料・表現・まとめ、図表、小道具など) ・授業内容の確認	2時間		
8	・保健教室の発表・評価	演習	・予習として発表のリハーサル ・テーマの設定の見直し ・情報収集の問題点 ・発表のむずかしさ・問題点整理	2時間		

先行履修科目	小児保健、公衆衛生学、衛生統計を履修することが望ましい
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法に対応した 学校保健 ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化 編著：徳山美智子、中桐佐智子、岡田加奈子 東山書房 ・毎回講義・演習内容に沿った配布資料とプレゼンテーション
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> ①学校保健マニュアル(編集：衛藤隆、岡田加奈子、南堂) ②学校保健ハンドブック(教員養成系大学保健協議会/編、ぎょうせい) ③エキスパートから学ぶ 健康教育・栄養相談・生活習慣改善指導 生活習慣病予防と管理(編著：日野原茂雄、和田高士、ライフ・サイエンス・センター) ④行動科学 健康づくりのための理論と応用(編集：畑栄一、土井由利子、南江堂) ⑤効果をあげる健康教育、成果のあがる健康づくり(日野原重明、日野原茂雄、菊田文夫、石井敏弘、ライフ・サイエンス・センター) ⑥機関誌 学校保健研究 日本学校保健学会 ⑦生活習慣病予防マニュアル(編集：大野良之、柳川洋、南山堂)
評価方法	定期試験 50%、授業態度 20%、発表 30%
注意事項	常に問題意識をもって学習する態度を心がけること。わからないことは遠慮せず質問すること(聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥)。周囲の迷惑を考えて、私語は慎むこと。良き学生である前に、良き常識人であれ!

科目番号	351003			担当教員	細田 武伸	
授業科目名	産業保健			E-mail	lkhosoda@tcn.ac.jp	
開講年次	3年 前期	必修・選択	選択		資格選択区分	保健師資格必修 看護教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	15時間(1単位)			
科目等履修生ほか受入(受入可能人数)	可(5名)					
授業の概要	<p>事業場、職域における健康支援・管理、作業管理、作業環境管理、マネジメントシステムなどから労働と健康問題を学ぶ。</p> <p>産業の場で働く人々を対象とし、労働と健康問題・健康の確保、作業関連疾患、労働環境、労働衛生管理体制・組織、リスクマネジメント・労働安全衛生マネジメントシステム等について概観する。また、保健指導・健康相談、心と身体の健康づくり・心理相談などに関するサポートのあり方等産業保健・看護の基本的な視点と支援方法について学ぶ。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 労働衛生領域の健康問題と健康支援を、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生管理体制、マネジメントシステムの各視点から理解を深める。 産業保健・看護の活動を展開する上での基本的事項について、口頭にて説明できるようになる。 労働者の特性に応じた健康支援の展開と労働衛生と地域保健の共同について理解を深める。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	産業保健における健康課題(職業性疾患、作業関連疾患、産業保健領域での近年の健康課題と労働衛生の現状と労災補償制度について)	講義	教科書の「職業性疾患、作業関連疾患、産業保健領域での近年の健康課題と労働衛生の現状と労災補償制度」の箇所を読んで復習する。	3時間		
2	労働者の健康確保のための予防体制(労働衛生管理体制・組織とスタッフ、3管理、リスクマネジメント、労働安全衛生マネジメントシステム)	講義	教科書の「労働衛生管理体制・組織とスタッフ、3管理、リスクマネジメント、労働安全衛生マネジメントシステム」の箇所を読んで復習する。	3時間		
3	職域におけるメンタルヘルス対策(メンタルヘルスの現状とこころとからだの健康づくり体制、産業看護職と心理職等の連携した労働者への対応事例、こころとからだの健康づくりの今後の課題)	講義	教科書の「メンタルヘルスの現状とこころとからだの健康づくり体制、産業看護職と心理職等の連携した労働者への対応事例、こころとからだの健康づくり」の箇所を読んで復習する。	3時間		
4	産業保健・看護の活動を展開する上での基本的事項(産業看護職の職務、保健計画の立案と評価、活動の実際、今後の課題と活動のあり方について)	講義	教科書の「産業看護職の職務、保健計画の立案と評価、活動の実際、今後の課題と活動」の箇所を読んで復習する。	3時間		
5	労働者の特性に応じた健康支援(1) (女性労働者への支援方法、活動の実際と課題)	講義	教科書の「女性労働者への支援方法、活動の実際と課題」の箇所を読んで復習する。	3時間		
6	労働者の特性に応じた健康支援(2) (高齢労働者への支援方法、活動の実際と課題)	講義	教科書の「高齢労働者への支援方法、活動の実際と課題」の箇所を読んで復習する。	3時間		
7	労働者の特性に応じた健康支援(3) (障がいのある労働者への支援方法、活動の実際と課題)	講義	教科書の「障がいのある労働者への支援方法、活動の実際と課題」の箇所を読んで復習する。	3時間		
8	労働者とその家族への継続した健康支援、地域保健と産業保健の共同(地域の保健師・看護師と産業看護職の行う健康支援の連携の実際と今後の課題)	講義	教科書の「地域の保健師・看護師と産業看護職の行う健康支援の連携の実際と今後の課題」の箇所を読んで復習する。	3時間		

先行履修科目	人体の構造と機能A、人体の構造と機能B、人体の構造と機能C、人体の構造と機能D、公衆衛生学、地域基礎看護学、疾病論A、疾病論B、公衆衛生看護学概論、保健統計学
テキスト	「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂
参考文献	標準保健師講座 別巻3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院、「労働衛生のしおり」中央労働災害防止協会
評価方法	試験50%、提出物50%
注意事項	復習を忘れないこと。

科目番号	411001			担当教員	矢倉 紀子	
授業科目名	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ			E-mail	nyakura@nns.tcn.ac.jp	
開講年次	3年前期	必修・選択	選択		資格選択区分	保健師資格必修 養護教諭二種免許必修
授業形態	講義	時間数(単位数)	45時間(3単位)			
科目等履修生以外受入(受入可能人数)	不可					
授業の概要	公衆衛生看護活動を展開するために必要な理論と方法について、対象を発達段階別および健康課題別に対応させて理解する。 公衆衛生看護活動を展開するための技術について理解する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・母子、成人、高齢者など発達段階別に対応した保健活動の歴史的経過、法的根拠、保健師の役割と活動について述べることができる。 ・難病、障害者(児)、精神保健、歯科口腔などの健康課題に対応した保健活動の歴史的経過、法的根拠、保健師の役割と活動について述べるができる。 ・公衆衛生看護活動を展開するためのグループ支援・組織化、家庭訪問について説明ができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者	
1	母子保健活動 母子保健概論 母子保健施策 母子保健計画	講義	公衆衛生看護学概論で学習した母子保健の歴史について復習 教科書 p. 238～250 を予習 「国民衛生の動向」の p. 109～119 を熟読	1時間		
2	母子保健活動 母子保健活動の実際 健康上のリスクをもつ母子への保健指導	講義	教科書 p. 250～260 を予習 母子保健に関連する法律を熟読(教科書の保健師必携法律集 p. 9～15)	0.5時間		
3	成人保健活動 成人保健概論 成人保健施策	講義	公衆衛生看護学概論で学習した成人保健の歴史について復習 教科書 p. 261～268 を予習 成人保健に関連する法律を熟読(教科書の保健師必携法律集 p. 15)	1時間		
4	成人保健活動の実際 成人保健の実際 成人期の主な生活習慣病と保健指導	講義	教科書 p. 268～281 を予習 「国民衛生の動向」の p. 94～108 を熟読	0.5時間		
5	高齢者保健活動 高齢者保健概論 高齢者保健施策	講義	公衆衛生看護学概論で学習した高齢者保健の歴史について復習 教科書 p. 282～291 を予習 高齢者保健に関連する法律を熟読(教科書の保健師必携法律集 p. 15～17)	1時間		
6	高齢者保健活動 高齢者保健活動の実際 要支援・要介護高齢者及び介護者の特性	講義	教科書 p. 291～305 を予習 「国民衛生の動向」の p. 250～261 を熟読	0.5時間		
7	難病保健活動 難病保健概論 地域の難病療養者の生活 地域の難病療養者と保健師活動	講義	教科書 p. 306～319 を予習 「国民衛生の動向」の p. 173～178 を熟読	0.5時間		

回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
8	障害者(児)保健活動 障害者(児)保健概論 障害者(児)保健施策	講義	教科書 p. 320～330 を予習 障害者(児)保健に関連する法律を熟読(教科書の保健師必携法律集 p. 23～28)	1時間	
9	障害者(児)保健活動 障害者(児)の生活特性と自立支援	講義	教科書 p. 320～330 を予習	0.5時間	
10	精神保健活動 精神保健概論 地域集団の健康問題と保健師活動	講義	公衆衛生看護学概論で学習した精神保健の歴史について復習 教科書 p. 282～291 を予習 精神保健に関連する法律を熟読(教科書の保健師必携法律集 p. 25～26)	1時間	
11	精神保健活動 精神障害者の生活特性と保健師活動 注目される健康問題	講義	教科書 p. 345～356 を予習 [国民衛生の動向]の p. 126～130 を熟読	0.5時間	
12	感染症保健活動 感染症保健概論 感染症に関わる保健師の活動	講義	教科書 p. 357～366 を予習 [国民衛生の動向]の p. 139～159 を熟読	0.5時間	
13	感染症保健活動 主な感染症と保健師活動 結核対策における保健師活動	講義	教科書 p. 367～388 を予習 感染症予防に関連する法律を熟読(教科書の保健師必携法律集 p. 28～30)	1時間	
14	歯科口腔保健活動 歯科口腔保健概論 歯科口腔保健施策と保健師活動 主な歯科疾患の保健指導	講義	教科書 p. 393～401 を予習 [国民衛生の動向]の p. 133～137 を熟読	0.5時間	
15	地域包括ケア 地域包括ケアの動向 地域包括ケアにおける保健師活動	講義	テキスト 2. の p. 298～312 を予習	0.5時間	
16	地域におけるグループ支援・組織化①グループ支援	講義	教科書 p. 149～151 を予習、地域のグループ活動について調べておく	0.5時間	
17	地域におけるグループ支援・組織化②グループ支援における保健師の役割	演習	教科書 p. 156 を予習、地域のグループ活動と保健師活動のかかわりを調べておく	1時間	
18	地域におけるグループ支援・組織化③グループの育成支援と組織化、地域活動への発展	講義	教科書 p. 158～p. 161 を予習、地域のセルフヘルプ・グループを調べておく	0.5時間	

回	授業内容	授業方法	自己学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
19	住民組織・地区組織の育成 ① 地区組織化活動のプロセス	講義	教科書 p163～p164 を予習、地域の地区組織活動を調べておく	0.5 時間	
20	住民組織・地区組織の育成 地区組織の支援における評価視点	講義	教科書 p164～165 を予習、地域の中の活動の場所・参加者について調べておく	0.5 時間	
21	地域ケアシステム ① 地域ケアシステム概論 地域ケアシステムにおけるチームワーク	講義	教科書 p166～173 を予習、「ネットワーク」、「コーディネーター」、「ケアマネジメント」について調べておく	1 時間	
22	家庭訪問 家庭訪問の目的・対象・技術	講義 演習	教科書 p177～p180 を予習、法的根拠について調べておく	0.5 時間	
23	家庭訪問 ① 家庭訪問のプロセス	講義 演習	教科書 p181～p187 を予習、演習について、グループで事前学習しておく	0.5 時間	
先行履修科目	地域基礎看護学、公衆衛生看護学を履修すること。				
テキスト	1. 公衆衛生看護学：荒賀直子、後閑陽子編集、インターメディカル 2. 標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動：中谷芳美他、医学書院 3. 標準保健師講座 第2巻 地域看護技術：中谷芳美他、医学書院				
参考文献	国民衛生の動向 2016/2017、厚生労働統計協会 コミュニティアスパートナー 地域看護学海苔論と実際 第2版：エリザベスT、アンダーソン、ジュディス・マクファーレイ、金川克子、早川和生監訳、医学書院				
評価方法	定期試験 80%、レポート 20%				
注意事項	テキストは2年次に購入したテキスト 1 を主に使用するが、副教材としてテキスト 2、3 を4年次まで使用する。				

[地域志向科目]